

松庵発「宇宙連詩」

★ 星の かい ばん 回覧板 らん



松庵小地域子育てシンポジウム実行委員会 編

はじめに

.....

松庵地域の子育て中のお母さんから、地域の人たちと世代を超えたつながりをもっと持ちたいという声が寄せられました。実現の手段として宇宙航空研究開発機構（JAXA）が進めている「宇宙連詩」に参加させていただきました。

テーマ
「ひろかれ つながれ！心のきずな ^{いのち} 生命の輝き」

「学校学級宇宙連詩」に参加した松庵小学校 4 年 1 組、2 組の児童は、自分でもびっくりしたり感動するようなたくさんの言葉を友だちとつむぎました。

地域で回した「星の回覧板」の中では、保護者の方々や子どもたち、世代を超えた地域の人たちがいっしょになって言葉のリレーを行いました。

より豊かなひろがり、つながりのきっかけになったのではないのでしょうか。

詩人の谷川俊太郎さん、覚和歌子さんには、この活動の趣旨に賛同していただき多大なご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

宇宙連詩とは

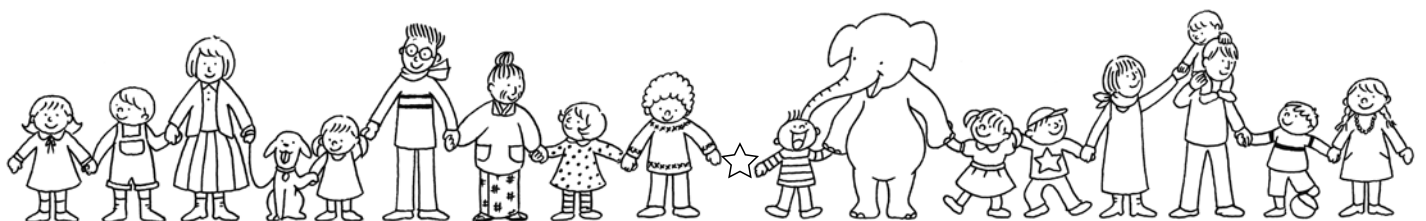
.....

「宇宙」・・・みなさまが作った連詩は DVD に収録して宇宙航空研究開発機構（JAXA）から国際宇宙ステーションの「きぼう」に届けられます。「きぼう」は松庵地域、世界中から明るく輝く星として肉眼で見ることができます。

「連詩」・・・著名な詩人の大岡信氏により、日本伝統文化の連歌・連句を発展させて生まれ、世界中に広められてきました。



はじめに	2	星の16丁目（やぶそば発）	59
エールのことば	4	星の17丁目（おばあちゃんの玉手箱発）	60
連詩の作り方・「星の回覧板」の活動記録	5	星の18丁目（松庵小野球チーム発）	63
第1詩・第2詩	6	星の19丁目（松庵ミニバスケットクラブ発）	65
星の4年1組	7	星の20丁目（松庵小先生発）	70
星の4年2組	11	星の21丁目（わくサタ発）	73
星の1丁目（子育てネットワーク発）	15	星の22丁目（卓球同好会発）	77
星の2丁目（11/11 地域発）	17	星の23丁目（手芸&クラフト同好会発）	78
星の3丁目（11/11 地域発）	19	星の24丁目（SYC 発）	80
星の4丁目（11/11 地域発）	22	星の25丁目（犬仲間発）	82
星の5丁目（11/11 地域発）	25	星の26丁目（4 地区 1 班発）	84
星の6丁目（11/11 地域発）	28	星の27丁目（水口病院発）	87
星の7丁目（11/11 地域発）	30	星の28丁目（松寿司発）	90
星の8丁目（11/11 地域発）	34	星の29丁目（12/13 地域発）	90
星の9丁目（まこと幼稚園発）	37	星の30丁目（12/13 地域発）	93
星の10丁目（まこと幼稚園発）	39	星の31丁目（12/13 地域発）	95
星の11丁目（松庵児童館発）	41	星の32丁目（12/13 地域発）	98
星の12丁目（松庵保育園発）	44	星の33丁目（松庵小卒業生保護者発）	101
星の13丁目（玉成卒園生保護者発）	49	星の34丁目（12/13 地域発）	103
星の14丁目（松庵小サッカークラブ発）	51	星の35丁目（下井草なかせつながり発）	105
星の15丁目（バドミントン同好会発）	56	星の36丁目（杉並区役所発）	109



エールのことば

.....

人間のコトバばかりでは星には通じません。少し無理して星に通じるコトバを探してください。それはもしかすると、人には通じないコトバかもしれませんが、その波動はきっと宇宙に広がっていくはずです。宇宙はどこか遠くにあるものではなく、いまここに自分の目の前にあると私は信じています。私たちは地球人だから宇宙人なのです。

谷川俊太郎

時代に向かってあらゆる危機の波が打ち寄せています。子育ても例外ではありません。不確実な未来を前に見すえてお母さんたちもきっと不安を抱えていらっしゃると思います。たった今日の前にある、出来ることからひとつずつ、愛と集中力を持って誠実に取り組んでいく。難しい時代だからこそ、「基本」を忘れないようにしたいものです。

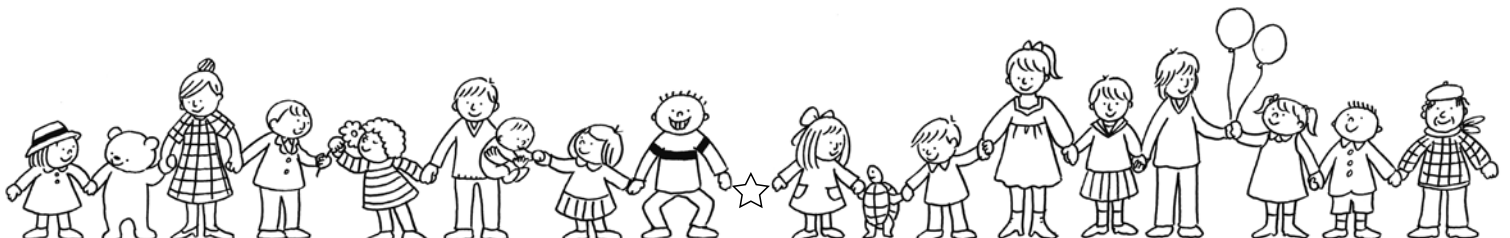
詩人は「言葉とところと身体」の三位一体を理想として人間を見つめることが仕事です。宇宙連詩が、子供たちの未来に取り組むお母さんたちと協働する素晴らしい機会となることを期待してやみません。

覚和歌子

「子育て中のお母さんたちを、町の人と繋いでいきたい。その手段として、JAXAが進めている宇宙連詩作りを利用したいので協力してもらえないか？」この夏に、松庵地区で子育て支援活動に奮闘されている、ひとりのお母さんから、JAXAへ寄せられたこの相談から、この企画は生まれました。

宇宙連詩は、宇宙航空研究開発機構（JAXA）が進めている国際宇宙ステーション「きぼう」を利用した文化教育活動のひとつです。「きぼう」が、子育て中のお母さんのお役にたてるならば、こんなに嬉しいことはありません。谷川俊太郎さん、覚和歌子さんも、喜んで協力してくださることとなりました。みんなで力を合わせて、子育て中のお母さんを応援していきたいと思います。私は、西荻で育ててもらいました。そのご恩返しができればとも個人的には思っています。

山中勉 宇宙航空研究開発機構（JAXA）



連詩の作り方

ルール1：ひとつ前の詩が3行（5行）の詩なら、5行（3行）の詩を作ってください。連詩は、3行詩、5行詩、3行詩、5行詩・・・の繰り返しとなります。

ルール2：直前の詩の中から、ある言葉、または、ある1行を引用して、自作の出発点にしてください。
引用は、直前の詩の中の言葉、行を、そのまま引用しても良いですし、
直前の詩の言葉、行のアイディアを踏襲し、別の言葉にしても良いです。

ルール3：連詩をつくるときは、以下を心がけましょう。

- * 前の詩からポンと飛ぶこと
- * 次の人が続けられること（完結しないこと）
- * 具体的であること（抽象的でないこと）

「星の回覧板」の活動記録

★1 2008年11月11日（火）

JAXA 主催 「覚和歌子さんによる公開授業」 4年生

- ・宇宙航空研究開発機構（JAXA）の山中勉さんの宇宙のお話と、覚さんの楽しい宇宙連詩のレクチャがありました。
- ・松庵発 宇宙連詩 「星の回覧板」がスタートしました。



★2 2008年12月13日（土）

「谷川俊太郎さんと連詩を作ろう」

- ・詩人の谷川俊太郎さん、JAXAの山中勉さんをお招きして、この活動をみんなで考えました。



★3 2009年3月15日（日）

「星の回覧板」完成発表会 ～谷川俊太郎さん、覚和歌子さんをお招きして～

- ・詩に音楽をつける試みをして、みんなで作った宇宙連詩のお披露目です！
- ・谷川さん、覚さんお二人の楽しいお話も。



第 1 詩

.....

昼は青空の顔してる

夜は星空の顔になる

宇宙はどんな気持ちでぼくらを見てるのだろう？

谷川俊太郎

第 2 詩

.....

展望台の望遠鏡から目をはずしたら

おかあさんが手すりにもたれて 地平線を見ていた

はじめて見る おかあさんの横顔

ここにいるのに おかあさんはどこか遠くにいる

私といっしょにいるのに ひとりきりでいる

覚和歌子

第 1 詩は、空を擬人化して、時間によって空が見せるいろいろな表情をうたっています。私たちが宇宙を見上げるまなざしはあたりまえの発想ですが、それを反転して、宇宙が私たちに向けるまなざしについてイメージしています。

第 2 詩は、第 1 詩から「顔」という言葉と「まなざしを向ける」というイメージをもらってつないでいます。身の回りの出来事からリアリティのある言葉を引き出してもらうことを意図しているので、空とか宇宙に関係する単語を敢えて使わないようにしています。

とはいえ実のところ、詩というものはこのように解説されるべきものではありません。受け手それぞれの感性がどう味うか、それこそが大切であるということをご理解いただき、宇宙連詩は言葉のリレーゲームだと思って、遊び感覚で楽しく取り組んでいただければさいわいです。



谷川 俊太郎 (たにかわ しゅんたろう)

1931 年東京生まれ。52 年、「文学界」に詩を発表して注目を集め、処女詩集「二十億光年の孤独」を刊行、みずみずしい感性が高い評価を得る。以降文筆業を生業として今日に至る。主な詩集には、読売文学賞を受賞した「日々の地図」をはじめ「ことばあそびうた」「定義」「みみをすます」「よしないうた」「世間知らず」「モーツァルトを聴く人」などがある。また、絵本「けんはへっちゃら」「こっぷ」「わたし」や、日本翻訳文化賞を受賞した訳詩集「マザー グースのうた」やスヌーピーでおなじみの「ピーナッツ」などの翻訳、脚本、写真、ビデオなどさまざまな分野で活躍している。現代を代表する詩人のひとり。



覚 和歌子 (かく わかこ)

本名 川越 博子

9 月 1 日 山梨県生まれ 乙女座 O 型

早大一文卒。平原綾香、smap、クミコなどの作詞で、多くの作品を CD 化。92 年以後、自作詩の朗読ステージを国内外で精力的に展開。『朗読するための物語詩』という独自の分野を開拓し、評価を受ける。01 年『千と千尋の神隠し』主題歌『いつも何度でも』の作詞でレコード大賞金賞。著作に、第一物語詩作品集『ゼロにな

るからだ』(徳間書店)、最新詩集「海のような大人になる」(理論社)、エッセイなど多数。04 年ソロアルバム『青空 1 号』をソニーよりリリース。08 年 3 月、企画・補作・監修した「星つむぎの歌」(平原綾香・歌)が土井宇宙飛行士のウェイクアップコールとして大気圏外で使用される。同年 5 月公開の写真映画『ヤーチャイカ』では、原作・脚本・監督(共同監督・谷川俊太郎)をつとめる。

★ライトグリーンフェアリーグループ

第3詩

空と海きつと顔がある
そのさかいにも
水平線はきつと笑っている

海田 通孝 10歳

第2詩の「顔」を受けました。東京湾でつりをしにいった時の気持ちのよかったことを、そのまま書きました。

第4詩

空、地、海はそれぞれちがう
空は太陽を見せてくれるし
地は自然でみんなを守ってくれる
海は食べ物や魚を産んでくれる
空、地、海はすべていい物

山澤 新太 10歳

第3詩の「空、海」を受けて詩を作りました。自然はみんなを守ってくれるし、海は食べ物を産んでくれるからすべていい物だと思いました。

第5詩

じゃ口をひねるとジャーと出てくる水
お野菜あらって一休み
固体 液体 気体と変化しながらやくだっている

佐藤 梨華 10歳

第4詩の「水」を受けて。書いた時は何を書こうかとても迷いました。でも身近な物なので、よく調べたらわかりました。水はとても特別に思うようになりました。

第6詩

おもいきり空気をすうと しおのにおい
暑い時でもつめたい海
大好きな海
泳いでいると太陽も笑っている。
私もうれしくなった。

西河 菜奈 10歳

第5詩の「水」を受けて、それを「海」にしました。私は小さいころから海が大好きでした。それで、夏に海に行ったときの楽しさを詩にしたいと思ったので、「水」をとって「海」にしました。

第7詩

昼の大きく光かがやく太陽の下で
ぼくたちは思いっきりラインサッカーを楽しむ
太陽から見たらぼくたちはび生物くらいかな

富山 貴文 10歳

第6詩の「太陽」を受けました。受けた理由は、太陽というと昼間だけだけど、見守ってくれているお母さんみたいな存在だから、そんなもとのラインサッカーをできることがとれもうれしいので「太陽」を受けました。

第8詩

ピラミットと同じ方向にかがやく
オリオンの三つ星
ぼくもながめたオリオン座
左足にリゲル右わきにベテルギウス
冬の夜空に一番かがやいている

古谷 拓磨 10歳

第7詩の「光かがやく」を受けて、みんなが星や星座にきょうみをもってほしくて、みんなが知っているオリオンのことを書いたのです。

第9詩

みんなに喜ばれて生まれた命
おかあさんが大事にうんでくれた私
この命がかがやくようにがんばろう

伊野 透佳 10歳

第8詩「かがやき」を受けて書きました。保けんのじゅぎょうで習った事を書きました。

第10詩

オリオンのかがやく空を見上げて
そこにあるいのちを思う
黄金色の海と風にそよぐ若葉
地球におきた奇跡が
そこでもひそかに進んでいるといいな

宮明 輝 10歳

第9詩の「いのち」を受けて、いのちは大切だと思って書きました。奇跡とは、ちょうど生き物が住めるのがすごいという意味です。

第11詩

金色の緑がかった黄金虫
生物がすむぞう木林は虫の楽園
小さなものも一つの命

山崎 玄斗 10歳

第10詩の「黄金」を受けて黄金虫の詩を書きました。小さな虫にもたいせつな命があります。

★夢のレインボーチーム

第 3 詩

風で木の葉がそよそよゆれる
私と友達の木はお母さんのように笑っている
この木はどんな気持ちで笑っているのかな

野中 梨沙 10 歳

第 2 詩の「お母さん」を受けて詩を書きました。私は、木をみて、友達のようになり、友達としてたとえて、お母さんのようにやさしく笑っているようだったことを詩にしました。

第 4 詩

僕がひっこして来た時に、小さかったゲッケイジュ。
そのゲッケイジュがぐんぐん育って、
今は、僕より大きい木になっていた。
さわってみたらぬくもりを感じた。
木って元気をくれるな。

生地 慶充 10 歳

第 3 詩の「木」を受けて書きました。なぜ僕が「木」をモチーフにしたかというと、僕は、元々木が大好きだからです。幼稚園の時も、木にふれあっていたので。（木のぼりなど）

第 5 詩

行ってらっしゃい、おかえり、お母さんのやさしい言葉
よくがんばったね。試合で負けても温かい言葉ではげましてくれる
がんばろうという気になる ありがとう

佐々木 里奈 10 歳

第 4 詩の「温かい」を受けてお母さんのことを思いながら書きました。「ありがとう」に思いをこめながら書きました。いつも明るい顔ではげまして喜ばせてくれる、お母さんの顔を思いうかべながら書きました。

第 6 詩

おはようの一声で体がパッと起きる
一日の始まりのあいず
朝学校に行く時すれちがう人とも
学校について先生 友達との会話も
おはようからスタート

山口 礼乃 10 歳

第 5 詩の「言葉」を受けて。毎日使っている言葉でも「おはよう」がないと一日が始まらないから、毎日友達や先生とあいさつをしてから話しが始まるので、とても大切な言葉だと思ってこの詩を書きました。

第 7 詩

朝、カーテンを開けると、目にまぶしい光が飛び込んできた
お日さまは毎日僕を元気にしてくれる強力な味方だ
突然目覚まし時計が鳴り出した。一日の始まりだ

鈴木 拓郎 10 歳

第 6 詩の「朝」を受けて、朝は一日の始まりだと思ったからです。だから、こういう詩にしました。この一日の始まりはまず、一番に、お日さまが目覚ます光線みたいなものを発して、それで目が覚めるのかなと想像したからです。

第 8 詩

友達が私のために…
私が友達のために…
みんなが協力の輪でつながっている
知らない人とも助けあうことは
世界中のみんなが仲良くなれる

渡辺 せりか 10 歳

第 7 詩の「協力」を受けて作りました。私はみんなと協力をして喜びをわかちあってもらいたい、国どうしなどのくだらないけんかはやめてもらいたい気持ちで日ごろ、なにかしらしている「協力」をテーマにして書きました。この詩のように、みんなで「協力」をしてほしいです。

第 9 詩

世界中のみんなが仲良くなるのはいつだろう
星座のようにつながってほしいな
いつまでも いつまでも

松本 蓮 10 歳

第 8 詩「世界中」を受けて作りました。星と星がつながると星座になってきれいだから、世界中のみんなが星座のようにつながって、かがやく世界の中になってほしいと思って書きました。

第 10 詩

星をみていると
心がしずまってくる
あの光は、いったいどんな所からきたんだろう
いったいなん年たびをしてきたんだろう
ぼくも宇宙にいるような気がした

湯浅 航 10 歳

第 9 詩の「星」を受けて書きました。山のりょかんに行ったときの夜空を見た時、感じたことをそのまま書きました。

第 11 詩

星はお母さんのようにかがやいている
この世界でたった一つの命もかがやいている
みんなはかがやきの星をもっている

宇佐美 友望 10 歳

第 10 詩の「星」を受けて作りました。この命を、一生大切にしたいと思いました。私もみんなも、未来のためにかがやきたいと思いました。

★ライトブルーグループ

第 3 詩

生き物を産む地球
何年たっても生きている
どこまでも続く地平線も生きている

相磯 匡輝 10 歳

地球や色々な生き物が生きていることを表現しました。第 2 詩のかくわかこさんの「地平線」を第 3 詩に入れてみました。

第 4 詩

かわいいなぼくの犬、そら
家族みんなをいやしてくれる
目を星のようにかがやかせて散歩をまっている
そんな犬のことぼくは大好きだ
いつまでもいっしょにいたいな

山本 晃己 10 歳

第 3 詩の「星」を受けて書きました。かがやく目でぼくたちをいやしてくれる、犬のそらのようすを詩にしました。また、この詩を書いていてぼくは、そらは家族の一員で大切な存在だなあと思いました。

第 5 詩

お父さんといっしょに朝のマラソンをした
寒い朝だったけど体がポッカポッカで笑顔になった
太陽がのぼりだしかがやいた

小本 達也 10 歳

第 4 詩の「かかやき」を受けて、お父さんとマラソンをした時に、太陽がのぼりだしてかがやいたことを書きました。

第 6 詩

みんなの笑顔は輝いていた。
希望も未来もピカピカ光っている。
笑うって気持ちいいな。
家族の笑顔も輝いていた。
明るい光に包まれているようだ。

大野田 幹士 9 歳

前の人の「夕日が輝いた」という言葉で、輝いているのは笑顔や希望や未来そして家族も輝いているなと思って、この詩を書きました。

第 7 詩

私にとって一番大切な家族
私の命を生んでくれた宝物
これからもずっと一緒

新留 千博 10 歳

第 6 詩の「家族」を受けて、「家族がいなかったら、私は生まれてこなかった。」「家族がいなくなったらイヤ！」こういうことを詩の中に入れました。

第 8 詩

私の家にはかわいい犬二匹
ボンゴ、シンバいつも一緒
二匹がいると家がにぎやかになる
今絶滅しそうな動物がいる
そんな動物をすくってあげたい

米川 耶々子 10 歳

第 7 詩の「一緒」を受けました。私はいつも二匹の犬といます。だから二匹の犬といから「一緒」にしました。今絶滅しそうな動物がいます。たとえばシロクマ。ちきゅうおんだんかがすすんでいるので、シロクマの数が少なくなっています。そんな動物をすくってあげたいと思います。

第 9 詩

家に入るとほっとする
なぜだろう？
きっと大好きな家族がむかえてくれるから

藤井 菜奈子 10 歳

私は第 8 詩の「家」を受けました。「家」に入るとなぜほっとするのだろう？というぎもんを詩にしました。

第 10 詩

家族がそろったら
たまらなく温かい時間
世界一大切な家族
私がなにをしても
見守ってくれてありがとう

山本 珠子 10 歳

第 9 詩の「家族」を受けて。家族みんなそろったら楽しいから、ぬくもりをかんじられたからこの詩を書きました。

第 11 詩

とうとい大切な命は一つ
友達とともに
あたたかくどうどうと生きよう

窪田 浩也 10 歳

第 10 詩の「あたたかい」を受けて。ぼくは、あたたかくどうどうと生きようと思います。

★ドリームフューチャーグループ

第 3 詩

私のとなりにいる子は宇宙

私の宇宙はだれが作ってくれたのかな？

きっとお母さんという宇宙なんだ

小林 未波 10 歳

第 2 詩の「お母さん」という言葉を受けて、この詩を書きました。書いている時は、頭の中にうかんでくる言葉をまとめて書きました。宇宙連詩は、前の人の言葉を受けるということが 1 人で作るよりも楽しく思いました。宇宙連詩というものは、1 人 1 人を強くむすぶものだと思います。いっしょうの宝物です。

第 4 詩

いつもカプセルの中にいる。

それはスライムだ。

にぎりしめるとシャリッとってちぎれちゃう。

ママに投げたら

キャーとってにげちゃった。

田島 七斗 10 歳

第 3 詩のお母さんのことを受けて、お母さんをママにかえました。いつもスライムを投げたりして遊んでいるから詩にしました。

第 5 詩

いつもお母さんのせなかで足をばたつかせている幸せ者の妹

私が学校から帰って来るとキャッキャッキャッと大はしゃぎ

ね顔を見てたら 私も幸せになる

柳本 海 10 歳

第 4 詩の「お母さん」を受けて。「お母さん」のせなかにもいつも幸せそうな妹を見て、三女の妹を書きました。「ね顔をみていたら、私も幸せになる」というのは、「お母さん」にねかしといてとたのまれ、せなかをトン、トン、とたたいているうちに、ねてしまった妹の顔を見ていたら、私の心が太陽の様にぽっかぽかになりました。なのでこの詩を書きました。

第 6 詩

木が雪をかぶり一面雪の世界

まぶしくて美しい

ササササーすべり始めた

遠くに八ヶ岳が見えて

ここですべれるって幸せだ

池水 大輔 9 歳

第 5 詩の「幸せ」を受けて書きました。ぼくはスキーに行きます。そこから見る八ヶ岳はすごくきれいでした。そのことをそのまま書きました。

第 7 詩

砂浜が白くまぶしく光かがやいていた

海の中では魚たちが群れをなして泳いでいた

人間と魚たちは生き物としてつながっている

大森 恵介 10 歳

第 6 詩の「まぶしく」を受けて詩を書きました。なぜ「まぶしく」と言う言葉を取ったかと言うと、第 6 詩の中でその言葉がかがやいていたからです。ぼくの詩は海が中心なので「まぶしく」と言う言葉がぴったりだなと思ったからです。

第 8 詩

夏休み おばあちゃんといっしょに行った海

目の前に広がる 美しい青い海

ザブーンサササササ ザブーンササササ

波をながめると

海と私は つながっているようだ

日賀野 実桜 9 歳

第 7 詩の「つながっている」という言葉を受けました。夏休みにおばあちゃんに行った海を思い出して書きました。

第 9 詩

僕らにほほ笑みかけて照らしてくれる太陽

明るく僕らと輝きつながっている

太陽は心や地球のしんを温める世界の宝物だ

横山 侑太郎 10 歳

僕は第 8 詩「つながっている」を受けて詩を書きました。僕は心がホッと温まる言葉を使って詩を作りたかったので、温かいといえば太陽なので、太陽という詩を作って、太陽のよいところを詩につなげていき、さらに第 8 詩で使っていたみんなと友達という意味の「つながっている」も詩に加わり、よりよくなりました。

第 10 詩

宝石やダイヤモンドはもちろん宝物

でも、もっと大切な物がある

それは、家族や友達だ

悲しい時ははげましあい、楽しい時はいっしょに笑う

そんな家族や友だちは、一生の宝物

浦野 誠人 9 歳

第 9 詩の「宝物」を受けて、大切なものは宝石だけじゃないんだなとつくづく感じました。家族や友達というのは、ぼくにとってとても大切なんだなーと思いました。

第 11 詩

シリウス・プロキオン・ベテルギウス

いつもいっしょの三つの星は偉大な星

いつまでもぼくたちをみつめていてほしい

吉井 洸貴 10 歳

第 10 詩の「いっしょの」を受けて。ぼくがみつめた冬の大三角を詩にしました。偉大な星にいつまでも見つめていてほしい。

★ニコニコグループ

第3詩

オレンジ色の太陽が
今 地平線にしずんでいく
私と一緒にどこかで誰かも見ているかな

柴田 夏実 10歳

遠い友達と一緒に見ているのかなと思いながら書きました。太陽はどこへ行っても共通なんだなと思いました。「地平線」をつなぎました。第2詩の覚さんの詩を読んだら、まさきに「地平線がいいな」と思いました。

第4詩

なんで地球はあるの
なんで太陽はあるの
どうして勉強するの
すべてには意味がある
地平線にしずんでいく太陽のように

富山 智文 10歳

もしも太陽が笑っているなら、「他の場所を温めてくるよ。」と言って、笑っていると思った。太陽がしずんで夜をプレゼントしてくれているようにも思えた。そんなふうにすべてには意味があると言いたい。

第5詩

えんぴつはがんばり屋さん
いつでも勉強を手伝ってくれる
ぼくの大事なパートナー

本郷 究 10歳

第4詩の「勉強」という言葉を受けました。いつでも勉強に欠かせないえんぴつのことを書きました。

第6詩

いつでも眠れるように、ふとんの中で
5秒前4・3・2・1
明けましておめでとう
たった今から2009年
夢の中でもおめでとう

中村 祐毅 10歳

ぼくは第5詩の「いつでも」というのを受けて、2ヶ月前の大みそかのことを思い出しました。あの時は11時45分に2階に行って12時にはふとんの中にいたけど、眠りたくなくて年が明けるのを待っていました。

第7詩

祝ってくれる 家族
プレゼントと共に
「おたん生日、おめでとう。」

矢口 紗衣 10歳

受けた言葉は「おめでとう」です。おたん生日の時を思い出しました。お父さんとお母さんとお兄ちゃんが、うれしそうな顔をして、プレゼントをくれたので、それを書きました。

第8詩

「おめでとう」
一言だけど
色々な意味
がんばった時
自分からも自分におめでとう

林 拓哉 10歳

第6詩の「おめでとう」を受けました。自分ががんばった時に、自分の心の中でおめでとうと思ったからです。

第9詩

いいイメージだけを浮かべると
きんちょうが水にとけていく
2分4秒、合格!!

山本 優里 10歳

第8詩の「がんばって」の心を受けました。スイミングスクールで1級に合格した時のことを書きました。とってもきんちょうしていたけれど、冷たい水が体に当たって、きんちょうをとかしてくれた感じがしたことを思い出しました。

第10詩

つまらない時は
一分が一時間に
楽しい時は
1分が一秒になる
時間って不思議

河原 健登 10歳

友達と家で遊んでいてもすぐ時間がたって帰っちゃうけど、つまらない時は時間がまったくたたないので、時間って不思議だなと思ったからこの詩を書きました。第9詩の2分4秒合格という「分、秒」をつなぎました。

第11詩

バレエ初舞台
私はキューピットになりきって踊る
楽しい時間がすぎていく

平岡 映美 10歳

第10詩を読んで「楽しい」と「時間」について自分の事を考えました。4才からバレエをやっていたけどバレエコンクールは今年からで、コンクールの舞台を見た時つかしいと思えて、思い出を書いてみようという気持ちになりました。

第12詩

ジェットコースター初体験
ガタガタ坂をのぼっていく
ドキドキドキドキ
ギャー
ああ楽しかった

安野 直人 10歳

初めて乗った時こわくて「乗りたくない」とお母さんに言ったけど、むりやり乗せられて乗った。がたがた坂を上って行った時ドキドキしてすごくこわかった。けど終わったら楽しかった事を思い出して書いた。もう一回乗りたくなった。

★宇詩グループ

第 3 詩

みどりのしばふにねそべって、青い空を見ていたら
自分がとても小さく感じて足の先をぐんと伸ばした。
そんな私を見て雲が笑っていた。

岩本 菜々 9 歳

公園でしばふにねそべって、ひつじ雲をながめていたら、自分が小さく感じられた時の事を書きました。受けたのは、「見ていた」です。

第 4 詩

家族が笑っている。
一人でも病気になると
みんなしょんぼり。
笑うって幸せ。
家族が一つになる。

高山 雅仁 10 歳

ぼくは、第 3 詩の「そんな私を見て雲が笑っていた。」を読んで、ぼくは、家族のことを思い出しました。ぼくが病気をしてみんながしょんぼりして、ぼくは初めて、みんなが笑うって幸せって思ったことを書きました。

第 5 詩

出かけた妹達
しょんぼりお母さんと私の夜
早く帰って来ないかな

宮原 真弓 10 歳

前の詩を読んだ時に、昔妹達がでかけてしまい、お母さんと 2 人きりの夜を過ごしている時に、早く帰って来ないかなとか、一人なので遊び相手もいなかったなので、とてもしょんぼりした時のことから書きました。

第 6 詩

夜遅くに出た
おにいちゃんのじんましん
急いでお父さんが病院に連れていった
大丈夫かなあ
薬をもらったからもう安心

田巻 玲弥 10 歳

第 5 詩の中の「早く帰って来ないかな」という所で、ぼくもお兄ちゃんが早く帰って来ないかなと思ったことがありました。症状が出た時はどうしたんだろうと思っていたけど、薬はもらったからもう大丈夫と言われて、安心しました。

第 7 詩

妹には負けたくない
勝ちたい一心で走る
ゴールの瞬間緊張がとけた

山口 将史 10 歳

1 年に 1 度の運動会なのに妹に負けるのはいやだったし、走っている時すごく緊張していたことを思い出して書きました。

第 8 詩

4 年生大会決勝
2 対 1 で残りあと数秒
もう 1 点取らなきゃ
シュートのしゅん間 ピーッ !! 試合終了
おいしいところで負けたぼくたち

渡邊 勇正 10 歳

最後決勝で負けてしまって、みんな泣きくずれて、立ちなおれなかったことを思い出して書きました。

第 9 詩

どきどきのピアノの発表会
あっ！ おいしいところでまちがえた
もう一度やり直したいな

橋本 圭史 10 歳

受けた言葉はおいしいです。ピアノの発表会ではやり直せないけど、やり直したいと思いました。せっかくたくさん練習したのにできなかったからくやしかったです。

第 10 詩

ちょっとどきどきの塾のテスト
もう残り時間はあと少し
ピピピピ、ピピピピ
できたー
ギリギリセーフ !!

松本 泰河 10 歳

第 9 詩のどきどきを受けました。にがてな国語でもうだめだと思ったら、ギリギリ終わったから書きました。

第 11 詩

あと少し
宇宙へ届け
みんなの願い

酒井 陽奈子 10 歳

宇宙へみんなの願いや夢が届くようにと思って書きました。第 10 詩の「あと少し」を受けて書きました。

★希望グループ

第 3 詩

望遠鏡をのぞいたら
ここにいるのにちがう場所が見える
つまり小さな旅の始まりなのだ

佐藤 誓剛 10 歳

覚さんの詩で「望遠鏡」という言葉が出て来た時、見晴らしのいい所に望遠鏡があってそれを見ていたのを思い出しました。とてもいい景色で、自分がある所にいるみたいだなあというのを書きたくなって「望遠鏡」という言葉を受け取りました。

第 4 詩

自転車に乗って
小さな旅に出る
一人じゃない
風といっしょにつっぱしる
空も見つめている

佐々木 大志 10 歳

前の詩でぼくがピンときた言葉とは「小さな旅」です。この「小さな旅」を生かして何が作れるか、そこでうかんだのが自転車です。自転車に一人で乗ってもだれかが見守ってくれている、そんな心を詩にしました。

第 5 詩

太陽が雲から顔を出した
体がぽかぽかする
太陽といっしょにいるみたい

長谷川 澄音 10 歳

佐々木君の「いっしょ」という言葉で、だれかといっしょにいると楽しくなるし、体も温かくなってきて太陽が雲から顔を出した時のことを思い出したので、詩にしてみました。

第 6 詩

ちがう国に住んでいても
言葉がちがっていても
いっしょにいと
目と目を合わせるだけでわかり合えてくる
楽しくなる

吉本 晶 10 歳

前の詩「いっしょ」を受けました。ぼくはアメリカに住んでいたことがあります。はじめ言葉が全然わからなかったけど、外国の子といっしょにあそんでいるうちに何か通じてきて、仲よくなりました。そのときの事を思いました。

第 7 詩

うちの犬
もちろん言葉は通じない
でも分かり合っている私たち

佐藤 歩果 10 歳

私のかっている犬は言葉が通じないけれど、言いたがっていることや今思っていることは分かるから、このような詩を書きました。言葉は通じないけれど、分かり合っているということを伝えたいので、「言葉」というのを前の詩から受けて書きました。

第 8 詩

なにも言っていないのに
私の思っていることを
一発であてるお母さん
私の顔を見る
得意なお母さん

若松 美穂 10 歳

第 7 詩の「わかり合っている」を受けました。わかり合っていると言えば、私のお母さんは、私が今思っていることを一発であててわかってくれるから書きました。

第 9 詩

ぼくのお父さん
一生けん命働いている
ただいまと言ってぼくの顔を見る

水迫 晋太郎 10 歳

第 8 詩の「顔を見る」を読んで、ぼくのお父さんは帰ってくると、いつもぼくの顔をまず見るなあと思いました。

第 10 詩

カチカチカチ……ドキドキドキ
そろばんのテスト一生けん命
聞こえてくるのははじく音
中田君合格
やったーまた一歩プロに近づいた

中田 大地 10 歳

受けた心は「一生けん命」です。ぼくはプレッシャーに負けて合格しなかった時もあるけど、一生けん命やってカチカチカチという音しか聞こえてこないくらい集中できたから合格したんだと思います。いつかプロになりたいです。

第 11 詩

初めて料理をした時
ふるえる手でフライパンをにぎった
ものすごくきんちょうしてドキドキした

塚元 彩華 10 歳

私はおかし作りや料理が大好きです。でも初めて火を使ったときは本当にきんちょうしました。前の詩の「ドキドキ」を受けて思い出しました。

★心のつながりグループ

第 3 詩

両親の気持ちの中は子どもだけ
いっしょにいたら変化に気づく
「おっ、大きくなったな」と言って

浅井 未真紗 10 歳

受けた言葉は「いっしょ」です。親は、いつもぼくといっしょにいてくれます。お父さんといっしょにおふろに入ったときに、びっくりしたように言ってくれた言葉を思い出しました。

第 4 詩

両親は子どもが一番大切
お金よりも
なによりも大切
自分よりも大切
一番のたから物

花田 快 10 歳

受けた言葉は「両親」で、両親は子どもが一番大切だし、お金なんかよりも大切なのでこの詩に入れました。

第 5 詩

一番星…
一番星先に光り
みんなをてらす

猿田 結菜 10 歳

一番星が一番先に光り始めて、すごく明るい。習い事の帰りにもう光ってる時があるので、その事を書きました。受けた言葉は一番星の方の「一番」です。

第 6 詩

みんなを笑顔にする
私のお母さん
みんなを守る
私のお父さん
これぞマイファミリー

川邊 未来 10 歳

第 5 詩から受けた言葉は「みんな」です。私の両親にいつも支えてもらっている、感謝の気持ちを表したくて書きました。本当に家に居ると楽しいと思う気持ちも含めて書きました。

第 7 詩

お姉ちゃんとけんか
でも仲なおり
すうっともどった笑顔

池谷 志保里 10 歳

受けた言葉は「笑顔」です。お姉ちゃんとよくけんかをするけど、すぐに仲直りできて笑顔になれるので、こんな詩にしました。

第 8 詩

毎日毎日ふえおに
ねらいを定めておいかける
汗が流れる
息がきれる
明日も笑顔でふえおに

野口 拓郎 10 歳

毎日毎日楽しみにしているふえおにのことを書きました。受けた言葉は「笑顔」です。

第 9 詩

雪だ！
外に出ると
みんな笑顔

青柳 稜人 10 歳

第 8 詩から受けた言葉は笑顔です。雪の日に外に出るとみんな笑顔になることを思い出して書きました。

第 10 詩

友達と雪合戦
投げるのは自信がある
やる気満々
でもあてられた
なのに笑顔

金田 啓吾 10 歳

第 9 詩から受けた言葉は「雪」と「笑顔」です。投げるのには自信があったのにあてられたのに笑顔だったのを思い出してこの詩をかきました。

第 11 詩

私の友達
すてきな笑顔
大好きな塚田学級

古野 菜摘 9 歳

私は今のクラスが 3,4 年と続いて大好きなので、詩にしてみたいなと思ったので書きました。このクラスはみんな仲がよくて、笑顔がたえないのでこのように書きました。

第3詩

わたしは歌う 明日が一番好きな歌
ひなげしのようにうららかに 蛙のようにひそやかに
縁取る陰を 軽やかに 飛びこえて

花井 香 45 歳

日々後悔や苦い涙を、子ども達と大きな声で好きな歌をうたい乍らふきとばしていきたくと思います。ともに生きることを感謝し握る手のぬくもりを確かめて。

第4詩

明日の自分が 今日よりもっと強くあるために
めまぐるしく過ぎる時代に 負けないスピードで走る
だけど 忘れないでいたい
弱さの中にしかない美しさが
陰の中にしかない真実が あるということ

花井 頼子 17 歳

情報があふれる今の世の中を生きている私たちは、その表面しか見ないでいると時に根拠のない、不確かな事を真実であるかのように思い込んでしまう。人間の心も同じで、誰かのことをわかりたいと思ったら、正面から向き合い、また色々な角度から照らしながら見つめないと、その人の本当の姿は見えない。これからの時代を生きていく上で、このことをいつも心の隅に留めておかなければ、と思う。

第5詩

希望という名の光を浴びて
僕は明日へ駆けてゆく
まだ知らない僕に会うために

花井 周太郎 13 歳

僕は時々下校のとき電車でわざといつもおりる駅を乗り過ごすことがあります。なぜだか遠くまで行くと今はちがう自分になれるような気がします。中学に入った1年目でいろいろな気持ちが入りまじった時期なのかもしれない、だから、「明日」という未知な世界に今の自分とはちがった人間になるために、もっと自分が目指す人になるためにがんばって走っていきたくという思いをこめて書きました。

第6詩

明日は朝から始まる
朝日を浴びると身も心も洗われる
夢や希望が湧いてくる
自然の力に“ありがとう”を言おう
人の心を癒してくれるから

蓮沼 達雄 74 歳

人間社会は科学や技術の発展により豊かで便利になった。しかし人間としての在り方が歪んできていないだろうか、自然に対しての配慮、人としての在るべき姿、人と人との絆が稀薄になっているような気がする。もっと心にゆとりをもち、裕福よりも人に優しい社会でありたいことを祈って！

第7詩

人と人とのつながりは、
心と心のつながり、
そこから、勇気と元気が生まれる

齋藤 夕子 41 歳

声を合わせ、一緒に詩を歌うことで共感が得られ、自分では、上手に表現できなくても、他人とわかり合えることがあります。一緒に泣いたり、笑ったり、時に対立しても、心と心が触れ合うことで、心のつながりが豊かに成長していく気がします。素直な心を忘れずに、人とつながって生きていきたいです。

第8詩

「勇気」と人が口にするととき
挑戦という想いを秘める
そこにたたずむ 昨日より
生まれ変わった
明日に生きる

大笹 奈都子 33 歳

新しい事を知るとき、行動するとき、私達の心は、何とも言えず、熱くなる。これは「勇気」なのか、「勇気」をふるい立たせる「挑戦」なのか。そんなとき、人は「生きている」ということを実感できる。自分の存在価値を見失う若者が多い世の中で、雑踏にうもれず、生きる勇気を持ち続けて欲しいと私は思う。

第9詩

生まれ変わるとしたら、やっぱり
人間がいい。笑って、語って、
喜び、合えるから。

白鳥 文子 57 歳

人間に生まれる確率は、宝くじに当たるより、すごいと思う。この確率を大切に！大事に、します。

第10詩

ママにあやされて笑っている赤ちゃん
「ここは一体どこなの？」げげんな顔の赤ちゃん
洋服を脱がされて「これから何されるの？」今にも泣きそうな赤ちゃん
聴診器をあてられて、「こわいよ！」と大泣きする赤ちゃん
でも、10年後にはみんな元気いっぱい小学生だね！！

端井 しげみ 57 歳

4ヶ月児の健康診査は賑やかです。にこやかに、保健センターに入ってこれるのですが、自分の健診の順番が近づくにつれ、泣き声が近くなってきました。人の泣き声を聞いて泣きたくなくなっているところへ、いきなり聴診器、これはビックリ！！こんな経験をして、大人に近づくのです。

第11詩

お月さまでうさぎがもちつきしていると教え
られて育ったのに、月から顔を出す青く輝く
宝石、地球を見ることができました。ありがとう。

田辺 知恵子 60 歳

私が20歳のころ宇宙飛行士の地球は青かったに感激しました。これからどんな宇宙のことがわかってきます。ときどきします。

第12詩

寒い朝庭に霜柱が立った。
朝日に当ってまるで宝石の様に美しく輝やいている
何という素晴らしい自然の造形だろう。
私達の地球は自然が一杯だ、皆生々（いきいき）している
もっと地球を知り、もっと大切にしよう

夏目 政之 79 歳

最近では世界中の人達が地球を雑に扱っている。大切な地球なのに、小さい庭にも地球の良さは一杯生きている。宇宙に唯一の地球を皆がもっと知り、地球に住んでいる喜びを皆で味わいたいものです。

第13詩

「行ってきます」と元気に出て行くあなたの後ろ姿
「ただいま」と笑顔で 帰ってくるあなたの瞳
私にとっての宇宙一の宝石。

丹野 由美 36 歳

子育て中の私にとっての宇宙は家族です。そしてそんな私にとっての宝石は家族の笑顔です。宝石を磨きながら、自分も輝いていけたら、宇宙一の幸せ家族になれるかな…？

第14詩

なわとび とべない なかなか とべない
とべない とべない おくちは へのじ
なわとび とべた なんとか とべた
なわとび とんだ ぴょんぴょん とんだ
とべた とべた にこにこ えがお

こどもの木かげ 玉成幼稚園

幼稚園には子どもたちのたくさんの笑顔が溢れています。大縄とびに挑戦して跳べるようになった子どもが、満面の笑みで一生懸命跳んでいる様子を詩にしました。地球の上の子どもたちの笑顔が、大空に、宇宙にとんでいかれますように…。

第15詩

ねえねえ、あのね、なんで、どうして
かわいいお口から あふれ出る ことば
こかげの下で たくさん聞かせて

こども木のかげ 野のはな空のとり保育園

お話が出来るようになると、子どもたちの興味 関心はどんどん拡がり、たくさんのことばが生まれていきます。ゆったりとした気持ちでかわいいことばに耳を傾け、幸せな時と一緒に過ごしていきたいと思います。

第16詩

こかげの下で
ゆらゆら揺れてた ハンモック
よちよちと一緒に歩いた春の道
たんぼぼ色にそまってる
遠いとおい 子育ての日々

小林 武彦 51 歳

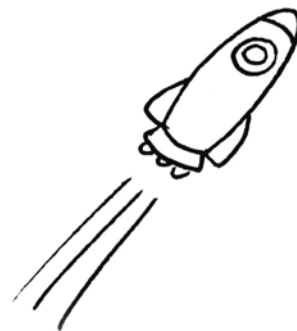
児童館で子育てに一生懸命なお母さんや、お父さんの姿を見ると、「今は大変だけれどがんばって！過ぎてしまうとみんないい思い出になるから、この瞬間を大事にね」といつも心からエールを送っています。昔の自分の姿にダブらせて。

第17詩

人が好き 歌が好き 花が好き 私の一本道
振り返れば青空が似合う、泥んこが似合う子ども達
ねえみんなで歌おう、星の歌を、地球の歌を

橋爪 邦子 60 歳

定年退職です。松庵の地域で子育てのお手伝いできたことは、とてもうれし
いしめくくりの日々となりました。ネットワークが息づくこの松庵地域にはた
くさんのふれあいやぬくもりがあってとてもステキ。ネットワークの一員でい
られたことに感謝しています。



星の2丁目

(11/11 地域発)

第3詩

夜のガーデンで、たったふたりきりで夜空を見ていた。
まるでこの星達が、永遠の芸術品を描いているよう。
今度、また、一緒に見たい 前とは違う作品を。

山田 貴大 11 歳

僕は、この第3詩を、「夜のガーデンで、星空という、永遠の芸術品を見ている」という表現でこの詩を書きました。第2詩の、覚和歌子さんの詩からは、「ひとりきり」という言葉を、「ふたりきり」という表現にして、引用させていただきました。夜のガーデンは、今、公開中のドラマ、「風のガーデン」からとらせていただきました。そのガーデンは、何種類もの花のにおいが漂ってきます。そして、「芸術品のような夜空」は、1年半前の移動教室で行った富士学園の、綺麗な夜空からとらせていただきました。

第4詩

遊びの時間、あの子と園から抜け出した。
一緒に手をつないで歩き、笑った。
お日さまがあたたかく、やさしい空気に包まれた。
先生に見つかって、いっしょにしかられた。
時がたった今でも覚えてる。

山田 正美 43 歳

大好きな思い出のひとつを具体的に書いてみました。友だちの表情や自分の気持ち、5行には入りきらないその時の流れを今でも思い出します。第3詩のふたり、永遠からつなげました。5行目は第3詩の3行目の影響を受けています。(過去も未来も、遠くも近くも、宇宙の中でつながっているイメージというのでしょうか)

第5詩

お日さま ポカポカ いい気持ち
お部屋の中で キラキラ 妖精たちが 踊ってる
お母さんと フワフワ わたしも ダンスする

相吉 須美子 44 歳

第4詩の「お日さま あたたかい」を見た瞬間、家の中で日なたぼっこをしている幸せなひとときを思い浮かべました。のんびりゆっくりゆったり生きていきたいです。

第6詩

落ち葉のジュータンの上をかけ回り
カサカサ ガサガサ
音を楽しむ妖精たちが踊ってる
キラキラ輝く光をうけ
にっこりほほえむ わたしがいる

宮原 清美 40 歳

第5詩の“キラキラ妖精たちが踊ってる”を引用して、最近の出来事を詩にしてみました。忘れかけていた楽しい遊び、心があたたかくなりました。

第7詩

カサカサ ガサガサ なにかいる…
うちの天井 なにかいる…
もしかして あれは…

湯浅 駿 15 歳

第6詩「カサカサ ガサガサ」を見た瞬間、うちの天井からするカサカサ、ガサガサを思いうかべました。その音を聞いたときのこわさを詩にしてみました。

第8詩

ドタドタ ペチャクチャ 音がする
天井の下から 音がする
勇気を出して あいさつしたら
仲間に入れて くれるかな
ごはんも わけて くれるかな

湯浅 潤子 44 歳

第7詩の「うちの天井」の上の「なにか」の立場で書いてみました。築30年以上のわが家、壁一枚天井一枚の向こうは、ねずみ、ゴキブリ、ハクビシン(?)などの小動物ワールド。時々あいさつに姿を見えますが、なかなか同じ家に住む仲間と思えません。心が狭いでしょうか。

第9詩

初めて入る人の輪は
どの顔もみんな緊張ぎみ
勇気を出して自己紹介

飛田 紘佑 11 歳

最近、初めて会う人どうしの中に入ることが多いので、今の僕の心境を素直に書きました。

第10詩

おはよう 夕べはぐっすり眠れたかな
おかえり 今日楽しく過ごせたかな
子どもを見つめる 自分の顔
鏡に写って ギョッとして
そっと頬を持ち上げると 心もついてきた

飛田 礼子 42 歳

日々の反省を込めました。

第11詩

鏡の向こうに不思議の国。行けず悲しく私は泣いた。
三時の後ろに別離の合図。受け入れられず私は泣いた。
貴方の隣にあの人の笑顔。永久に続けと私は笑った。

623 (むつみ) 22 歳

第10詩の“鏡”を受けて。鏡と言えばアリス。三時に別れても、大切な人が大切な人と居るのは幸せ。

第12詩

笑いがいつも聞こえてくるような
そんなひと時を大切な人と過ごしたい
心にはいつも夢をいただき
Loveのある楽しいひと時
いつまでも夢のある道ってすてき!

Chieko. Suda. ヒミツ♡歳

笑っている顔って、どんな時かなって思っ…もうすぐ新年を迎えるのを思い…願いをこめて。

第 13 詩

学校を笑って過ごしたい。
あと 1 年ぐらいの学校を
みんなで笑って過ごしたい。

五十嵐 琴 11 歳

あと少しの学校を、クラスみんな笑って残りの学校生活を過ごして行きたい
思っていたから。

第 14 詩

笑っていると 心がはずむ
笑っていると 楽しくなる
笑っていると 踊りたくなる
笑っていると ポカポカ あったかくなる
笑っていると 幸せになる

五十嵐 まゆみ 42 歳

仕事で疲れた時に子ども達の“笑顔”に会うと、ホッとした気持ちになったり、
自分も笑っている時の方が 1 日がスムーズに過ごしているな〜とこの頃よく感
じています。“笑う”って幸せだな〜と…

第 15 詩

初めまして、2009 年。
この星に生まれて、今ここに生きていることが“幸せ”と受けとめている。
今年も、これからも よろしくお願ひします

山田 正美 43 歳

去年の暮れから年の始めにかけて実に多くのことを振り返り、起きたこと、出
会った人々を思った時の感覚、それはきっと“幸せ”だったから、この言葉を受
けました。喜び、悩み、等々、生きて人と関わり、経験が豊かって幸せなんだなあ
としみじみ。自分ひとりの力ではなく、出会い関わっている人々、子ども、空
や花、犬、この星と一緒に生きている全ての命あるものから、助け、支えてもらっ
ている、そんな気持ちから浮かんだ詩です。

第 16 詩

僕の学校生活は、恵まれている。
木がたくさんある広い校庭、そして白い屋根の校舎
良い心をもっている先生達
傷ついても助けてくれる友達
僕は、こうして、いつも恵まれている

山田 貴大 11 歳

第 15 詩からは、「幸せ」をとり、「恵まれている」にしました。普段の学校生活
で感じていることを正直に書きました。僕の学校生活は、こういう風に、支え
られているんだな〜。と思っています。

第 17 詩

屋根に登った。ジャンプ！ 隣の屋根へ
またジャンプ！ 今度は ちょっと大変だ
よーし 思い切って… やった 翔べたぞ

相吉 須美子

屋根の上を優雅に軽々と飛び回る猫を見て、羨ましくなりました。私も気持ち
だけは世界中に翔んで行けます。

第 18 詩

新しいランドセル
新しい机
わくわくしながら 春を待つ
娘は思いっきり 翔び立つ
私も少しだけ 翔び立つ

宮原 清美

娘は 4 月からピカピカの 1 年生。少しずつ準備をして彼女もドキドキわくわく
しながら待っています。私も新しい事にチャレンジしたいと思い、この詩を書
きました。

第 19 詩

1 月 27 日 朝 わが家のインコが旅だった
体重 40 g の命のはてしない重さが 今心に痛い
躍動する命は 手の届かぬ かなたへ

湯浅 潤子 44 歳

宇宙連詩の 2 周目にこんなことが起きているとは思いませんでした。皆様、
家族とベットと今日ともに生きることのできることは、あたり前ではありません
ん。お互いの存在を感謝し、良いことをしてあげて、一日一日をすごしましょう。

第 20 詩

私達の思いが詰った「星の回覧板」
超高速スペースシャトルに乗って
青い地球を後に
誰より先に宇宙旅行
目を閉じて 私と一緒に！

飛田 礼子

年度末が近付き色々な事が切り替わる時期。ひとだんらくしたら、旅をしたい
なという思いを込めました。

第 21 詩

私達は星に願いを込める
私達の願いを乗せて飛翔^とぶ
希望という星に

昂 18 歳

私たちの願いが叶って欲しいと思いました。暗い世の中が明るくなるように、
私達の宇宙ステーションの名前である希望を入れました。

第 22 詩

希望を胸に いだきながら、
明日の未来に、胸おどらせる。
昨日の自分には おわかれをし、
新たなる世界に とびだそう。
今は、もう、こないのだから……。

稲葉 和子 29 歳

オーラの泉というテレビで、みわさんが、「明日、死んでもいい人生を、
私は生きている。」みたいなことを言っていました。そんな人生を生きたら、
今を、大事に生きることの大切さと、この瞬間は、二度ともう、こないという
ことを感じました。一度しかない人生を、大切にしてください。

第23詩

新たな世界にむかって 飛びたつ勇気をもとう
今まで歩いてきた我が道に確かなものを探して
だって、この道は私の歩いてきた人の心が、からみついて
ラビリンス（迷宮）だもの。楽しまなくちゃネ。

Chieko. S' 51 歳

人生、折り返しの地点で我が人生を振り返ってみました。

第24詩

もうすぐ 入学式
これから どんな事がおこるのかなー？
ハラハラ・ドキドキ・ワクワク
新しい世界へ翔びだそう！
『希望』をのせて 翔びだそう！

五十嵐 まゆみ 43 歳

3人の子どもの新学期。“受験”という時期を迎える長男と、小学校最後の年を迎える長女、そして小学校への入学を迎える末娘。それぞれの「新しい世界」へ思い切りとび込んで、大変だけれど楽しんで欲しいな…という思いを込めて“希望”にのせたいです。

第25詩

もうすぐ6年生
小学校最後の年を
『希望』にのせ、すごしたい。

五十嵐 琴 11 歳

小学校最後だから、希望にのせて1日、1日をすごしたいから。

第26詩

もうすぐ高校受験。
人生初の受験だ！
なんだか少し緊張する。
でも希望する高校がまだ見つかっていない。
だけど受験のころまでには見つけたい。

五十嵐 拓 14 歳

受験は自分はまだ経験したことがないし、少し緊張するから。

第27詩

希望を持って突き進む時…楽しいね！！
希望を見つけれられず悩む時…辛いね！！
でもこの繰り返しが楽しい人生だよ、きっと

五十嵐 敦志

いつもいつも上手く行くとは限らない、辛い時も最後には必ず楽しい時が来る、そう思い時にしました。

第3詩

私の背中に大きなつばさがあったらいいのにな
嬉しい時も悲しい時も遠くに飛んで行けたらいいのにな
海も山も飛びこえて遠くの遠くの遠くまで

小林 沙耶加 12 歳

「遠い」という言葉から連想しました。連想したら、広大な海と山、自然が頭の中に浮かびあがって来ました。そこで、都会からは見られない、私の目から遠いところにいつでもいけたら、幸せだなあとイメージして、この詩を書きました。

第4詩

目の前にいたのにもういってしまった
大きかったものがあんなに小さくなってしまった
でも大きな世界と小さな世界
大きな世界を大きくはばたき
小さな世界を小さく飛びまわる

小林 未波 10 歳

望遠鏡をのぞいて望遠鏡をはずした時、世界が大きく変わったように思えた、その時の気持、おどろいたのもあったけど楽しく、うれしくってウキウキした時のことを書きました。詩は自分の気持が伝えられるから書いていてとても楽しい。それに読んでいても楽しいから、とてもいいなと思いました。

第5詩

小さな部室をクル・クルッと掃除して
ちょっとお茶にしましょうかと一息入れる小さな幸せ
風にそよそよとゆれている洗濯物をみながら

小林 和子 36 歳

日常生活の中で、特別ではないけれど、大切なこと。家族が健康であり、自分も健康。今日も一日一さあ頑張って活動しよう！と「力」が湧いてくる私の大切な時間。小さな幸せを書いてみました。

第6詩

風にのって聞こえてくる
ピアノの音 笛の音 自転車の音 車の音
子供の声 赤ちゃんの泣き声 そして
ごはんを作る音
いいにおいまで してくる気がした

小嶺 あかね 38 歳

普段聞こえてくる色々な生活音を、うるさいというよりむしろ楽しい気持ちで聞いています。そんな気持ちを書いてみました。

第7詩

「ただいま～」というあなたたちの元気な声
ばななケーキを焼いておでむかえ
幸せのかおりとともに

柴田 弥幸 39 歳

「今日は何かな」という子どもたちの顔を想像しながら帰りを待つ気持ちをかきました。

第 8 詩

家族といると幸せ
友達といると幸せ
いつでも幸せ
今日もいっぱい幸せがあったなあ。
ねる前にふりかえったら。

柴田 夏実 10 歳
ねる前にベットの中で考えていることです。

第 9 詩

今も幸せ。
生きていることが嬉しい。
あなたの笑顔が大好きよ。

石橋 早美 50 歳
重度の知的障がいを持って生まれた娘を作業所に送っていく電車の中で浮かんだ詩です。

第 10 詩

生きること それは力の集合体
人は一人では生まれない
人は一人では育たない
人は一人では愛を持ってない
人は幾多の支えを通して生きる

石橋 友規 19 歳
今、人生のターニング・ポイントに立っています。大きな壁を越えるのに一人では厳しくとも、周りの助けを借りて為し遂げようとしています。

第 11 詩

毎日子どもを支えている
やさしく きびしく あたたかく
必要ならばきぐるみも着る

新留 敬子 43 歳
松庵小の先生方の熱心なご指導に感動して作った詩です。“支え”を受けての詩です。

第 12 詩

人は一人じゃ生きていけない
ささえあって生きている
犬もねこもサルも鳥も・・・
みんながいるからかがやける
みんながいるから一人一人にかがやきがある

新留 千博 10 歳
母が書いた詩の中に「ささえる」という言葉があったから、その「ささえる」で詩を作ってみました。みんなに「人は一人じゃ生きていけない」ということが伝わればいいなと思っています。

第 13 詩

今朝も近くで 鳥のこえ
植えたばかりの 我が家の樹
見つけてくれて ありがとう

海田 佳代子 36 歳
我が家にある家々に囲まれた小さな樹。そんな樹に鳥が来てくれるなんて思っても見なかった事です。鳥のこえが間近できけた嬉しさとそして少しは鳥さんのお役に立てたのかしら・・・とちょっとした幸せ気分

第 14 詩

夢をのせる木
どんどん大きくなっている
いまにも雲にとどきそう
1センチも2センチものびて
早く天にとどけ

海田 道孝 10 歳

第 15 詩

青空にひこうき雲
冷たい風 白い息
きょうは何をしようかな？

生地 由喜夫 41 歳
雲をテーマに連想してみました。青い空、キャンパス、自由を感じました。

第 16 詩

白い息
寒い時に白くなる。
手がかじかんだ時は、
手を温めてくれる。
温かい息

生地 慶充 10 歳
最近、寒い時ばかりだから、サッカーやってつかれた時に出る白い息をイメージしてかいてみました。

第 17 詩

小さくて冷たい手も
大きくて包んでくれる手も
全部、生きてる証拠、生きているぬくもり

生地 加奈実 13 歳
手を握ると人のぬくもりが感じられて、生きてるなって感じがします☆

第 18 詩

私が見つめるものはいつもちがう
生きているからいつもちがう物を見ている
もちろん見られてる方もぜんぶ生きている
生きているどうしがちがう人といつも合う
ちょっぴり変なかんじもした

小林 未波 10 歳

私は心配しようなどで、おふるあがりや、ねる前にいつもかぎを3回は見ています。それは自然な感じでみているので、なんだか変な感じです。でも毎日見ている、まったく同じ位置で見ることにはできないので、同じ物だけど、ちがう物だなと少し思いました。それでこんな詩を作ってみました。詩を作っている時も少し、こういうことを考えながら作ってみました。とても楽しく詩が作ることができました。

第 19 詩

朝一番のおじやさんは、目覚まし時計
寝ぼけ眼でぼんやり見て、次いでぐっとなんで見せても
そしらぬ顔で鳴り続ける 心優しいおじやま時計

小林 和子 36 歳

寒くなって、朝もとお布団の中にいた〜という気持を書きました。

第 20 詩

いつものように空を見上げたら
オリオン座が輝き
日がたつにつれ
私に近づきそして去ってゆく
待ちどおしい時のようだ

小林 沙耶加 12 歳

この詩は、冬寒い夜に塾から帰って来て私と母と妹3人で毎日毎日の空を見上げた時のことです。そして「あそこにオリオン座がある!」「ほんとだ〜」という会話の中おもっていたことを詩にしました。

第 21 詩

おそらがあかるいのにおほしさまがでているよ
おつきさまも いるよ
ゆうやけが みかんみたいだね

こみね ももこ 4 歳

冬の明るい一番星が、まだ夕焼けの残る空に見える事に4歳の娘が気がつき、私に窓の所に来るように呼びかけて教えてくれた時に言った言葉をそのまま書きました。詩になっているかは分かりませんが…。

第 22 詩

当たったら宇宙旅行!という懸賞の広告を
10 年以上前に見たことがある
当選者は 宇宙に行ったのだろうか
私は宇宙旅行には行けないが
今いる ここが 宇宙の中 外から見たら宇宙の中だ

小嶺 あかね 38 歳

娘と一緒に星空を見ながらこんな事を考えました。

第 23 詩

いつもより少し早起きし、夜明け前の空を見上げる
はるか遠くにひときわ明るく光を放つ点
この詩があそこへ届けられる、「きぼう」へ

柴田 弥幸 39 歳

私は行くことのない宇宙に、自分が少しでも関わることをうれしく思い書きました。

第 24 詩

朝な夕なに空を見上げる
あの音はヘリコプター? ジェット機?
長い長い飛行機雲が
空のはしからはしまで
続いていた。

石橋 早美 50 歳

空が大きく見える駐車場のそばで、娘が指さすので、いつもの「飛行機飛んでいるね」の言葉がけをしようと空を見上げたら、冬空にくっきり雲が浮かんでいました。あまりにもキレイだったので、誰か見てほしいな、一緒に感じてほしいな、下を向く生活ばかりではなく、ちょっと余裕を持ってほしいと思い詩にしました。

第 25 詩

今日は青空 空の下でいっぱい遊ぼう!
今日はずもりだ。「あつ雨」
はやく晴れてホシイヨ〜

新留 千博 10 歳

雨の日、晴れの日考えたこと詩にしました!

第 26 詩

晴れた1日
楽しいことがいっぱいだ
かなしいこともあるけれど
今日はなんだかとかくべつな日
なんでかな?

新留 巳晴 8 歳

晴れをうけた。

第 27 詩

ピアノの音は 心の音。
うれしい時、悲しい時、優しい音、寂し気な音。
私を癒し、元気にしてくれる。

原添 彰子 43 歳

巳晴ちゃんの詩に元気をもらいました!年齢を重ねると、楽しいことより悩みや心配事ばかりが増え、晴れただけの1日を楽しい!!なんて感じなくなっていました。家族がいて、友達がいて、やりがいのある仕事があって、健康で、ピアノが弾けて。あたり前だと思っていたこと全てにたくさん感謝して、これからも生きていきたいと思います。

第28詩

かすかな音にも耳をそば立てる
 小さな音にも心を騒がせるのかな
 この音は家族が帰ってくるとき、この音は友達が近くを通るとき
 ドキドキ、ワクワク、ああおとなしくなんてしてられない
 早く行きたいな。今日もお散歩

名波 謙 41 歳

本当のところはわからない我が家のミニチュアダックスフンドの気持ち。実際はもっと邪悪で可愛くないことを考えているやもしれませんが……。人間が勝手に想像すると、こんなカンジでしょうか？

第29詩

ぼくが帰って来ると大よろこび。
 しっぽのふりすぎでちぎれたりしないかな？
 ぼくのだいじな家ぞく。ぼくのだいじな友だち。

名波 颯一郎 8 歳

ぼくのだいじな犬のことを書きました。いつもあまりあそんであげられなくてごめんね。

第31詩

真夜中に一人で思うこと。
 静かな開放感と、少しの孤独。
 そんな時、家族の寝顔をみると安堵する私。
 いつも なかなか素直に言えないけれど
 たくさん、「ありがとう。」

名波 ひろみ 37 歳

何を書こうかと夜中に考えていた時に、ふと心に浮かんだことを書きました。家族の前では照れくさくて、なかなか言葉に出しては言えません。

第31詩

空から見た夜の東京は世界で一番きれいだそうだ
 フォーカスするとみんなが住んでる松庵がみえる
 ズームするとみんなの幸せそうな寝顔がうつくしい

高橋 祐也 69 歳

ジェットパイロットのコメントです。それだけ東京もみんなの努力で空気がきれいになってきたんだね。今度光をいっせいに消して、満天の星と人工衛星をながめてみたいね。昔のように。



第3詩

夕やけがほんとに、きれいで
 両うでをひろげて おもいきり 風をすいこんでみる
 からだ中に冷たい空気がしみこんで、透明人間になった

田中 あゆ実 40 歳

地平線や水平線といえば、夕やけかな、と思いました。これはいつも私がやっていることで、風がからだをとおひぬけて、からだに空気にとけこんだような気持ちになります。生きてるんだー、生かされているんだーと感じます。

第4詩

地面に寝そべり 大地になると
 空はくっきり青いの
 ちらちら ぼらぼら
 落葉の雨です
 雨はやがて私を隠してしまうでしょう

高嶋 美智子 41 歳

ネイチャーゲームに大地の窓というゲームがあります。地面に寝て自然と自分が一体化するゲームです。前詩が自然と一体化していることを受けて部屋の窓から見える景色を見ながら考えました。「私を隠してしまう」には、現実世界から時々逃げ出したいくなる気持ちが表れているのかも？

第5詩

パランパランとリズムを取って
 雨の玉、空からあふれだした。
 小さな傘の花達が すてきな水玉模様になった。

阿部 菜保子 39 歳

娘は、水玉の傘が欲しくなった。でも「今の傘はどうするの？」母（私）に言われる。しょんぼりと雨の中、出かけると、雨つぶで「傘が水玉になった〜♪」と自分をはげましていた娘のある日のでき事。

第6詩

冬の夜道を歩いていたら
 娘が見つけたオリオン座
 輝く星を見上げながら
 昔 母と見た事を思い出す
 ずっと変わらない星を見ながら・・・

野中 玲子 38 歳

前詩の「空」から連想して、普段の何気ない様子から感じた事を詩にしました。世の中は変化していくけれど、娘と見上げた星は、昔、私が母と見たのと変わっていません。将来、娘が母親になった時も、同じ光景があるのかなあ…と大人になった娘の姿を想像してみたりします。

第7詩

ながれぼしにねがいごと
 かわいいわんちゃんくださいな
 きつとかなえてくれるかな

野中 かおり 6 歳

第 8 詩

ねがいごとってぜんぶおそらが
きいてくれるのかな？
クリスマスプレゼントにかわいい
じてんしゃがほしい。

堀江 さあや 7 歳

第 9 詩

昔はね、夜空を見上げると天の川が見えたんだよ、
お婆ちゃんの願いはね、み～んなに天の川を見せてあげたいの
誰に頼めばいいのかな、宇宙飛行士かな、星の王子様かな？

堀江 安子 69 歳

当り前のように見えていた天の川が、いつ頃から消えてしまったのでしょうか、
夜空から。プラネタリウムではなく本物の天の川を見て感動した子供達の姿を見
るのはもう無理なことなのでしょうか、都会の夜空では…。

第 10 詩

立ちどまり、星にきく
わたしの行いは まちがっていませんか
答えは胸に届く
たびたびまちがっていく姿も
ずっと だまって見守っている

堀江 たき子 42 歳

2 児の母となり、子育ての悩みを十七年前に他界した母に聞いてみたくなる。
言葉を交せなくて 答えをもらえなくて はげましを聞けなくて、かなしかったが、
最近母との会話や交わりの中で培った事が私の身に付いている事に気が
付いた。迷いの中、しばらく考えていると出る答えは母からの答えにちがいない。
私も子供たちに正しいと思うことを言葉を交わさなくても身につくようにたく
さんの教えを残したいと思う。母は星となり、今でも私を見守ってくれている
ようだ。

第 11 詩

ほしにきくよ。
なんで、うちゅうってあるの？
なんで、たいようってあついの？

こばやし しもん 7 歳

第 12 詩

行ってみたい宇宙
夢のまま
かなわぬと思っても
また
一安心

小林 由美子 42 歳

どんどん進化進歩していく事を心の底から喜べていない。確かに便利になったり、
未知の世界を知る事も楽しみであり大切ではあるが、昔の物が捨て去られて
いく事に？と思う。

第 13 詩

ゆめ、うちゅう人にあうこと。
そして、ほしをぜんぶまわる
こと。

あいそりな 7 歳

第 14 詩

全部回って見た^え画の中で
一番心に焼きついたのは
あなたの横顔^えでした
妖精の画が
かけた魔法

相磯 三紀 36 歳

若き日のデートで美術館に行った時のことを思い出して書きました。

第 15 詩

魔法は希望
みんなの エスプリ
でも かなえるのは 自分自身

博多 由実 22 歳

la magie est une espoire. espoire est une esprit. mais qui realse son
esprit est moi-même.

第 16 詩

「希望」ってことば、ずーっと忘れてた。
そんな自分に びっくり。
あしたは、青い空に向かって
「希望！きぼう！KIBOU！」と叫ぼう！
青く輝く 美しい星の上で！

博多 信子 54 歳

今、社会は閉塞感にみちています。でも、宇宙からながめたら、地球は今日も
美しく青く輝いているんです。そう考えただけで「希望」が湧きあがってきま
した！

第 17 詩

どこか遠い星へ行っても
青い空は見えるのだろうか
こんなに多くの人を見つめている空

高橋 智子 49 歳

詩を書こうとして、改めて 地球って美しい と感じました。

第 18 詩

空が私の上にある
地面が私の下にある
だったら間にいる私は
いつか青に溶けるのか
いつか緑に沈むのか

高橋 万実子 20 歳

第 19 詩

私は空の下にいる。
星の下にいる。宇宙の下にいる。
でもいつか、宇宙にいつてみたい。

小松 美月 11 歳

第 20 詩

ピンと引き締まった冬の朝
お日様がのぼり
光と温かい空気が全身を包み込む
両手を広げ深呼吸
ああ、今日も生きている

高嶋 美智子 41 歳

今日は冬らしい青空です。何て気持ちの良い朝でしょう。空を見上げて感じた
ままを書きました。

第 21 詩

トントントン ボールを弾ませ 深呼吸一つ
白い球 祈りながら打つ。
14 才の幼い頃に戻って・・・。

阿部 菜保子 39 歳

中学の頃にやっていたバレーボールを娘の小学校入学と同時に始めました。試
合に出て、サーブを打つときの緊張感とその時に思い出す中学生の時の感覚を
詩にしました。

第 22 詩

きょうほいくえんでボールしたよ。
けったりなげたりした。
はなびちゃんとやっしーと、
はじめくんとなかはらせんせいと。
すごくたのしかったよ。

あべ まゆこ 5 歳

第 23 詩

家族みんなが笑顔になれる
夢の国 ディズニーランド
シンデレラの魔法にずっとかかっていたい

野中 玲子 38 歳

家族で楽しい時間を過ごすディズニーランドは、日常を忘れられる幸せな場所
です。いつまでもこんな時間が続いたらいいなあ・・・という願望を詩にしました。

第 24 詩

犬といっしょに遊んでいたら、
犬と会話がしてみたくなった。
かわいい犬と話したら楽しそう
すばらしい魔法にかかって
犬の気持ちになってみたい。

野中 梨沙 10 歳

魔法にかかって、犬と話してみたいことを詩にしてみました。

第 25 詩

犬はかわいいな
大きくなったらかいたいな
トリマーさんになりたいな

のなか かおり 7 歳

第 26 詩

世の中 “Change ” が
叫ばれるので
発想転換して
人間が犬に飼われることを
想像してみた。

野中 清人 39 歳



第3詩

遠くむこうにある月
いつも見ているけど 毎回
ちがう形になって出てくる

池谷 志保里 9歳

覚さんの詩に続く、いい詩はないかと考えた末、この詩になりました。「遠く」を取って作った詩です。

第4詩

今日の自分は 昨日とちがう
明日の自分は 今日とはちがう
消えていなくなった私は 何処に行くのだろう
あたらしく生まれる私は
何処から来るのだろう

池谷 有香

若者みtainアオクサイ詩になっちゃいました。

第5詩

自分って…何？
好きな自分？キライな自分？おくびょうな自分…
そんな自分が、私は好きです。

池谷 友理子 12歳

本当に好きかどーかはよく分かりませんが、なんとなく好きですね・・・

第6詩

小さなあなたたちは 私の扉から世界を見ていた
これなあに？ どうして？
あなたたちはもう、自分で扉を開き
自分の目でしっかりと世界を見つめている
その目にこれから何が映るのか ただ祈るばかり

猿田 多美子 43歳

うんざりする程「どうして？」を連発された時期。適当にあしらってしまったことや、自分の答えに自信を持てなかったこともあります。今さらながら反省……。そしてこれから子ども達の目に素敵なものがたくさん映りますように。目をそらしたくなるような事が映っても、しっかり自分で判断することができまうように…。

第7詩

小さな扉は少しずつ大きくなっていく
それにつれて自分もだんだん大きくなる
大きくなるってどんなことだろう

猿田 結菜 9歳

第6詩につながる言葉をどうするかまよいにまよった末「小さな」と「扉」と言う言葉にしました。この詩を書いていると学校の方の詩を書くのがとってもまちどおしくなってきました。われながらい詩を書けたと思います。v(^_^)v

第8詩

成長にひつようなのはどりよく
才能はスタートダッシュだけ
つらさは成長になくってはならない
つらさの後に待っているのは
かならずよろこび

猿田 高久 11歳

うますぎてなんも言えねえ

第9詩

あなたのかわいいその笑顔、ママの三つの宝物。
生まれてくれてありがとう。
小さな命もごあいさつ。ぎゅーっと握ったママの指。

山本 淳子

高久くんの詩の最後の「よろこび」という言葉をとり、「三つの命を授かった母の喜び」について書くことにしました。三人の娘達がそれぞれ生まれた時、「生まれてきてくれてありがとう！」「私がママよ。よろしくね！」と喜び、話しかけました。その赤ちゃんも小さな手で私の指をぎゅーっと固く握りしめてくれて、「ママ！こちらこそよろしくね！」とあいさつしてくれた気がしてうれしかったことを思い出しました。その力強さに驚き、尊い命の重み、そして母親としての責任の重みも感じました。

第10詩

地球中にある音をいっせいに消したらどうなる？
もしかしたら、地球のような生命のある星に音がとどくかも。
地球中にある音を、いっせいに消したらどうなる？
もしかしたら、他の星の生命体の音が聞こえるかも。
そんな実験ができれば、おもしろそうだな。

山本 優里 10歳

第9詩から「命」という言葉をとって作りました。宇宙のことが大好きなので、そんな生命体が発見されたいいいです。現実には、音はとどかないとは思いますが、他の星の生命体には聞こえたら、おもしろいと思い書いてみました。

第11詩

ボールをキャッチした時の
「バシッ」という音を響かせるため
毎日、グローブをみがく。

寺内 健 13歳

「グローブに感謝！」

第12詩

湯ぶねになみなみとお湯を入れて 待っている
お風呂が大好きな
野球少年のために
でも 顔をみると ガミガミ言っている
こまったな…

Ken's Mom 42歳

3人の子ども一人ずつにむきあってみました。顔をみるまでは、一日中どろろんこになってがんばっている息子の事を想いながら待っているのに、帰ってくるややる事なす事いちいち腹が立つ、日々反省です。

第 13 詩

ぎふんともぐったふろの中
そこには海が広がっていた
自分だけの海が

SHOHEI 16 歳

第 14 詩

いつの間にか 私より大きくなったキミ
向こう見ずでやんちゃだったキミが
少し大人になった
祖母と私とキミと一緒にゴルフを楽しんだ
広げた両手のひらから 一人で歩き出したキミ

Shohei's Mom 42 歳

元気いっぱい本当にやんちゃ坊主で育てるのはすごく大変でした。その長男もすっかり落ち付いて、時には冷静な事を母に言ってきたりたのもしく感じる事も…「自分だけの海が」というところから、一人で歩き出したイメージをもらいました。

第 15 詩

いっしょに勉強してくれた
小さなえんぴつに
『ありがとう』とつぶやいた。

寺内 ありな 10 歳

第 16 詩

32 年の時を隔て もう一人 小さな 私
元気なところ よく似てる
にくたらしいところもそっくり
でも私じゃない 一人のあなた
大切な ひとりっきりのあなた

Arina's Mom 42 歳

娘とは誕生日が同じ日で血液型や星座もいろんな事が本当に良く似てるなぁと感じています。自分のイヤなところもすっかりかぶっちゃって、時々母は個人としての娘を忘れちゃいそうになります。彼女のすべてを認めて…大切な一人の…

第 17 詩

大切な友達 私に元気をくれる
あたたかな家族 私に勇気をくれる
私は何を分けてあげられるかな

橋爪 未佳 41 歳

少し元気がない時でも、友達や家族と過ごす前向きな気持ちになれます。いつもいつもありがとう！

第 18 詩

友だちとワイワイしていたいときもあれば
一人になりたいときもある
でも一人はちょっぴりさびしい
友だちって ステキだな
友だちって うれしいな

橋爪 小春 12 歳

この詩には、私の友だちに対する思いを書きました。悲しいことやつらいことがあっても、友だちがいればきっと大丈夫！

第 19 詩

そんな友達
悲しい事や辛い事を励まし合って生きていけるのが
本当の大切な友達

富山 真有 13 歳

友達の大きな存在を改めて感じながら、私なりに友達に感じている事を書きました。友達といっしょなら、ずっと生きていける……。

第 20 詩

12 月の透き通った 星空に
おだやかな 歌声が ひびく
松庵の母の声と ともに
新しい友の輪が
また、広がっていく

富山 わか子 43 歳

しばらく休止していた松庵小PTAのコーラスが活動を再開しました。新しい出会いと、ハーモニーが楽しみです。

第 21 詩

広がる輪の中で 明るく輝くのちがある。
さなぎの中で じっとたえしのんではいるいのちがある。
「きみのもとにも毎日光を届けるよ。」太陽くんがそう言った。

山崎 和恵 47 歳

生き生きとしているいのちも、今は、動きのとれないいのちも、大きな宇宙に包まれ、今日も、明日も、あさっても、太陽は変わらず光を届けてくれている。この年末年始そんなことを感じました。

第 22 詩

太陽はあと 50 億年輝き続ける。(らしい)
太陽はこれからどんどん大きくなり、
地球もいつか、ほろぼす。
太陽は、その後、小さな星になる。
その星は、いつかまた、新しい命を生むだろう。

池谷 友理子 12 歳

今回 2 回目に書かせてくれました。『太陽』というキーワードをつかいました。ちなみに、人間は火星に移り住むそうです。ビックリ！まア私たちは生きてませんけど、空から結果を見ましょう。

第 23 詩

果てしない宇宙の中の小さな星、地球
宇宙船の窓からこの地球を見てみたい
きっと心がしんと静まりかえる

池谷 有香 4? 歳

宇宙飛行士のコメントを聞くと本当に宇宙から地球を眺めたくになります。わけもなくハラハラと涙がこぼれる気持ちになるのでしょう…多分。地球はひとつの生命体、私たちは大いなる意志に生かされているのです☆

第 24 詩

習字のならないごと
長い半紙に書く時は
目をつぶって集中する
そうしていると心さんが言うよ
「がんばってね」と

池谷 志保里 10 歳

自分が習字をならっていたもので…。こんな詩になりましたア…。(-_-) (長い紙に 15 まいも書きました…(-_-))

第 25 詩

集中すると心がおちつく
すると、みえない音がみえてくる
人の耳はすごいなあ

猿田 結菜 9 歳

いつもだと聞こえない音、時計のはりが動く音、最近は動くはりの音が静かなやつもあります、かすかに聞こえるので人の耳がすごい！と思ったことを書きました。

第 26 詩

私は音楽が大好き♡
大人も子どもも男も女も国がちがったって伝え合えるよ。
悲しい時は心をいやし、うれしい時はもっと楽しくしてくれる
世界にはいろんな音楽があるのもおもしろい。
だから音楽が好きなんだ。

山本 優里 10 歳

音楽は言葉がなくても、だれにだって通じるところがすごいと思います。音楽は世界にとってとても大切な物だと思ってこの詩を書きました。

第 27 詩

きょっちはかっこいいうた
がすぎです。みると
うたいたいです。

中江 恭二郎 5 歳

5 歳の彼にとって、歌は「人」と直結しています。人が歌うのを見て、踊るのを見て、そのまま歌い踊ります。

第 28 詩

見る 人がうごくのを見る
大きく見えたり 小さく見えたり
回って見えたり
ぐるぐる ぐるぐる
地球が回って見えたり

中江 陽子

踊りとかスポーツとか‘人が動く’ものに目が吸いよせられます。

第 29 詩

ぐるぐるぐるぐる 時計の針は 休むことなく回り続け
昨日から今日 今日から明日へと 時をつないでいく
時の積み重ねは 私の世界を もっともっと広げてくれるだろう

橋爪 未佳 42 歳

大人になって一日一日が過ぎていくのがとても早くなりましたが、子どもの学校や地域といった場を通して、多くの出会いに恵まれ充実した毎日を送っています。今後も、もっともっと広がっていきますように…。

第 30 詩

久し振りの同窓会
高校時代がまるできのうのよう
心から笑い合った友と向き合い
「変わらないね」と声をかけ合う
帰り路、少し背すじを伸ばした私がいる

富山 わか子 43 歳

高校の同窓会に出席しました。35 年前と変わらず、パワフルな皆に会って、元気をたくさんもらいました。

第 31 詩

悠久の時の中で
行きつ戻りつしながら 変わってゆく
「変わる」と「変わらない」

山崎 和恵 47 歳

変わらない中で変わってゆく、変わっている中で変わらないもの、の不思議、地球と宇宙も、そんなことを思いました。



第3詩

それは、人間にとって必要な「物」
それは、自然にとって迷惑な「モノ」
それって、いっぱいある。けど、見えないふりをする。

池水 遥 12歳

地球には「物」でも「モノ」でもない「もの」の時代があったのに、今は人間中心になってきている…。ようするに、自然と調和出来てないという思いを込めて考えました。また「もの」になれる日は来るのかなあ…。前の詩からのつながりは、「見えない」と言うイメージを重ねてみました。「そこにあるのにない」みたいな…。

第4詩

流れ星！
お願い事したけれど 間に合わなかった。
だって流れ星って すぐくはやいんだもん。
もっと はやく言えるように 練習しておこう。
でも 声に出さない早口言葉って どうやるの？

池水 雅子 45歳

「あるけれど見えないもの」でつなぎました。私の場合は“願い”です。子どもたちと一緒に今年の夏見た流れ星。子どもの心の原風景になってくれたらいいなと思いながら、この詩を作りました。

第5詩

いつも 心の中に 眠る 迷い道
手が、誰かの手が伸びてきたら
声に出さない光が、少し揺れた

重田 えり子 49歳

「見えない心の中」「声を出さない」という事でつなぎました。自分の心の中の不安や、自分以外の人の心の中に、わかっているようでわからない見えないものがあり、それは、自分以外の誰かの支えによってゆり動かされる。私も人によって支えられている。私も誰かの役に立てれば良いなと思う。

第6詩

幾色もの声が 嬉しそうに ほほ笑んでくる
おだやかな ハーモニーとなって
はずれたって さびしくないよ
頑張るすぎると 遠くなってしまうたり
気持ちが近づくと 音色も近づくと

近沢 和子 53歳

「声」という言葉と「心」というイメージをもらってつないでいます。長く合唱をしています。カラオケで独唱した時はいろんな機械のお陰で上手く聞こえたりします。でも、アカペラでだれかと歌う方が何倍も難しいのです。とても、心を合わせないと美しいハーモニーになりません。でも、ひとりよりふたりで歌う方が、美しく楽しい気がします。

第7詩

私には宇宙が広すぎて ひとりぼっちになったようなさびしい気持ちになる
でも 宇宙に守られていると思うと
何だか 何もこわくないと思えた

内田 友紀子 14歳

少し飛んでしまったけれど、「さびしく」という言葉をもらってつないでいます。いつも何かをするときに、ためらってしまうときがあります。そんな時に心の中でこう思うと 勇気がでるような気がするのです。

第8詩

ひとりぼっちの 宇宙人
さびしがりやさんの 宇宙人
ほほ笑んでくれる 宇宙人
えがおがたえない 宇宙人
わたしたちも 宇宙人

室田 恵里 12歳

宇宙が好きだから、宇宙人にこだわった！！

第9詩

私たちの心は、死んだ後どこへ行くの？ どうなるの？
一人一人が、つないでいるこの地球の上に
果てしない宇宙が広がっている 果てしない未来が広がっていく

室田 節子 43歳

わたしたち宇宙人は人間として一生懸命“今”を生きている。生まれ変わりがあるのかなのか 死後の世界があるのかなのか 人間にはわからない事ばかりなのに前を向いて頑張ってる。

第10詩

ノートの上にぼとり。
一匹の虫が落ちてきた。歩き出した。
私は小さな悲鳴を上げた。
たった1つの小さな命が
そこに生きてるってだけで、ちょっとこわくて。

室田 祐依 13歳

みんなといるときに、虫がいてもあまりこわくないけれど、虫と1対1になるとドキドキします。虫もこつちを観察しているような気がします。そんな弱虫な自分を詩にしたら、こじんまりした詩になりました。私も虫も、宇宙生命体です。

第11詩

生きてるって疲れるな。
でも疲れた後の自分の顔を鏡にうつすと
どこかすっきりした笑顔が待っている。

古谷 朱美 39歳

「生きてる」という言葉をもらってつなぎました。まさに私の今です。

第 12 詩

ああ泣けてくる 泣けてくる、空が青かろうと、食事がうまかろうと。
行き交う人々の声も何も聞こえない。何も目に入らない。
親が死ぬってこういうことなんだ。
生きるってこういうことなんだ。
鏡の中に娘としての私がいる。ずっといる、白髪混じりの私が。

金田 真生子 41 歳

「生きてる」につなげ、父親の「死」を今年体験した私の感情を表現しました。
悲しみの深さは、親以上の愛情に出会うことなど無いと悟ったからだと思いま
す。「鏡」という言葉をもらい、いくつになっても娘として甘えていたかったと
いう心情を表しました。

第 13 詩

凍てつく夜。澄んだ夜空に輝く星たちに励まされ、
たどり着いた我家。家族たちの寝顔。あったかいなあ。
ありがたいなあ。なぜだろう？うれしいなあ。

若松 祐二 44 歳

空につなげさせて頂きました。ささやかな毎日、当たり前前に在ること。でも当
たり前に在ることなど、本当は何も無い。すべてが、大事なものの、大事なこと。
大きな広がりの中で、小さな事、大事にしたいです。

第 14 詩

赤ちゃんの目の色は、晴れた夜の空に
似ている。キラキラしてて、とってもきれい。
けれど、星のない黒い瞳は、私達が忘れ
てしまった「何か」を知っている。
だから、少し、怖い。

池水 遥 13 歳

夜空（夜の空）を前の詩からつなげました。私の通っている神明中には「赤ちゃ
んプロジェクト」というイベント（？）があり、その時に思ったことを詩にしま
した。赤ちゃんって、自分の前世を知ってそうだなーって思います。

第 15 詩

丸いってところに、宇宙のひみつがきつとある。
だって、地面をけて 空中でボールをとらえる
一瞬、世界がぶれるの、僕は知っている。

池水 雅子

前詩の 目・瞳⇒丸い形 を連想し、「知っている」でつなげました。球は完全形。
地球や他の惑星も皆「丸い」。その事と私たちの身近にあるボールの「球」はど
こかでつながっている？ テニスをされているという重田さんへ GO！

第 16 詩

さびしく感じる一瞬
そのひと言に腹が立てる一瞬
孤独で不安になる一瞬
でも、ああ楽しい、幸せと感じられるこの一瞬があるから、
心が丸くなる。がんばれるよ。

重田 えり子

宇宙の中の、世界の中の「一瞬」という言葉が気になりました。この一瞬を大事に
して、積み重ねて、自分の心も、まわりの人達も つながって行けば良いですね。

第 17 詩

りんご の りんご で りんごっこ
指先で つついてみても おしてみても そこに 頑張ってる
わたしは ほれほれと 見とれている

浅賀 裕子 56 歳

「心がまるく」と「幸せ」の感覚をいただきました。「りんご○りんご○りんごっこ」
○をいろいろと変えてみると感じが違うので、遊んでみました。まあるいりん
ごは良く見ると、なめらかでやさしい多面体。「まるい心」っていいなあ。心は
凹んだり歪んだりするから、いつもトンテンカンテン修理して、その出来ばえ
は…、まあいいかあ！これが「味」というもの。（年取るっていい。）私という「り
んご」、みんなの「りんご」と一緒に宇宙へ飛んで行け！（（詩は飛ばなかった
です））

第 18 詩

りんごは木から落ちたら 自分では木の上に戻れない
雨や虫や鳥に助けられて 命をつなぐ
人は木から落ちても 自分で何度も登ることが出来る
命あればこそ 助けてくれる人がいればこそ
人は 人も りんごも助けることができる心がある

近沢 和子 53 歳

「りんご」という言葉をつなぎました。人は失敗をくり返しなが、成長してい
きます。落ちこんでも、命を大切にしたいと思えます。いろいろな方に助
けられて、私の命もつながってきたのでしょう。感謝しています。ゲームの世
界では、命を大切にしているのでしょうか？！命があればこそ、やり直しがで
きるのではないのでしょうか。

第 19 詩

赤くて、ピカピカしてる。美しい、リンゴ
食べたら、すっぱそうな あなたの様（妻）
みがけなかった 僕を許して

中小企業の経営者 47 歳

生きていけないぐらいやな感じ 子供が支え！！希望は無い方がいい。無理な
期待も無い方がいい。皆、自分で生きる！！むいてないは向いてない。ごめん
なさい。

PS 希望は私をすてません。死んじゃダメ！！人生はつまんなくない！！

第 20 詩

誰でも 本当は自分が好き
誰でも 本当は自分の良い所を知っている
だって、そうしないと、生きてはいけないから
人間は弱い生きものだから
誰もが持っている神様からのプレゼントを大切に！！

室田 節子 43 歳

みがけなかった僕をイメージして書きました。無理な期待はいらないが希望は
あるという僕…へ 人生はまだまだ 5 合目、これからもっとけわしい道になる
かも、人は皆一人じゃないのだから、もう一度 自分を見つめなおしてみて！！
きっと何かが見えてくるはず。

第21詩

誕生日などの特別な日に相手が喜ぶプレゼントは何かなと考える。
一生懸命考えるのにいつもあまり喜んでももらえない。
実は特別なものより好きなものを食べる方がうれしい顔をする。ちょっぴり複雑。

古谷 朱美 39歳

プレゼントという言葉でつながりました。大人はプレゼントという和高価なものや形に残るものと考えてしまいますが 子供は正直で今満足できるものの方がうれしい。そんなふうな いつまでも正直でいてほしいという願いをこめてつくりました。

第22詩

ぼくの誕生日
自分では特別な日。
だれかぼくの誕生日を覚えてくれ
てるかな。覚えてくれたのは、家族だ。
家族みんなやさしいな。

金田 啓吾 10歳

つけた言葉は(誕生日)です。自分の特別な日と言えば誕生日なので、書きました。

第23詩

初めての誕生日
プレゼントは天使のペンダント
未来へとんでいく私の心

若松 美穂 10歳

第22詩の誕生日を受けて書きました。覚えてないけど、一才の時にもらったプレゼントを見て、私の心は、小さいはねがはえた天使になった気持ちになりました。その時のことをかきました。

第3詩

幕の内弁当のように 小さく カラフルに広がる風景
覚える、そして思い出す・・・
こうして考えることが 生きていること

関口 佐知子 40代

見晴らしの良い展望台からながめた田畑、木、家々は、こまかくてそこで多くの営みが行われているはず。リアルなんだろうけどリアルじゃない。子どもの世話に追われつつも、今この瞬間瞬間を刻みつけなきゃ！と時々思います。

第4詩

カラフルだった街並みにあかりがともる
あかりの下で 子どもたちは幸せだろうか？
私も早く帰ろう
風に吹かれながら
子らの待つ我が家へ

平田 洋子 40代

日が暮れて、お家の方が迎えに来ると、子どもたちは急に甘えん坊になって帰っていきます。眠りにつくまで幸せな時間を過ごせますように・・・仕事を終え、部屋のあかりを消したら、私も二人の子の顔を思い浮かべつつ家路を急ぎます。

第5詩

ひそやかな風が吹く星にも、吹きすさぶ嵐の中の星にも
小さな命が息づいているのだろうか
変わり続ける宇宙見て、ふと思う

松崎 由加里 40代

中学、高校生の頃は様々な読み物や、ドキュメンタリー番組、テレビアニメ、映画などで2000年代になったら月旅行が身近になっている時代が来るものと思っていました。現実には厳しいようです。私があまりおばあちゃんにならないうちに、そんな様子を見たいですね。(笑)

第6詩

満天の星
一瞬の流れ星
真夜中の砂浜に寝転びながら
夢を語ったり
コイバナにほほゆるめたり

八田 まさよ 40代

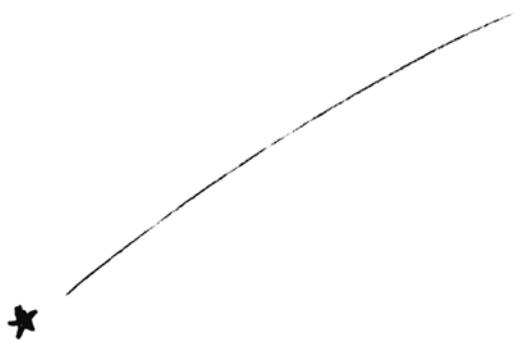
子ども達がのんきに育っていける時代ではなくてきているけれど、けど、わくわくするようないるんな事経験して大きくなっていてほしい。いつもそう母として思っています。

第7詩

夜の街を散歩する
星と風と
静けさと僕

瀬端 昌志 22歳

散歩するのが趣味です。夜中の街は静かで人も少ないので気分が良いです。



第 8 詩

街を歩こう
雑踏の中に
一人きりの自分がいる
ただいま とドアを開けよう
おかえり と返事をしてくれる人がいる

ボンヌママン 52 歳
これから一人立ちしていく子ども達にとって、我が家がいつでも温かく迎えてくれる、ほっとできる場所でありたいと思います。

第 9 詩

「行ってきます」「行ってらっしゃい」
「ただいま」「おかえり」
小さな言葉の中に たくさんの想いをこめて…

山崎 昭子 40 代
毎日子ども達にかけている他愛のない言葉ですが、今日も「行ってらっしゃい」「おかえり」と言えることはとても幸せなことと感じるこの頃です。いつまで言ってあげられるんだろうな。

第 10 詩

朝、「いってきます」といって家を出る
ふと空を見ると
雲ひとつない青空だった
なんとなく気分がよくなる
宇宙^{そら}は人々の気分をも左右する

山崎 桂 16 歳
お天気が晴れだったら、自然と気分がよくなり、雨だったら、なんとなく気持ち沈んでしまう。人の心情まで変えてしまう宇宙はすごい！！

第 11 詩

思わず出る鼻歌
調子っぱずれでも 平気、平気！
いつだって太陽は笑ってくれてる

宝神 彩 30 代
星を眺めていると、この地球上の全てが太陽の恵みをうけて生命を育み、つないでいっていることがほとんど奇跡のように思えてきます。小さな悩みはどうでもよくなり、今ここにこうして皆で生きていられることへの感謝の気持ちでいっぱいになります。

第 12 詩

太陽のように笑う家族
時には雲にかくされてしまうけど
ずっと笑い見守ってくれている
だから私の心に花が咲く
かわいい真白な花が

迫 晴菜 10 歳
家族がいて、私の居場所があって、いつも私の心は満たされているという気持ちになります。

第 13 詩

新しい友達とケンカをしたり
笑ったりするのは
親友としての第一歩

佐藤 歩果 10 歳
新しい友達とは、気が合わなかったり、大変なこともあるけれど、いつかは仲良くなれるんだと思っています。

第 14 詩

その人の笑顔を見ると
ぎゅっと胸が締め付けられる
うれしくて 幸せで 切なくて
そして僕は一匹の自由なミドリのカエルになり
イメージの中で自分にできる限り最高の笑顔を作り ピョンと宙高く跳ね上がる

佐藤 正章 43 歳
自分にとっては具体的な大切にしたい思いを書きました。個人的すぎて分かりにくかったり、続けにくかったらごめんなさい。

第 15 詩

夜の道を犬と歩く
あと何時間かしたら、この月、この宙^{そら}を、
違う国の犬たちも見ろんだね

佐藤 文恵 42 歳
冬のお散歩は、星がとてもきれいです。同じ星や月を世界の人々も見ているんだと思うと、見えないところで皆つながっているという温かさを感じます。人間だけでなく、世界中の犬たちもきっと！

第 16 詩

犬の太郎は
ペロペロペロペロ舌を出す
じーちゃん ばーちゃん親代わり
子供のように可愛がってる
今日もいっしょにお休みなさい

山口 浩史 39 歳
半年前に子犬が実家に来ました。子犬にふり回されるじーちゃん、ばーちゃんの様子。

第 17 詩

犬屋さんでだっこした子犬
うでの中にもぐりこんだ時
すごく温かくなった はなしたくなかった

山口 礼乃 10 歳

第 18 詩

男の子 2 人の孫がいる
10 代になり背も伸びて
あまり来なくなって ちょっと寂しい
その代わりチョコ（犬）が来て
ちょこちょこ走り回っている

清水 冬樹 86 歳

週 1 回の会食では孫もいろいろ話してくれて、じいちゃん、ばあちゃんは幸せなひとときです。

第 19 詩

息子と嫁と孫と犬、わんさかわんさか集まって
年に一度の正月だ
すごいもんだねお袋さん、86 年生きてきたあなたの証がここにある

清水 雪司 49 歳

地方にいる兄弟が年に一回集まって、一日中食べたり飲んだり、総勢 18 人と 2 匹です。見ているだけで疲れると母は言うけれど、4 人兄弟を育てたあなたを尊敬し、長生きしてねと全員思っているんです。

第 20 詩

お茶碗ぐらい洗っておいてよ
忙しい私のがんびり家族に言う言葉
いつもいつも言っていたのかな
けがした息子が帰ってきて「僕、茶碗洗うから」
そんな事言われたら大笑い、あとから 涙

清水 由紀子 43 歳

私の機嫌をとろうと息子が考えた苦肉の策。心配のたえない子育てだけど、怒ってばかりじゃだめなのねと反省しつつ、心が温かくなった事でした。

第 21 詩

三人いっしょにいても 私はひとりぼっち
二人のはなしがわからない
六才の涙が床をぬらす

岡崎 真知子 49 歳

にぎやかにすごしている子どもでも時折、こんな気持ちになることがあるようです。三人というのは、なかなか難しい関係です。「孤独」はこれから長いつきあいになります。

第 22 詩

6 才の春
待ちに待った小学校
ランドセルが大きすぎて
逆に背おわれているような後ろ姿
いつかはピッタリになる

安川 真由美 30 代

小学校に入った頃は、ランドセルを背おうだけでも疲れてしまう。週末になると、体操着なども加わり、玄関に入った途端、倒れ込んでしまっていた。でも心配もつかの間。夏前には大荷物でも元気に笑顔で帰って来るようになりました。子どもはたくましいですね。

第 23 詩

小学生から
中学生へ また
新しい春が始まる

関口 泉 13 歳

私は今中学生なので、書きました。

第 24 詩

小さい頃
空を見ると こわくなった
宇宙の果てが こわかった
近頃は
空を見なくなったな

関口 現 40 歳

第 25 詩

冬の空、すみきった青空を見上げ
今日 1 日無事にすぎた
明日も良い日でありますように

田代 ちよ 70 歳

1 月に古希を迎え記念のしるしに書かせて頂きました。これからも孫達の成長を楽しみに、元気ですごしたいと思います。

第 26 詩

高校生の夏
あの頃見上げた空は
怖いぐらいの深い青
空に向かって落ちてしまいそうな
そんな青空を また見たい

田代 信行 43 歳

見わたすかぎり田んぼだった高校も今じゃとりにレイクタウン。昭和は遠くなりにけり、の感。

第 27 詩

晴れ男
晴れ女
生まれた子供も晴れ女

田代 雅弘 45 歳

大切な行事やおでかけの時、なぜかいい天気に恵まれるなあ、と思うことが多い私達。11 月、長女が生まれた日も、いい天気でした。家族 3 人、おひさまに守られているのかな？と幸せに思っています。

第 28 詩

晴れ家族

おでかけする日は いつも 青空

おひさま ぽかぽか 気持ちがいいね

赤ちゃん にこにこ 幸せだね

今日も るるん 楽しい一日

田代 美華 28 歳

娘と一緒に外出する時は、いつも気持ちのいい快晴！ぽかぽか陽気で機嫌のいい娘を見ていると幸せな気持ちになります。

第 29 詩

暖かくなると 黄色やオレンジ色に変化する

ヒトのからだのサーモグラフィー 何かに似てると思ったら

「地理」で習った 山なんかの等高線

関口 佐知子 40 代

ぽかぽか からイメージしたら浮かびました（第 23 詩～28 詩までは、正月休みに集った私の家族に書いてもらいましたが、みなそれぞれいるんな節目を迎えていた昨今、宇宙連詩に関われたことで思いがけない思い出ができたと思います）。

第 30 詩

四十余年の私の人生 今は人生 何合目？

～学生時代、結婚、出産、子育て、仕事…

小さいながらも、山あり、谷あり…色んな事があったなあ…

これからも ゆっくり、ゆっくり 歩んでいこう

楽しみながら…いつかいつか、お呼びがくるまで…ね！

山崎 昭子 40 代

回覧板が手元にある間に 21 回目の結婚記念日が来しました。その時その時は一生懸命でしたが、あっという間にたってしまった感じがします。毎日の小さな出来事を積み重ねながら大切にこれからも過ごしていきたいな、と思います。

第 31 詩

ゆっくり歩く

すると、今まで見えなかったものが 見え始めた

たくさんのものに支えられて、今私はここにいる

佐藤 文恵 42 歳

より速く、より効率的にという価値観が、以前は私の生活の大半を占めていました。子どもが生まれてから、「これは無理だ」という場面に何度も出くわし、ペースを落とすことは悪いことではないということによりやく気付きました。

第 32 詩

支えが取れたら

ミドリのカエルが再び現れ

ものすごいスピードで走り始めた

突然転び顔面を強打し

でもニコニコ笑ってた

佐藤 正章 43 歳

自分のことで精一杯でなかなか余裕がありませんが、できるだけ明るく、という希望を込めました。

第 33 詩

みんな笑ったりおこったりする

どうしてだろう？

それは生きているってこと

山口 将史 10 歳

第 34 詩

こどもたちがふざけてじゃれあい大笑いしている

そのうち、それがケンカになり、泣き

そして私はしかる

こんな出来事のくりかえしに ありがたみを感じる

今だけなんだろうな…と

山口 有来子 38 歳

今年 10 才になった我が子達を真剣にしかったりするのめあ何年だろう？とふと思いました。成長していく喜びと親元から離れていくさびしさを書いてみました。

第 35 詩

このキラキラした気持ちは今だけかな？

こんな気持ち、めったにないもの・・・

忘れないように、そっと、祈ろう

清水 有樹 20 代

単純に、明るい詩にしてみたかった。本当に素直な気持ちで書きました。

第 36 詩

もうすぐ息子の卒業式

私も 9 年間の PTA から卒業

たくさんの思い出とすべての出会いに感謝

新しく始まる一歩のために

心をつくして祈る

清水 由紀子 43 歳

節目の時を息子とともに喜び、これから始まる時を大切にしていきたいと思えます。

第 37 詩

出会いの時は なごやかなれど

時を重ね 途惑いとともに

今 幸多かれと祈る

岡崎 努 49 歳

第 38 詩

私のふるさととは ほたるの里
となりの町は 星の郷^{さと}
初夏の夜は
地の光と天の光が^{さと}出会うところ
短い命を悠久の時がつつむ

岡崎 真知子 50 歳

子どもの頃は、6 月になると 7 時半に子どもだけで集まってほたる狩りに行っていました。私の町の南の山には国立天文台があり、此の町は 20 年前、日本初の光害条例ができたところです。星には縁があり、私は小川未明の「ある夜の星たちのはなし」が大好きでした。

星の 8 丁目

(11/11 地域発)

第 3 詩

小さな風が 静かに顔をキスして行った
赤い葉っぱが追いかける
風はどこまで 走って行くの

安西 志保子 71 歳

風は無形でありながら、感情も動行もそして風景も表現する。私は風がとても好きです。ここでは第 2 詩に顔があるので接点を持って見ました。

第 4 詩

頭を刈ってもらいネクタイをして
直立不動のお兄ちゃん
妹達も右に倣え！七五三
宇宙の変わらぬ営みは
小さい風達の集まりか

加藤 正子 60 歳

第 5 詩

真新しい背広に赤いネクタイ
靴は白い足跡をのこして
哲学を語るは宇宙人かも

杉山 せつ子 70 歳

第 6 詩

どこまでもつづく青い空
黄色い いちょうのじゅうたん
ゆっくりと踏みしめて朝の散歩
キラリと光るあれは
宇宙からのメッセージ？

伊藤 純子 73 歳

第 7 詩

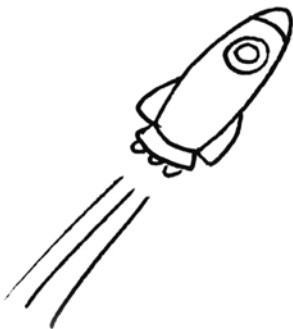
見上げる天^{そら}
紅葉で真赤に染る
これは、宇宙からの送り物…

瀬戸 慶子 58 歳

第 8 詩

赤い風船ファファと
何か探しているのかな
子供が急いで追いかけた
風がフーッと吹き上げて
広い空へ飛んで行く

瀬戸 永子 72 歳



第 9 詩

冷たい風がサッと吹いて来た
落葉が蝶のように舞っている
今日も一日寒いのかなあ…

夏目 政之 79 歳

第 10 詩

寒いなあと思っていたら
もう十二月に入りました
日めくりカレンダーが薄着になって来て
寒いよーと
ひらめいています

鳥羽 一栄 83 歳

第 11 詩

来年のカレンダーは ピカピカ
今年のカレンダーは ごちゃごちゃ
ピカピカはわくわく、ごちゃごちゃはしみじみ

関根 めぐみ 43 歳

来年のカレンダーを何種類か買って来ました。1 年でカレンダーは家族の予定がたくさん書きこまれて行きにぎやかになります。捨ててしまうのが少しもったいないですね。

第 12 詩

ピカピカのランドセル
ドキドキの小学生
わくわくしながら通う道
黄色い列も
あとわずかなかな？

窪田 佳子 34 歳

第 13 詩

またピカピカの一年生
ドキドキ、ウキウキ、ワクワク、時々ションボリもしたけど
さあ未来へのこの道を歩いていこう。

小久保 智淳 13 歳

小さい頃から宇宙に行ってみたかった。僕が書いたこの詩が、一足先に宇宙の「きぼう」へ向かってとんでいく。大人と夢への道を、また一歩歩く。来年も、希望と夢に満ちた年でありますように。

第 14 詩

兄はピカピカの 1 年生
妹はウキウキの 2 年生
ねえねえ、それでね ねえ 聞してる？
負けじと話すにぎやかな食卓の笑い声が
今日も幸せな 未来を少しづつ紡いでいく

小久保 理恵子 47 歳

中 1 と小 2 の母親で ひとり娘で長男の嫁の私の日常は、綱渡りの連続で、ゆとりとは全く無縁ですが実は人生の中で一番幸せな時期なのだとしみじみ思います。我が子はじめすべての子ども達がこの幸せな実感を紡ぎ続けられる事をこの松庵の地から願っています。

第 15 詩

ピカピカの 1 年生は楽しいけれど、
2 年生はたいへんだ。
は～～きょうもつかれたな！

小久保 清香 8 歳

第 16 詩

ね・む・・・い・・・、ね・・・む・・・っ・・・た？
ぴかぴか、ちらちら、きらきら
何年前の光？
星の瞬きつつまれ、浮きあがるからだ
意識は百万光年の彼方に

吉田 浩 46 歳

光が地球に届くのには太陽は 8 分 シリウスは 8. 6 年 デネブは 1500 ～ 3200 年

第 17 詩

あんなに遠くにあるのに太陽の光は今日も洗濯物を乾かしてくれる
夏は暑くて日焼けして 冬は陽だまりが嬉しくて
そのエネルギーの下で今日も暮らしていく

吉田 玲子

太陽の大きなエネルギーは宇宙にとって とても大きな存在で人間の営みはとても小さくて、でも大きな宇宙の中の小さな平凡な毎日がとても大切なこと幸せなことだと思います

第 18 詩

空を見上げると
渡る鳥たちの姿
同じ方角に
一心に向かう
生きる為に向かう

安西 裕子

結婚前に主人と岬で渡り鳥の大群を見ました。海を渡る為に岬から命がけで飛び出して行く様は鬼気せるものがあり、迷って何度も引き返して来るもの、思い切って飛び出すもの、仲間につられて行くもの等、様々でした。生へのエネルギーそのものでした。

第 19 詩

冬で好きなものは
サンタさんもそうだけど
やっぱりゆき！

安西 まい鳥 7 歳

第 20 詩

冬が来て、春・夏・秋もやって来て、
いつも 1 日 24 時間
昼と夜と半分づつ
宇宙の素敵なプレゼント
今日はいったい何に使おう

平川 明子 43 歳

昔、毎日 24 ドルの財産が与えられる、といった内容の外国の詩を読んだような…。毎日忙しくて、あっという間に過ぎていってしまうけれど、もっと 1 日は大切に過したいなと思いました。

第 21 詩

庭ではしゃぐ こどもたちの わらい声を
冬の風が 優しく もってきたよ
来年もまた 素敵な時間を 運んでね

大川 麻子 36 歳

本当に何気ない穏やかな瞬間に「ずっと平和な世界であってほしいな」と恒久の平和を願うことが多いです。穏やかな時間に感謝の気持ちをこめて……♡

第 22 詩

もうすぐお正月だな～～～
お正月には、やっぱりおもち？
おもちのはのびるね おもしろいなー
のびるし、ふくらむ！！
おもちといっしょにゆめもふくらむ！

大川 ゆり子 8 歳

わたしはお正月になるとおもちをいっぱいたべます。おもちが大好きだから、こーゆうしにしました。

第 23 詩

ゆめはどンドンふくらんで
空いっぱい広がって
キラキラとかがやいている！

せと みほ 8 歳

ゆめ

第 24 詩

わたしのゆめは、バレリーナ
つらいれんしゅうたえています。
春になったら
トウシューズ
つま先立ちは、できるかな？

なべしま あん 8 歳

第 25 詩

空に舞う自由自在の奴唄
御江戸の風に囃されて
春の一字を宙に書く

杉山 せつ子

第 26 詩

果てし無く拡がる宇宙の中で
奇蹟の星・地球には
必ず春が訪れる
人はみな歳の数だけ春を迎える
地球は今年、何回目の春かな？

村上 和子 41 歳

第 27 詩

奇蹟の星、あの宇宙には、いくつあるのだろうか。
仲間とぼくと、ともに宇宙へ行ってみつけてみたい。
きっと希望の光がぼくを導いてくれる。

村上 国男 11 歳

学校で「希望の光」を勉強してこのような所でいさせるなんて、とてもうれしいです。

第 28 詩

宙から綿毛の様に舞ってくる
雪道をきしむ車の響き
真っすぐのびたわだちの跡
白い帽子の子が走ってく
光り輝く銀世界の中

瀬戸 永子

第 29 詩

宇宙の旅 38 万 K
ボク達、私たちも行ってみたいね、
何があるんだろう？あるのかなー

瀬戸 慶子

第 30 詩

早春の旅、山々に鳥達の唄声、野に咲く可憐
な草花、燦燦と降り注ぐ明るい陽光
自然は何んと豊かなのだろう。
広大な宇宙の片隅に私達は自然と暮らしている
この幸せを何時までも噛みしめて居たい

夏目 政之 79 歳

もうすぐ春、そこそこに自然の生きぶきを感じています。

第31詩

ひとりしていると みんなが恋しい
みんなといると ひとりが恋しい
でも どちらの時も幸せ

関根 めぐみ 43歳

第32詩

幸せってなんだろう
おいしいものおたべてる時？
ねてる時もしあわせかな？
いろいろいろいろ 考えた
でもやっぱり なんだかわからない

五月女 瑞希 9歳

第33詩

わからない、私の未来がどうなるかなんて
でもわかっていたらがんばれない
わからないからがんばれる

田畑 有紀子 12歳

私たちの未来は宇宙のように無限に広がっています。失敗をおそれず、いろいろなことにチャレンジしていきたいです。

第3詩

どこか遠い所までお散歩してみたい！
でも遠い所ってどんどこ？
きっと新しい発見があるに違いない。

藤本 潤

第4詩

八百屋さんまでの道のりが二人の散歩道
私の手を小さい掌がぎゅっと握りしめる
温もりが幸せいっぱい包み込む
幼い頃、同じように母と手を繋いだ道
ふと思い出し涙する

小山 千草

第5詩

広～い空 鳥になってお散歩したいな
木の上でお歌歌ったり隣り町に行ったり
大きな雲の綿あめ食べてみたい

平林 章乃・珠吏 (5歳)

第6詩

夕焼け雲がきれいだね
ほら鳥さんもみんなおうちへ帰っていくよ
じゃあ あとすべり台一回だけね
走っていく小さな後ろ姿が笑ってるみたい
空の色が少しずつ変わっていく

蜂須賀 綾乃 40歳

前の詩の「鳥」と「雲」から夕方の情景をイメージしました。

第7詩

見上げてごらん
どこまでも青く大きな空にうかぶ白い雲
かたちを変えながらゆったりゆったり流れていくよ

宮本 円子 39歳

大好きな「空」を受け、誰もがみる四季おりおりの雲。ゆったり流れる様は時間忘れ、地に寝ころんで眺めていたい。



第 8 詩

ねえ みてみて
こっちはくるま あっちはかいじゅう
ハートにもみえる
いろんなかたちの雲があるね
でもわたあめみたいでおいしそう

宮本 望羽 6 歳
お母さんと野原でみた雲を詩にしました。

第 9 詩

みてみて、今夜は昨夜より 星がきれいに見えるよ
空気が澄んでいるから…？！
寒くなると 素敵な発見があるね

八代 友美 42 歳
「みてみて」を受けて…。寒くなるにつれて星がきれいに見える…娘と理科の勉強をしている時、2 人で空を見て、あらためて実感しました。

第 10 詩

今夜はまちにまったクリスマスイブ
サンタさん、来てくれるかな？
プレゼント、もってきてくれるかな？
きっともってきてくれるよね
すてきなすてきなプレゼント

八代 真緒 10 歳
「今夜」を受けて。もうすぐクリスマスだから、たのしみな気もちでこの詩をかきました。

第 11 詩

ひしゃくですくうの どんなゆめ
すこしずつ すこしずつ
おおきな ゆめを すくってほしいな

大上 篤彦 42 歳
9、10 詩の「今夜」をうけて、星空をイメージしました。小さな努力を惜しまない子になってほしいとの考えから、「ひしゃく」を意味する「斗」の字を 2 人の子どもの名前にいれています。星空の北斗七星とかけて、こうした親の思いを表現してみました。

第 12 詩

おなかのなかで漂いながら
夢をみていた この子
今では とんでねむってる
どんな夢をみているの？
しあわせな夢 みてほしい

井町 真弓 34 歳
11 詩の「ゆめ」につなげて作りました。子どもにはいつも幸せであってほしいとの願いをこめて。

第 13 詩

おおきくなったら
うちゅうのたび してみたいな
ロケットにのって

井町 はるた 5 歳
「ゆめ」から…うちゅうへいくのがゆめだから。

第 14 詩

宇宙には たくさんの星たちが光っているよ
みんなキラキラ輝いて 仲良く私たちを照らしてくれる
地球には たくさんの子どもたちの笑顔があるよ
みんなきらめく夢をもち みんな仲良し にっこにこ
ずっと大切にしたい この輝き

味方 美紀 38 歳
第 13 詩「うちゅう」より、星のきらめきをイメージしました。
子どもたちの純粋な笑顔や瞳と、星の輝きは美しく素敵なもの。
大人の私たちが守っていかなくては、と思いました。

第 15 詩

皮ごとかじろう シャキシシャキりんご
大地のパワーが つまってるんだ
いちばん いっぱい 食べるの だ〜れだ？

佐藤 典子
「子どもたちの笑顔」から、笑い声のあふれる楽しい食卓をイメージしました。
守っていくために、大地も大切にしたい。空、宇宙から、足もとの地球に視線を変えてみました。

第 16 詩

「いっぱい いっぱい食べたらね
大きなおねえちゃんになるんだよ
ほら、見て 大きくなったでしょ」
無邪気に話す小さなあなた
「本当に大きくなったね」

西村 彩・奈里
小柄な娘は自分より大きなお友達の中で小さな自分に疑問を持ちました。そして自分で大きくなる方法を発見。なかなか大きくなれないと思いますが、生まれる前から大きな存在です。

第 17 詩

お姉ちゃんはいつも先に 行ってしまう。
手をつないで欲しいのに、なかなか 立ち止まってくれない。
でも 今日は 一緒に横を歩いてくれるんだね。

瀬川 宣子 37 歳
我家は 3 姉妹。お互いをライバル視していつもケンカが絶えません。反発し合いながらもよりそっていくような、強い絆で結ばれた 3 人に成長して欲しいです。

第18詩

親子仲良く寝転ぶ姿。
可愛い寝顔に微笑む毎日。
幸せかみしめ感謝する。
どんな夢を見ているの…？
ずっと一緒に楽しい夢見れたらいいな。

木村 和子 28歳

我が家は最近、上の子が小学生になるに当たって寝室を子どもと別にするか討議していました。けれど子ども達に嫌と言われるまで一緒に寝たいと夫婦で決めたので「一緒」という単語を聞いて迷わず思いつきました。

第19詩

パパになりたい。
大好きだから…。
それが僕の夢なんだ。

木村 拓馬 6歳

彼の夢は物心ついてからずっとこれで、私の詩を聞き「夢」ということから、ただこの言葉が出てくるのが自然なかんじでした。

第20詩

叶うかな？僕の夢
宇宙は言う
それは果てしなく拡がりゆく
オーロラは言う
それはきらめき輝やき続ける

今西 正美

この眼で私はオーロラを観たいです。親子で観てみたい。どんな気持ちになるのでしょうか？我が家の子どもたちの「夢」は知らないけれどそれは「叶う」と言ってあげたい。

第21詩

夜の帰り道
「ママ！お月様が追いかけてくる！なのことが大好きなんだね」
いつまでもお月様に愛されるあなたでいてね。

伊東 美奈子

輝きより月をイメージして。ある日の可愛いかんちがい。誰からも愛されると思えるのは幸せなことです。思わず笑顔になりました。

第22詩

夕方、息子が空を見上げて言った。
「今、夜じゃないよね？夕方でしょ。
それなのにお月様が出てるよ！」
不思議そうに楽しそうに 空を見上げる子供達。
たくさんの事に興味を持ち続けてほしいと願う。

蜂谷 亜紀 34歳

21詩より「お月様」を引用しました。たくさんの事を、知ろうとする興味を持つ事…大切なことだから。

第3詩

遠い昔に聞いた子守唄
しずかな音色で心が安まる
ずっと引き継がれてきた母の魂かもしれない

安藤 恵子

第2詩から昔の母がイメージされて書きました

第4詩

おかあさんが 少女だった頃
ローセキで絵を描いて ふと気づく
夕餉の匂いのする路地で 見上げた空には
一番星が光っていた
あれは 何の星だろう

白瀬 ゆり

子どもの頃「宇宙」といったら月と星でした。大きく赤く光る月に怖れを感じたり、冬の星座の名前を覚えて遠い宇宙にはどんな生物がいるのだろうと考えたりしました。夕方いつまでも遊んでいて、帰り道にふと気づくのは一番星。あわてて家路を急ぐのは子どもの常ですね。一番星が子どもの帰り道を見守ってくれているような気がします。

第5詩

見上げた空には
飛行機雲が一本
さて、どこへ出かけようか？

倉田 まなみ

晴れた日の空に飛行機雲を見ると、わくわくしてどこかへ出かけたくくなります。

第6詩

朝、太陽の光で目が覚めた。
今日も1日頑張ろう！
太陽の光よりも輝く 子どもたちの笑顔。
その中に居る私も また輝く。
いつまでも 子どもたちと共に 輝く先生で居たい。

小池 桜子

第5詩から「でかけよう」と言えば仕事。子どもたちの笑顔が大好きです。

第7詩

2アウト満塁 逆転のチャンス
震える手足をおさえ打席にたつと目の前にはなぜか揺れている太陽
もしかしてあの時のきみも緊張していたのかな？

斉川 真緒里

第6詩の「太陽」から高校時代の部活が思い出されました。沢山練習をして汗かいてふと見上げるといつも見守ってくれている温かい光。そんな太陽が試合の時だけは違うように見えました。まるで私の気持ちを反映しているかのよう…その時の思い出を詩にしてみました。

第 8 詩

いつだってチャンスは目の前に転がっている
太陽は私の背中を押してくれる
あの時偶然流れたあの音楽で
もっと前に進みたいと思えたんだ
あれも神様からのプレゼントかな？

宮寺 恵

第 7 詩の “ チャンス ” “ 太陽 ” より。
専門学校受験の前に不安や迷いを抱え、偶然立ち寄ったコンビニで私の大好きな
うたが流れ、勇気をもらいました。偶然の不思議を詩にしました。

第 9 詩

神様からのプレゼント。
嬉しい時も、辛い時も、悲しい時もある。
でも精一杯生きている「今」の「自分」が好きだ。

瀬在 曜子

私が今生きているのも沢山の人の支えがあったからこそ。そしてそんな人生を
プレゼントして下さった神様に感謝する気持ちで書きました。

第 10 詩

嬉しい時は、両手を上げて輝く太陽に叫びます。
辛い時は、広くて青い空に励ましてもらいます。
悲しい時は、雨空に語りかけます。
いつでも空は私達を見守ってくれます。
明日はどんな空になるのかな？

大溝 美恵

小さい頃から空を見るのが好きで、どんなに辛く苦しくても毎日違う空が私達
を見守り、勇気づけてくれると感じています。

第 11 詩

一筋の光が夜空をよぎる。人々は願いを込める。
星は宇宙でさまざまなエネルギーを得て自ら輝く
あなたは それに何を願うのか。

小山 翠

地球の私達も星のように色々な物や人々によって “ 生きている ” と感じます。そ
れらのエネルギーを得て輝くことが出来れば尚いいと思います。

第 12 詩

今、夜空で光っている星は何億光年かけて
私達まで届いたのか。
そして、光り輝く星達は
どれだけの大昔から
地球の人々の願いを聞き続けているのだろう…

須永 明音

前詩の “ 願いを込める ” という文から、逆にそれを聞く星はどうなのだろうか？
古代の人々の願いも星達は聞いたのだろうか？と逆の立場は？と考えたので書
いてみました。

第 13 詩

「シリウス」何億光年かけて、一番輝いているのか？
シリウスの青白い輝きに導かれて、夜道を歩く
私の願いは 夢は…

佐山 直美

“ 何億光年 ” “ 願い ” から連詩、たまたま読んだ本が「シリウスの道」であった
ためイメージがこれになる

第 14 詩

家路を急ぐ夜道で母と子の会話が弾む
一番星をみつけたと 空をみあげた娘
同じ目線でみあげてみる…
星にどんな思いをよせているのか
子どもの顔に和み、懐かしむ

佐々木 由里

前の詩の “ 夜道 ” から、仕事を終え保育園へ子どもを迎えに行き、荷物や、買い
物いっぱい娘を自転車に乗せ家に向かう帰り道に星や月を見てははしゃぐ子
どもに疲れた気持ちが癒された気持ちを詩にしました。

第 15 詩

家につき再び夜空を見上げる・・・
すると空にはたくさんの星が浮かんでいる。
明日も晴れるかなあ？

立羽 一恵

前の詩の 1 番星から時間がたつにつれて星がいっぱいになる空。その星空を見
た時に「明日も晴れるのかなあ…」とワクワクした気持ちを詩にしました。

第 16 詩

晴れた日に、空をぼんやり見ていると
自分は宇宙から見たら小さくちっぽけな
存在だと思う。
現実に戻ると、家事や育児に追われる日々
人間で忙しい。

平野 めぐみ

育児をしていると自分に余裕がないですが、ふと青空を見ると、少しはゆとり
を持って過ごさないと…と思います。



星の11丁目

(松庵児童館発)

第3詩

目を細めて地平線を見る
まあるく でっかい地球を感じる
青い空 青い海 緑の大地に生命を感じる

小林 武彦 51歳

2詩の地平線から学生時代旅した北海道を思い出した。ゆるやかにカーブした地平線を見て「やっぱり地球はまるいんだ」と言った友人の一言が蘇った瞬間です。

第4詩

牛さん 牛さん 何処行くの
草を はむはむ 食べながら
緑の牧草地に鳴り渡る
ガラゴロンとカウベルが
首に重くはないですか

藤野 京子 45歳

前詩から、視界いっぱい広がる草原を連想。
以前、旅したアルプスでのスナップを詩にしてみました。大自然の恵みの中で
淡々と命を営む風景と、ちょっとストレスを抱えていた当時の私の心象です。
…そして来年、日本は丑年ですね！

第5詩

よちよち よちよち 何処行くの
あなたが 歩む その先は
すてきなことで あふれているね

中野 真奈 26歳

前詩の「何処行くの」を引用しました。1才4ヶ月の息子は歩けるようになったのが嬉しくて、どこへでも歩いていきます。息子が気づかせてくれる、日常にある「何気ないこと」「もの」は、新鮮で楽しいです。この先の息子の将来に、すてきなことが「たくさん」あると信じ、そうであるといいなあという願いも込めて…

第6詩

川沿いの小道を二人でさんぽ
樹々をながめて のんびり歩く
「？」に会うたびに 足をとめる
おいで！すてきなものがあるよ！
後から来た婆さんに追い抜かれる

青山 陽一 32歳

第7詩

子どもの「？」は無限大
土掘り 草分け 突進する
大人が見れば いたずら集団参上！

安川 真由美 32歳

前詩の「？」を引用しました。最近あったことを文字にし、自分も同じことをしていた記憶があり懐かしかったです。この子達も仲間を大切に、大きくなって欲しいと思います。

第8詩

突進していく 小さなからだ
お花畑に ふわふわ ぼん
山のとっぺんに えっちらほい
林にむかって とてちて…ごつん！！
あ☆星がでた

江渡 こずえ 48歳

第9詩

あんれまあ！「星」が今 きらっとしたよ
み仏の手に乗り旅だった マザー
今頃 どこさあー いってんのかなあ！

照井 明意 57歳

最近83才の母がみまかりました。悲しい気持ちより、今ようやく母が身近にいて自分を見つめてくれている気配を感じています。不思議なあたたかな気持ちです。

第10詩

きらっと ひかる 今のセリフ
おねがい きゅうちゃん ワンスモア
「うへん 日本の やけい は すばらしい」
梅林のむこうに広がる 松庵のあかり
おぼけ も きっと みとれているよ

岡崎 真知子 49歳

6:30に学童クラブを出た瞬間 1年生のきゅうちゃん（仮名）が叫んだことを書きました。「日本の」と言ったところで大笑いしました。暗がりが嫌いなきゅうちゃん、大丈夫、オバケもきっと見とれているからでてこないよ。

第11詩

酔った帰りの暗闇小道
ふっと見上げた視線の先に
オリオン またたきを ワンスモア

森山 拓 24歳

「ワンスモア」をいただきました。お酒を飲んで気分良くふらふらと帰ってる時に、たまたま見上げた空。「あれ！オリオン今光った？！あれ？！」を感じです。これから忘年会シーズン。

第12詩

オリオンの下には
クリスマスツリーのあかりがまたたき
窓からは わらい声がこぼれてくる
さがしものは
あんがい近くにあるかもしれないね

岸本 玉緒 44歳

12月は寒くて暖かい季節。夕方暗くなりかけの細くて冷たく光る三日月やオリオンが窓の中の明るさとあたたかさを強調している感じが好きです。夕餉の匂いも漂ってきたりして・・・

第13詩

みつけた みつけた さがしもの
君のキラキラ笑顔の中に
こっそり ちゃんと 隠れていたよ。

松本 かおる 48 歳
子ども達の笑顔に会うと、何で嬉しくなるんだろう。たくさんの宝ものがあふれているからかな？ そうそう、私もいつも 笑顔でいよーっと。

第14詩

「もういいかい」「まあだよ…」
私の大好きだった“かくれんぼ”遊び。
「みつけた」の言葉にほっとしたこと。
一緒に帰る友だちがいて 帰る家があつて…
今も昔も 変わらない 子どもの遊び。

足立 智子 61 歳
私がいつでも感謝していること。それは、楽しい時、悲しい時、苦しい時、うれしい時。そんな時、いつもそばに友だちがいてくれたことです。

第15詩

冬の夜空にキラリとひかり すーと流れた星ひとつ
祈ろう 願おう 世界の平和
ひかりの ひとすじ 消えぬ間に

織田 憲弘 64 歳
流れ星に祈ることはかくれんぼ遊びとおんなじこどものころの楽しい思い出。欲しいものを願い、好きな人のことを祈ってみたり…そして今、果てしなく 尽きぬ争いを うれいている心をこめた和平への祈りです。

第16詩

落葉を握りしめ
キラキラした目と笑顔に向けて
小さな その手を見せてくれた
そうか 子供はいつも
感動しているんだね

織田 由架子 32 歳
1才になったばかりの長男が初めて外を歩いた日のこと。落葉をさわってうれしそうに「見てー！」と手をひらいて見せてくれた。大人があたり前すぎて見向きもしないモノでも子供には宝ものに見えるんだと思って感動しました。

第17詩

いろんな手の中にある喜び
そんな手をみんなでつなげば
一本の輝く糸

織田 かおり 28 歳
前詩の「手」の中にある あたたい喜びを想像しました。みんなが、そんなあたたい手を持ち、一本のつながった気持ちになれば良いなあという願いをこめて…。

第18詩

つなぐ 言葉 遙かな 空へ
熱い思い 確かな 道へ
臆病な自分が 見えかくれする
それでも 今
背中を押され 歩き出す

松隈 裕子 48 歳
毎年、次の自分の進退を問われる時期です。多くの友人の温かくも厳しい声を受け取り目先の道と自分の希望、夢とを考えます。怠けたい気持ちと、ささやかにたたかいながら…

第19詩

だれかが歩いたこの道を
今、ぼくが歩いている
まただれかがこの道を歩くのかなあ

松隈 俊幸 18 歳

第20詩

どこまでも続く その先に
あるのは 求めるものですか
いつまでも ある いま ここは
求めていた ものですか
あなたの空は 何彩ですか

松隈 俊佑 20 歳
未来 過去 現在 ・前詩からの視点転換 ・疑問を失わない

第21詩

今 広がるのは 虹彩の
どこまでも続く
七色の日々

北 知子 31 歳

第22詩

虹の彩ってどんな色？
赤は火山で橙みかん 黄色は太陽？
緑が森なら 青は空
黄緑は…カエルかな？紫はじゃあ夜明け色
ごちゃごちゃまぜたら宇宙色

足立 大典 33 歳

第23詩

空の色、陽の光、雲、星、月、雪、そして虹。
いつもの景色を
いつもより ちょっと キレイにしてくれる。

足立 久子 36 歳

第 24 詩

目に見える景色
手で触れる物
目の前にいる人
全てをつなげる
目に見えない心

足立 泰彦 35 歳

第 25 詩

心と宇宙
深くてひろい
たくさんあるけど おおきなひとつ

吉田 俊明 36 歳

第 26 詩

心で見えるもの
大嵐の上にある快晴
快晴のずっと先にある暗やみと、その中で光る星の群れ
夜にともる 1 つ 1 つの灯りと それに照らされる物語り
人の中にある宇宙

吉田 洋子 38 歳

第 27 詩

夜にともる灯り
あったかい あったかい
大事にしたい 心をさがす 場所

深澤 睦子 50 歳

夜にともる灯りから田舎の雪降る里の灯りを思い出しました。何もないけど暖かい家族の中で、自分をとりもどし元気になりました。今、この小さなつながりにさえ亀裂が生じています。一番の基本なのに・・・。

第 28 詩

真っ黒な闇の中
一筋の明り
沸き出すお湯の音
見上げれば
満天の星空

深沢 都喜男 53 歳

前の詩の夜の灯りから、先日 夜中に入った、温泉の露天風呂での出来事を思い出しました。

第 29 詩

しんと冷たい夜の空
ひときわ輝くオリオンの星
遠くに響く電車の音

池上 雅代 45 歳

冬の帰り道はいつももうまっくら。見上げるオリオン座は田舎の夜空を思い出しが癒されます。その空と、都会の電車の音は妙に調和し、私の心に響いてくるのです。

第 30 詩

オリオンの輝きさえも
かくす雪
今夜は全てを真っ白にして
ただ 静かに
降り続く

降旗 綾 37 歳

星空が見たくて 見上げた空 でも今夜は雪。空だけでなく地面も屋根も見えるもの全てが真っ白に。静かな田舎の冬の夜です。(松本にて)

第 31 詩

静かな夜の中。
ガタンゴトンと
夜行列車の音がひびく。

池上 智之 13 歳

第 32 詩

夜の静けさの中
かすかにきこえる
雨音のワルツに
眠っている子の顔
おだやかに。

金山 久美子

第 33 詩

目覚めと ともに始まる
未来へ続く
光のバトン

山田 瑠衣 23 歳

第 34 詩

いつもと同じように 朝が来た
雲 1 つないすっきりとした 気持ちいい青い朝
雨上がりのその朝は 空気もピーンと気持ちいい
朝日も まぶしいほどに 光ってる
心の中も スカッと元気に そしてポカポカ温かい

阿久津 治子 48 歳

星の12丁目

(松庵保育園発)

第35詩

暖かくして、駅に急ぐ
朝日がようやく顔を出す
オレンジ色の朝焼けがきれい

牛尾 文江 57歳

早番で眠い目をこすりつつ、駅に行く手前で、きれいな朝日を見た時のことです。

第36詩

急がなきゃ！！
おくらしてしまうかも しれない…
あの朝焼けが わたしを立ち止まらせた
まにあった
この レール星のメロディがいつまでも鳴り響いている

大石 裕子 46歳

待っていた「星の回覧板」が届いたのを知らずすぐでできたことばです。第35詩の方が早朝出勤で駅に向っていた時入ってきた情景、日が昇ってきて オレンジの光がよりあたたかく包んでくれていることに気づいたため心奪われてしまったのでしょうか。ちゃんと電車にのれたのかな 痛いほど澄んだこの朝に明星もうっすらと姿をのこしていたのでしょうか。 2009, 1, 29

第37詩

そのメロディにのせて♪
私の心も おどり出す…
ドキドキ・ワクワク、何かいい事ありそうな…

菊地 奈美子 41歳

すてきな朝を迎え 急ぎ間に合って 自然が人間に与える力強さを感じながら、人の心も自分の可能性も無限に広がっていく…

第3詩

雨ニモ負ケズ 風ニモ負ケズ
子供達ノ ワガママニモ 負ケズ
母ちゃん あんたは エライ

長谷川 純平 11歳

「おかあさんのイメージで詩を作って」と小6の長男に頼みました。怒ってばかりの母なので、どんなイメージなのか不安もあったのですが、かわいらしいユニークな詩ができてほっとしました。日々、迷ったり悩んだりしながら子育てをしてきましたが（今も継続中ですが）わが子は、家族を思いやることができる人に育っているようなので、これでいいのかな。これからもこんなかんじでがんばろう！（母）

第4詩

風にささやく 木々の葉
風に流れる 白い雲
風にたわむれる しゃぼん玉
風に揺れる ひなたの洗たくもの
みんな 私のすきな風景

本間 文恵

忙しい毎日の中でふと空を見上げた時、見えたもの ふと耳を澄まして聞こえてきた音に心動かされ、心がおだやかになる自分がいます。

第5詩

あかやきいろの葉 オレンジの柿
あおい空 しろい雲
どれも癒してくれたり 楽しませてくれたり 満たしてくれる

加藤 望

いろんな色の物や景色をみて 人の気持ちを動かしてくれる 自然のすばらしさを感じます

第6詩

あか おいしい トマト
きいろ じゅくした パナナ
オレンジ あま〜い みかん
あお すみびでやいた さんま
しろ ほかほか あたたかいごはん やっぱわたしはごはんがだいすき

ふしみ もとこ

日本人だからかな やっぱわたしはほかほかごはんに 幸せを感じます (^-^)/

第7詩

ほかほかのお布団とボカボカのお風呂どっちが好き？
ねえ、ママ… おひさまのにおいに包まれて
いとおしくて大切な私の時間

細渕 みゆき

毎日いろんな事があるけれど、子どもと寝る前に布団で色々な話しをすると「よし！！明日もがんばろう」と元気がでくるのです ^-^



第 8 詩

わっはっはー いひひひひ 面白い。
にまーっ うふっ えへへ 嬉しいな。
にこお〜っ 幸せ〜っ
わらうって おひさま。 ほわんとほんわか 心の中が
温くなるから。 やっぱり、いいな。

中原 郁子

悲しいこと、大変なことがあっても今まで乗り越えてきたなあ。だからこれから大丈夫だ！と思える今日この頃。日々笑ってられるって幸せだし、それで周りにいい空気が流れたら、いいことがやってくると思う…と信じてます。

第 9 詩

私は星が好き。観ているだけでホ〜っとする。
何故だろう…多分一つひとつの輝きが違うからかな。
一人ひとり違うから素晴らしいのは、きっと人間も一緒だな。

西大條 秀美

小さい頃から、空を見上げるのが大好きな私だった。それは今も同じこと。小さい頃は何を想って観ていたのだろう…。今、保育士という幼少の頃からの夢を叶え、日々かわいい子どもたちと接している。その中で、気づいたこと…それは「一人ひとり、みんな違うから素晴らしい！」ということ。もしかしたら、星から教えてもらった一番大切なことかもしれない…。

第 10 詩

人間って不思議じゃない
私の中にあなたがいたり
あなたの中に私がいたり
そして きっとながつながって
世界が1つになるのよね

小林 容子 51 歳

人間の想像力によって、物事の善・悪が左右されると思うと、人を思う気持ちが一番大事なかなと思いました。

第 11 詩

その小さな手でつかんだ可能性という宝物を
たまには そっと手を開いてのぞいてごらん
温ったかくて、優しくて、キラキラと輝いているから

田中 邦子

子供ってすごい！その好奇心、感性、エネルギー e.t.c. で大人には不可能に見える壁も、わだかまりも、ずっと乗り越えてしまう。どんな子供の掌にも秘められた可能性と未来に気づいて欲しい。信じて欲しい。周りの大人が温かく、優しく見守っていれば、それは必ずキラキラと光り輝くから。夜空にまたたく、星の輝きにも負けない位の力強さで！

第 12 詩

キラキラ キラキラ
それぞれの輝きを
私は抱きしめる
青い地球で
いさかいのないことを願いつつ

橋爪 邦子

哀しいかな お正月早々から戦争のニュースです。世界の子どもにとって地球に平和を願わずにいられません。

第 13 詩

青い地球 青い空 青い海
青には澄んだ、凛とした潔さを感じる。
自然なままに、青く地球も自分も生かしたい。

諏訪 由美子

青い美しい地球 いつまでも残ってほしい。人間も自然なままに地球といっしょに…人間の生き方もあるがままに生きていけるように、お互いを大事にできたらいいなと思います。

第 14 詩

大きい っていういな
小さいよりは 大きい っていういな
広い っていういな
狭いよりは 広い っていういな
夢も 希望も 心も 愛も…

岩上 香利

小さいことでよくよしたり、考え込んだり、落ち込んだり、泣いたり。それって初心者でちっぽけな私だからかなあ〜。ちっぽけな私だけど、結構嫌いじゃない。でもやっぱり、小さいよりは大きい方がいいのかなあ？

第 15 詩

心がポカポカ暖まる愛♡
心がルンルン踊る愛♡
よ〜く見てごらん！まわりにはたくさんのお愛があるんだよ。

阿部 恵

優しく見守ってくれる愛。善し悪しを時には厳しく知らせてくれる愛。心和む太陽の日差し、きれいに咲いている花、木々の緑、小鳥のさえずり、一人ひとりのすてきな笑顔。生活している中には、たくさんのお愛、幸せがありますね！

第 16 詩

言葉って不思議
傷ついてしまう言葉、悲しくなってしまう言葉…
助けてくれる言葉、嬉しくなってしまう言葉
たった一言で色んな気持ちにしてくれる
言葉って不思議。言葉って素晴らしい！！

泉 藍

同じ言葉でも言い方や使い方で 感じ方が全く違ったりします。自分の気持ちを大切な人たちに素敵な言葉で伝えられたらいいですね。

第 17 詩

おはよう。てんてえ〜。かして！
やあ♪やあ♪やあ♪ まんま。ねんね。
ああ〜ああ〜。ねえ バーバーイ？

ももぐみいちどう 1 歳

わたしたちのたのしいいちにち♡ いえ〜い☆

第 18 詩

テビレみたの！ おんなのこだよ♡ しらゆきひめみたい♪
いけないねえ〜。あまい？ おつきさまみたい☆トラックみたの！！
どうちたのお？ でんしゃのった！！ しょうがないねえ〜。まって〜！！
にさあ〜い？ ママ(と)みたあ♪ みーちゆけた♪ なにしてんのお？？
ねえ、だっこして♡

さくらぐみいちどう 2 歳
子どもたちの楽しい会話のひとつコマ…

第 19 詩

「ねえだっこして♡」といわれ
「いいよ♡」と抱っこ
でも なんだか、私がだっこされているみたい…

郷家 禎江
毎日、子ども達に言われる言葉で、してあげているようだけれど、でも“抱っこする”という行為で実は自分自身が癒されているんだなあ…。子どもたちとふれあい過ごす時間はとても素晴らしいものなんだなあ…スキンシップをとること、体だけでなく心も！！とることの大切さを感じています。

第 20 詩

母なる大地
この大地には むかし 二酸化炭素が満ちていた
その大気に包まれて 恐竜たちは生きていた
人間の生きられない世界だった
とっても深い大地のふところ―――

田淵 与朱亜
宇宙は膨張し続け、月も地球から年間約 3.8cm づつ遠ざかっているという。しかも宇宙に生命はこの星にしか存在しないかも？なんて説もある。そう思うと孤独感さえ感じませんか？この大地に抱っこされて、色々なものや人々を、いっぱい愛していたいものです。

第 21 詩

はじめてテントで眠った日
大地に背中をくっつけた
ふわふわじ〜んとあたたかかった

田淵 芳枝
ネパールでトレッキングをした時、山の背にテントを張った。あお向けに横たわった時、じ〜んと温かく、又、予想以上に土が柔らかいことに驚いた。今でも「地球の上に寝転がっている」、「地球ってやさしいんだな」という実感を忘れることはできない。その平和な村が温暖化の影響で氷河の解けた水で一番先に流される危機に瀕していると TV で見たことがある。私は毎日の生活の中で意識しながら、この地球を大切に生きていきたい。

第 22 詩

背中に感じる小さな手 ずっと守りたい
肩にのしかかる 大きな責任 のがれられない
生きていくって けっこうしんどい…。
広〜い 世界の中で
ちっぽけな自分思う

赤羽 広子
30 代半ばで気づいた事、いっぱいある。広い世界の中では、自分の悩みなんて本当にちっぽけな事。未来明るく、生きていきたい。

第 23 詩

小さな小さな手だった あなた
その“手”に支えられ 私は親として育ち
今 大きな大きな“心”を感じる…

岡村 眞理
上の子の思春期の時、8 才年下の娘がまだ 3・4 才の頃、小さな小さな手で心で、“ママ私がいるよ、お兄ちゃんは大丈夫”と本当に力強い言葉で励まし、後押ししてくれました…。そしてその娘も兄と同じ年頃になり…その兄は成人を迎え…親として育ててくれた子ども達が、どんどん大きな存在になってきた…。そんな気持ちでこの詩が生まれました。

第 24 詩

大きな海と空のさかいめに、僕は生きている
海があり、空があるから、僕は生きている
いろんな命が生まれてる
この世界にかけていい命などない
たとえどんなに小さな命でも

岡村 美穂 12 歳
今の世界は、戦争や、小さな想いからの殺人があります。「誰でもよかった」というのもニュースで流れています。罪のない人が殺されてしまう今、この世界を変えていくのは、私たち人間です。私たちを包み込んでくれるのは、大きな自然です。自然のしょうちょうとなる、空と海をかきました。

第 25 詩

見上げれば そこには遠い空
手が届きそうな水平線そこにも空
とことこ行けば母に会えるかな？

徳永 栄子
「保育士になりたい！」と言った時、反対する父と一緒に説得してくれた母。保育士を続けることを誰より喜んでくれた母が他界して 6 年。今でも、こんな時母は何て言うだろう。いつまでも甘え、頼る娘。いつまでも親子は親子だと思い、もう少し強くなりたいと思うのです。

第 26 詩

お腹に宿った命
どんなふうに 笑うのだろう
どんなふうに 泣くのだろう
どんなふうに 怒るのだろう
早く会いたいな

綾部 瑠美子
今私のお腹の中にひとつの命を授かりました。お腹の中で動くと、とても愛しく、又、元気でいてくれる！と安心します。私の所に来てくれたことを感謝して♡大切に育てていきたいと思います。

第 27 詩

いのち
生命ってなんだろう
何一つ軽んじられる命はないね
生きていることに感謝

森光 弘美

この地球上で平和な国ってあるんだろうか。公害、戦争、精神破綻、etc…。みんな疲れている。でも、生まれてきた命は大事にしなくては、いけないですね。

第 28 詩

いのち
生命って 何色なの？
空・川・海は すっきりする 青
木や草は やすらぎをくれる 緑
動物や人間は 元気な 赤
地球には ワクワクする色が いっぱいだね

須藤 恵子

いつまでも美しい地球が続きますように…。感動する事、楽しい事、すばらしい景色をたくさん残せる様、小さなエゴをしていこう。と思います。

第 29 詩

地球って楽しいなあ だけど大事だね
色々なこともいっぱいあった
色々人達にもたくさん逢えたし楽しいな

宇都宮 文子

今までに色々な人達に出逢い、松庵保育園の子供たちも、そして家族、友人とも、とっても大事だと思います。今、住んでる地球も、大事にやさしくしていきたいと思う。

第 30 詩

地球は丸い。人の心も丸い。
地球のどこかで、心をぶつけ合っている
みんなの心が丸くなる日を待っている
きっと、口にはしなくてもみんなの願いは同じ
丸くて青い地球であることを

金澤 譜美子 55 歳

まだまだ戦争を行っている国があり、幼い命がうばわれ、涙流す日が続いています。平和ということばが世界に届くことを願っています。

第 31 詩

みんな仲良し
楽しくあそぼう
同じほしにうまれた仲間だから

小山田 こころ 7 歳

わたしは みんなが大好きだからです。

第 32 詩

あの星から見る私達は
どんな風にうつっているだろう
争いや差別のない 美しい星に見えるかな
20 年後に見るあの星も
私達も輝いていられますように

小山田 かおり 35 歳

宇宙には色々な星がありますが、その中でも青く輝く地球は、ほかの星から見ると豊かで平和な星に見えるのではないかと思います。20 年後、私は 55 才娘は 27 才。地球も豊かで平和で…。私達もそれぞれ自分なりに輝いていられるようにという願いを込めて書きました。

第 33 詩

星の海はきれいだなあ。
星の海の中の、トップスターは、
やっぱり、やっぱり地きゅうかなあ。

林田 ももこ 8 歳

夜空を見てたくさん星がでていところを 詩にしました。

第 34 詩

地球の海もはてしなく広いけど
宇宙の海は地球の何倍も何倍も
想像できないくらい広いんだ
1 番大きな海は
宇宙の海なのかな？

林田 すみれ 11 歳

地球には、大きな海があります。それよりも宇宙は、もっともっと広いです。でも、宇宙よりも広い海があるのか ぎもんに思いました。

第 35 詩

海のように心を広くもてる人になりたいな
空のようにすんだ心をもつ人になりたいな
風のように厳しいけれど本当は優しい心をもつ人になりたいな

山本 エミ 30 歳

なりたい自分を現してみました。

第 36 詩

宇宙の空って海みたい
いつかその海でおよげるかな？
地球の空も海みたい、想像できないほどだ
私たちの心もその位大きいのかな？
いつか何倍も何倍も広くできないかな？

山本 すずか 8 歳

文の中に「宇宙の空でおよぎたい」という文にもつづきを考えてます。「空の海でもおよげるかな」といいます。詩作りは、さいしよなやんでいたけど、後からものすごく楽しくなってきました。また作りたいです (^_^)

第 37 詩

人には、空みたいな心がある
やさしい気もちになる心
いやな気もちになる心がある

よしずみ 里さ 8 歳
しを作るのがむずかしかったです。

第 38 詩

心にはその日の気持ちで 意地悪な心
泣きたくて悲しい心
温かい 優しい心になったりする
いろんな心が生まれて来る
心はいろんな感情で 生きているんだな

吉住 恵 36 歳
人の心の気持ちは相手にわからない様で、傷付いていたり 温かさをもらったりする。生きていく上でいろんな心を感じられると思いました。

第 39 詩

やさしい星 やさしい地きゅう
やさしい友だちそろってる
大切にしよう ぼくらの星

岩さき ゆうき 8 歳
いつまでもうつくしい地きゅうであってほしいとぼくは、思いながら作りました。はじめて詩を作りました。むずかしかったです。

第 40 詩

感じたよ 人の温もりを
感じたよ 自然の怒りを
いつまでも守りたい
美しい花咲く星 地球
鳥やちょうが舞う美しい星 地球

岩崎 伸子 45 歳
人と人とのつながりも大切だけれど、同様に自然とのつながりも大切だと思います。これ以上自然を破壊しない様、みんなで守っていかなければいけないと思いながら作りました。

第 41 詩

きれいな星 うつくしい星
みんな友だち大すぎな地きゅう
みんなで行こうよ 星のせかいに

古川 さき 8 歳
わたしは星が大すぎだから書きました。いつか本当に、ゆめがかとうといいなあと思いました。

第 42 詩

旅は 終わりがああるから 美しい
もし青く輝くこの星が見られたら
希望を抱いて 家路につこう
地球に 生命ある限り
母なる大地を残したい

古川 尚子 43 歳
ガガーリンが月から地球をながめたように、いつか宇宙に行ってみたいと思うけど、「ただいま」と帰る地球があつてこそ旅は何倍にも楽しくなる。「宇宙旅行」が「逃避行」にならないように今この星を大切にしなければと、願いを込めて作りました。

第 43 詩

地球のたびはみんなのたび
どこまでもどこまでも続く
遠い未来へ

川島 かずま 7 歳
地球はこれからもずーと あってほしいと思います。

第 44 詩

「良い人」「悪い人」みんなが住む地球、
では「良い星」「悪い星」が
この宇宙の中にあるのかな
そうだとしたら『地球は良い星・元気な星』
そうよばれるとうれしい

川島 和佳奈 10 歳
地球のかんぎょうを気にしない悪い人がいて悲しいので、地球も人の心もよくなるようにと思って、この詩を作りました。



第45詩

うちゅうにロケットにのっていききたいな。
うちゅうからたくさんのほしをみてみたい。
みんな、なかよくなりたいな。

つる みづき 7歳
うちゅうからいろいろなものが見てみたかったからです。

第46詩

星空は光っててきれいだな。
星空を見るとしあわせになる。
だからみんなで星空を
みあげて見よう。
しあわせが一番。

つる ゆうき 8歳
星空は、いつもみてるからこれを作りました。

第47詩

星はステキだなあ☆ 星はせいざがあるから。
一番、お星さまは、
きれいだなあ うらやましいなあ。

波佐間 望美 8歳
お星さまが、大ききだから、書きました。

第48詩

ほしはとても きれい
ぼくはみんなといっしょにほしへ
いってみたい
ほしさまに あってみたい
ほしさまと ともだちになりたい

はざま ゆうき 5歳
詩がむずかしかった。

第49詩

夜空に輝く満天の星たちよ
君たちは、「わたしを見て」といっしょうけんめい光っている
「みんなちがって みんないい」一人一人の光を見つけていきたい

西田 清美 52歳
ずいぶん無理をして三行につめこんでしまいました。ある先ばいが、「子どもたちは、34人いたら34人一人一人を見ていきなさい。」と言われました。まだまだ、力のない私ですが、一人一人の輝きを見つけれよう努力していきたいと毎日思っています。大きな星も、小さな星も、赤い星も白い星も一人一人の子どもたちの個性だと思います。

第3詩

心に宿る小宇宙
光と闇、灼熱の太陽と満ち欠けする月
幾千もの輝く星たちを内包し

花井 康一 46歳

第4詩

幾筋もの木洩れ日が
スポットライトのように 深く
心の奥に差し込んでくる
足早に 枯葉を踏みしめて
林の奥へ 奥へ

安野 環 46歳

第5詩

林の奥へ さまよう心
人とのふれ合いを信じ
希望の星に導かれて

岩泉 則子 43歳

第6詩

闇に灯される希望の光
つかまえよう 未来を
目覚めた心に従って
やっと歩きだした自分だけの道
心の声を信じて

土井 恵里 45歳

第7詩

凜とした空気につつまれた冬の朝は
自然がくれた プレゼント
歩き続けよう 心の声に耳をすませて

齊藤 雅子

第8詩

お母さんがくれた プレゼント
優しい音色の 綺麗な 小箱
お母さんがもらった プレゼント
可愛い笑顔と 暖かい ぬくもり
ほら 月も星も 微笑んでいる

今村 千尋

第 9 詩

き、キラキラ光る無数の星を
ば、望遠鏡で覗いてごらん
う、美しい未来が目の前に広がる

長谷川 郷子 42 歳

第 10 詩

宿題で 月の観測する子供
星空に 影絵のようにうかぶ家並を
静かに照らすお月さま
こんなにもじっと見るのは久しぶり
未来には だれとどこから見るのかな

松本 瑞江

第 11 詩

凍てつくような 冬の夜空に
冴えざえと 輝く月と星
寒さも忘れ 眺める母と子

田中 順子

第 12 詩

「あつ、流れ星」
夢を願うあなたは
果てしなく広がる宇宙を
翼を広げ、駆けて行く
いつかきつと叶うよと

宇佐美 てるよ 46 歳

第 13 詩

「あつ、一番星」 亡き母からのメッセージ
「ほら、あれが おばあちゃんの星だよ！」
子供の瞳に母を見て

半田 明子 47 歳

第 14 詩

子どもの瞳に映る星
母には気づかぬ星かも知れない
「あなたの星はどんな星？」
瞳の先見て 問いかける
ふたり静かに冬の星空

木村 律子 47 歳

第 15 詩

冬の星空を 澄んだ瞳で 見ていた幼子に
帰る ひと時に
願い 再び込め 旅立とう

阿部 貴子 45 歳

第 16 詩

歩き始めた わたしたち
明るい太陽のお昼までも 星は休まず旅を続け
忘れず 空に輝いているんだよ
遠い宇宙の旅をして
やっと 出会えた 愛しい星の子どもたち

井浦 緑 46 歳

第 17 詩

ちょっと 歩き疲れたら
宇宙の深い青に溶け込み
命の鼓動に 耳を澄ませて

井浦 実咲 19 歳

第 18 詩

今、この瞬間にも
留まる鼓動
動き出す鼓動が瞬いている
「君の鼓動はいつまで鳴り響くの？」
分からないから、一瞬一瞬大切に生きていこう

井浦 航希 13 歳

第 19 詩

シンとした鼓動に耳すまし
今日の出会いを思います
今日も、今までもありがとう

松田 晶子

今の私のことを書きました。毎日たくさんの方に助けられています。一日の終わりに、言えなかった「ごめんなさい」、もっと言いたい「ありがとう」、気に掛かる人に伝えたい気持ち…振り返って感謝をします。たくさん、たくさん。

第 20 詩

ベランダに佇んで ふと上を見る
さえない現実が くすんだ東京の空に重なったら
ため息のかわりに 魂で叫んでやる
「私は今 ここに生きている」
ほら 命が燃えている

花井 頼子 18 歳

思い通りにいかない現実と、それに立ち向かうことがなかなかできない自分。

生きることが嫌になってしまう、そんな時こそ、「ちっぽけな存在だけど、今確かにここに光を放つ命があるんだ」と世界中の全てのものに向かって叫びたい。

第 21 詩

何も見えない暗闇の中で 一人うずくまっている
心に一筋の光が宿る
ほら もう歩き出している

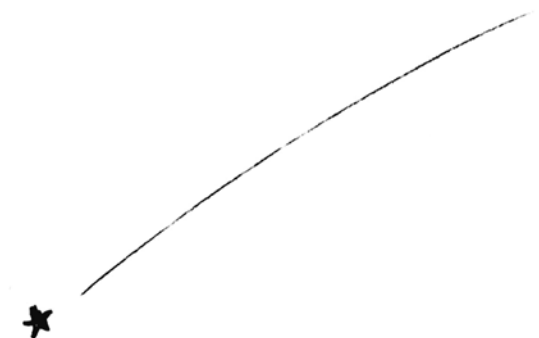
花井 周太郎 13 歳

第 22 詩

甘い果実と苦い果実は
同じ重さで教えてくれる
私自身の謎解きは
生きてきたこと 生きていること 生きてゆくこと
不器用に明日を歩いてゆくことだと

花井 香 45 歳

生きてゆくことの難しさが年とともにいとおしくなりました。未熟さからは一生解放されそうにありませんが、先の見えない不安を抱える若者へのメッセージは、「北風は向かい風ばかりではなく追い風にもなる」ということでしょうか。



星の 14 丁目

(松庵小サッカークラブ発)

第 3 詩

展望台まで競争した。
やったあ いっちゃく！
広い世界が目の中にとびこんできた。

おいじのママ

詩をつなぐというのに心情とかではなく、思いついたのが展望台への競争！つくづく平和な家族だなんて我ながら笑ってしまいました。でも、平和な…競争して楽しんでいるような日常に小さな幸せを感じました♡

第 4 詩

東名高速で実家へ向かう時、御殿場過ぎるとドキドキする
「今日は、どんな富士山が見えるかな？」
目の中に広い世界がとびこんできた
裾野から頂上まできれいに見える富士山
なんだかいことがありそう！

山口 有来子

" 広い世界 " " 目の中にとびこんできた " で、この景色を思い出しました。富士山の見え方で縁起かつぎをするのは、やっぱり日本人ですね～

第 5 詩

ちいさいけどずっしり 確かな手ごたえ
今日はきれいな青空だよ
Happy birthday ようこそ我が家へ

窪田 あゆ子

" 裾野から頂上まできれいに見える富士山 " でよく晴れた冬の日を、" いいことがありそう " で幸せをイメージしました。子どもが生まれたのは、よく晴れた清々しい冬の日でした。『こいつが母親か・・・』横目でジロリ。あかちゃんらしからぬ一瞥。一生忘れない幸せの記憶です。

第 6 詩

かるくはたいて ふうっと深呼吸
両手をひろげて しっかりつかんで
ヨイショっと青空もいっしょにかつぎ上げる
そのまま 子ども部屋まで 一直線
どいたどいた おふとん様のお通りだ

本郷 博美

雲ひとつない青空を見ると反射的に「おふとん干さなきゃ！」アレルギーもあるので、我が家ではお日様の匂いのするおふとんは季節限定の特別なものになりつつあります。

第 7 詩

笑顔いっぱい 走り来る 我が子
両手 ひろげて 抱きしめる
おてて つないで さあ 帰ろう！

中村 聡美

日々 繰り返される幼稚園での 1 コマです。早く大きくなってほしいと願いつつ過ごす幼少期ですが今、この瞬間を大切に、心にきざんでおこうと改めて思いました。

第 8 詩

走る 走る 風を切って走る
サッカーのピッチで
学校からの帰り道 友達に会いに行く時
いつも どこでも
思い出したよ ママのお腹にいた時も

海田 みっちーママ
" 走る " ^{イコール} = 息子です!! いつもどこでも走っています。元気な証^{あかし}。日常の走る姿を辿っていくと、私のお腹の中でいつも蹴っていた事を思い出しました。出産後、よく動く足を見て「この足の仕業だったのかぁ!」と思ったものです。

第 9 詩

木津川の流れて逆らって手をつなぎ歩いた
パパの人生と同じだったのね、
もう一度だけ会いたい言いたい「ありがとう」

小池 涼子
亡き父と一緒にいった木津川、病弱だった父との貴重な思い出です。

第 10 詩

24 時間 騒がしい
5 分でいいから 静かにしてて!!
そんな息子の可愛い寝顔
思い出したよ いろんなことを
私の子供に産まれてくれて「ありがとう」

青柳 紀子
皆さんの想像をはるかにこえるほど騒がしい我が家ですが 一応 寝顔だけは可愛いと思います。色んな楽しみを与えてくれる子供にはやっぱり「ありがとう」という感じですかね。

第 11 詩

にぎやかな 会話がはじまる食卓は
音声多重で エンドレス
それぞれの一日を知る 大事なひととき

山澤 和子
" 騒がしい " のことばで まず思い浮かんだのが、夕食です。食べるとなぜかよく話し、一人が話したと、次から次へと続きます。子ども達が満足するまではきいてあげられず、反省していますが、夕方帰宅する私にとっては、子ども達の話さをきく貴重な時間です。「静かに食べて!」と言いつつ、何でも親に話してほしいナ、と心の中では思っています。

第 12 詩

朝が きて
夜が きて
いつまでも 続く終わりのない 時の流れが
人を つないで
心も つないで

田巻 敬子
家族みんなで作りました。永遠に続く時の中に いる私たち。今、ここに つながりがあるということに幸せを感じます。

第 13 詩

さわやか青空 太陽ほほえみ
きらめく星空 月光かがやく
宇宙に見守られ君は夢を叶えるのだろう

大野田 清美
"朝と夜、の空をイメージしました。"つないだ、未来が明るく希望を持てるように…子供の夢が叶いますように… 心をこめて♡

第 14 詩

ランドセルが 大きく見えた 一年生
「学校まで ひとりで 行けるのかな?」
心配しながら 手を振った
ドキドキ 夢 いっぱい ふくらむ 一年生
そうだったよね。 私の時も

小本 英子
"夢、という言葉で連詩しました。一年生に入学した息子は、クラスの男の子の中で一番 背が低く、朝、家から見送る後ろ姿は、ランドセルが大きく見えました。近所のおばさんに、「一年生で かわいいね。」とか「後から見ると ランドセルが歩いているみたい。」といわれ、大笑いしました。そんな、懐かしい記憶を詩にしました。

第 15 詩

「早く良くなってね。」と
ランドセルが 1 人ポツンと 玄関で待っている
暖かい背中のぬくもりを恋しがりながら

佐々木 かほり
" ランドセル " を頂いて連詩しました。小さく産まれた下の娘はすぐ病気で大好きな幼稚園をお休みすることに。今もお休みで、毎朝 目からポロポロと涙がこぼれます。大丈夫、皆 待ってるよ。早く治して、学校に行こうね。

第 16 詩

疲れきって何度おんぶしたことか
その背中のぬくもりを思い出す
今はもう おぶうことはなくなった
いつの間にか大きくなったんだ
もっと、デッカクなれよ!!

林 紀宏
" 背中のぬくもり " から想像して連詩しました。小さい頃の子供って、めえいっぱい遊んで、そして疲れて寝てしまう。しょうがないから、おんぶして…少し前かがみに落とさないように気を遣いながらおんぶした。背中にピタッとくっつくようにおぶさっている子供のぬくもりを懐かしく感じる。だんだん大きくなり、親離れしていく。ちょっと寂しい気もするが、やっぱり、健康で、大きく育てて欲しい。

第 17 詩

いつの間に 大きくなった 子どもたち
いつの間に いい年になった 私たち
あの頃の 親の思いが 身にしみる

渡辺 美恵子
" いつの間にか大きくなった " から連詩をつくりました。親歴 12 年になりますが、子どもがいくつになっても、親がいくつになっても、その時々親の心配があるものだ実感しています。ずっと親のことをうるさいな～と思っていましたが、あの時代の親の思いと、今の私の思いは、同じなのかな…と感じます。

第 18 詩

お兄ちゃんもお父さんも帰るのが遅いから、
今日は次男とふたりきり。
自転車走らすと教室の明かりがついている。
「もうすぐ卒業だね。」12 年目の 12 月。
空から月が照らしてる。

山田 正美

6 さい年の差の息子達が育った松庵小学校。行事に委員会に私は 12 年間足を運び 子もたちと共にたくさんの思い出ができました。“いつの間に”。あつという間に時が流れたけれど、その間いろいろなことがあり、子ども達といっしょに自分も育ちました。感慨深いです。

第 19 詩

数々の思い出 残る小学校
もうすぐ卒業 新たな旅立ち
夢いっぱい 輝く未来に向かって

森 悦子

私の母校である松庵小にご縁があり、我が子ふたりとも通わせることができました。母と子 時を越え同じ校舎で学び同じプールで泳ぎ同じ校庭で遊ぶ経験ができ とても幸せです。時折ふと子どもと自分を重ね合わせ小学生時代にタイムスリップしたような感覚になったことも…。そんな松庵小とも下の子が卒業することによりお別れです。新たな旅立ち。子どもの頃の自分、娘、息子の保護者として 3 倍の思い出をくれた松庵小ありがとう！！まだまだ人生の折り返し少し過ぎたところ!? 子どもだけでなく私にも輝ける未来はあると信じて…。

第 20 詩

ピカピカのシャーペンを息子にプレゼント
ひと押しすると 芯の出具合いが絶妙と驚いた
ためしに書くと スラスラ走って作家みたいと机に座った
ずっと部屋から出てこない
来月 12 才 何になるのかな

紘佑の母

つい先日の出来事を詩にしてみました。

第 21 詩

ぽっかりあいた心の穴に少しずつ満ちてくる希望の光
それは あなたからのプレゼント
見守っていてね、子らの未来

吉本 晴代

「ピカピカ」「プレゼント」から「希望の光」をイメージしました。昨年主人が亡くなり、覚悟はしていたつもりでも、その悲しみは日に日に深くなり、心にぽっかり穴ぼこがあいたみたいでした。でも気がつけば、家族や友人達がいつもすぐそばで励ましてくれ、その優しさに少しずつ癒されていきました。そして主人もいつも私達の心の中に共に生きていて、見守ってくれていると感じられるようになりました。我家では今、まさに、家族一人一人が力を合わせて一歩ずつ「希望」に向かって歩き出そうとしているところです。「子供はみな社会の宝」と思っているので、すべての子供達の未来が明るく輝いていることを心から祈って連詩に参加させていただきました。

第 22 詩

昂は吾子の墓碑銘

平和を願って動乱の世界を駆け巡り
志半ばにて六連星となった吾子よ
大好きな昂の曲を奏でながら
見守り給え 地球の平和と友好を

晶のおばあちゃん

昂は散開星団で、夜空に見える星は六つ、故に六連星ともいいます。昂の歌は息子の愛唱歌で、彼はバイオリンが得意でしたが、十才の愛児や、八十路の親を残して星になってしまいました。孫のママに勧められて「星の回覧板」の連詩をすることで、とても心が安らぎ、辛い現実から又一步ステップを踏み出すことが出来たことを感謝しております。

第 23 詩

幼子の世界は
小さな箱庭
涙と笑顔と信じる心で満たされた

魚住 みゆき

子どもたちが親の私を信頼してくれる気持ちは純粋で、もったいないほどです。こんないいかげんな私なのにありがとう！

第 24 詩

涙で友と別れ
新しい友に笑顔で迎えられる
10 年間で何度繰り返しただろう
たぬきの住む松庵に
ずっと居たいねと家族で散歩する日曜日の朝

梅山 裕子

家族で 11 年間 5 ヶ国間を引越しました。たくさんの出会いがありましたが、子供たちにも負担があったのではと思います。日曜日の朝 犬を連れて家族で散歩していると、ココにいることにほっとします。

第 25 詩

「お腹すいたー！」
日曜日の朝、家族の第一声
家族揃っての朝食、幸せな一時

小俣 深雪

日曜日の朝は、普段と違って、家族揃ってのんびり食事ができますよね。子供が大きくなるにつれて、そのような光景もだんだん減ってゆくのかと思うと、少々寂しく感じます。今を大事にしたいです。

第 26 詩

ご飯なに？『ママ』と連呼していた つい 1、2 年前
今では 私が話しかけ
ゆっくり成長してねと密かに願う
子どものハイペースに私もローペースで歩いて行く
あつと言う間に 母歴 14 年

西井 江津子 母歴 14 年♡

あんなに可愛かった息子たち 心身共に急成長今では私は飯炊きおばさんの様腹減り虫が居るかの様に給食ありがたや m(__)m 毎日の成長を大事に大切に見守り楽しんで行きたいと思います♡

第 27 詩

大地をしっかりと踏みしめて
いってきます！ ただいまー！
少しずつ遅くなる声

戸坂 久美子
「ゆっくり成長」・・・からイメージしました。いつの間にか、どこへ行くにも
一人で行けるようになった反面 家に戻るまでは やっぱり心配。「ただいま」
の声のトーンで どんな時を過ごしてきたかが伝わり、安心する日々です。今
を大切に しっかりと歩んで欲しいと思っています！

第 28 詩

夏の北海道
青空に向かう一筋の道
どんな道かは分からないけれど
子供達には歩んでほしい
まっすぐな道を

松川 敬子
" 大地 " から昨年の夏 北海道を車で旅したことを想い出しました。3 人の子
供達にはそれぞれ自分に合った道をみつけていってほしいと願っています。

第 29 詩

君が笑顔で進んでいる道も
いつかは険しい壁にぶつかるだろう
その時 思えよ 母の顔を

昂大の父
"道、から連詩をつくりました。毎日精一杯頑張っている子供達ですが、大きく
なっても辛い時や悲しい時は、母に甘えてほしいなと思います。

第 30 詩

キラキラ おひさま
ゴロゴロ かみなり
いつもニコニコとはいかないけど
となりで見てるよ
君達の明日を

筒井 一美
いつも笑顔でいたいけど厳しく叱る日も多々あります。子供を想う毎日の「母
の顔、からイメージしました。

第 31 詩

やっと揃った 家族たち
一喜一憂 過ぎし日は 家族皆の財産で
未来に 向う心の糧となれ

半田 紀子
大人は子の成長を感じ 子は安堵し それぞれに学び合っている毎日。子供の
成長願いながら 自分も まだまだ未熟。子供に教わる事だらけかもです。「明
日」から " 未来 " をつなげてみました。

第 32 詩

家族が揃うと
トランプしたり ジョギングしたり。
子供が成長するにつれ、
こんな時間も減るのかな。
時間よ止まれ！

長井 美和子
家族全員揃った幸せな時を思う反面、子供が成長し、手のかからなくなってき
た我が子たち、それはうれしくもあるのですが、親離れしていくのかと ふと
淋しくなることがあります。

第 33 詩

大きくなっていく君達と
広がり続けている宇宙
どちらも同じ夢限大の可能性

菅 知恵
日々成長していく子供達、出来ないと思っていた事があっさり出来たり、その
可能性は測り知れないなぁと思う事があります。宇宙もまた日に日に膨張して
いっているそうです。そんな 2 つの測り知れない可能性を表わしてみました。

第 34 詩

無限大 ∞ の宇宙
無限大 ∞ の笑顔
無限大 ∞ の子どもたち
そして広い世界
無限の命があるとイイのになぁ～

小宮山 千代子& 蓮 ！?& 9 歳
★”親子 2 人で良く宇宙に終わりが無いって考えると気が遠くなるよね～（おか
しくなる）なんて話します。今回もそんな話をしながら夢限大→無限大に戻し
子どもがボンボンと思いついた言葉並べました。ちょっと素敵でしょ！！

第 35 詩

春の足音が聞こえてくると
新しい命が芽ぶいてくるよ
みんな素敵な色に成長してね

茂木 克祐
「命」という言葉で連詩しました。人生は 100 人 100 通りの色。きっとたくさ
んの想い出によってその人だけの素敵な色に輝いて見えるのでしょうか。たくさ
ん遊び、たくさん笑い、たくさん感動して、自分だけの素敵な色を見つけていっ
て欲しいと思います。

第 36 詩

ヨチヨチと歩きはじめ
タッタタッタと走りはじめ
サ——ッ！と風のように走ることもできるように
時にはあたりを見渡す余裕をもって
いずれ来る自立の日までともに進もう

ホマババ 34 歳
「足音」より連想し、作りました。楽しいことも辛いことも分かち合えるようた
くさんの時間を共有していきたいです。

第 37 詩

リレーで走る速く速く
どんな時でも走る
うちゅうでもリレーをしてみたいな

吉本 帆希 9 歳

第 38 詩

ぼくは、いつも中休みには、走る走る。
よくあそぶのはヘッドだよ。
すごいハードでつかれるよ。
つぎにあそぶのは、3 歩あて
帰るころには、あせだらけ。

蜂谷 真史 8 歳

第 39 詩

3 歩進んで 昨日みた 松かざり
3 歩進んで 今日さいた 白い梅
3 歩進んで 明日みるのは きっと筍

ママのほうの 飯嶋 アラフォー

第 40 詩

明日ぼくはあそぶ
明日友だちとあそぶ
友だちとなかよくあそぶ
友だちとなかよくあそべるかな
あさってもまたあそぶ

しばた しんご 8 歳

毎日、毎日、公園で遊ぶのが楽しくてしょうがない気持ちを書きました。

第 41 詩

昨日サッカー
今日サッカー
明日もサッカーがんばるぞ

栢場 晴隆 8 歳

毎日サッカーをするのが生き甲斐、という気持ちをこめて書きました。

第 42 詩

し合でかつ
ずっとかてればいいけれど
今日は、まけてなきたくなった
けれどこんどは、ぜったいかってやる
おれの力を見せてやる

小熊 峻介 8 歳

“サッカー”という言葉につなげて書きました。たとえ 練習の中のゲームであっても、試合と名のつくものは全てに負けたくないようです。そんな闘争心満々な詩です。

第 43 詩

泣きたい時は、思いきり泣いていい。
泣いた分だけががんばってみようよ。
そうすれば、ほら今度は笑顔だね。

小熊 みさ代

“負けてしまい、泣きたい所をがまんしている、をイメージしてみました。今年の冬、高校サッカーをずっと観ていました。180cmもある大きな高校生達が試合に負け、大声をあげて泣いているシーンを何度も見て “思いつき泣けるヤツになってほしい” と思いました。一生懸命やるから涙も出る。悔しい気持ちは、明日への原動力！そう自分に言い聞かせ、息子を励まし続けます。

第 44 詩

笑顔はめっちゃくちゃ輝いてるけど
無理して笑っちゃ意味がない
未来の自分が笑えるように
今、努力しろ！
そして未来へつつ走れ！！

天田 直希 10 歳

泣くより笑顔でいたい気持ちを “ポジティブにいこう” という詩に込めました。

第 45 詩

「未来」って何だろう？それは、人それぞれが想い描く “夢、” だと思う。
親は、その “夢、” を子に託し、子は自ら追い求め、紡いでゆく。
Dreams come true！ 子どもたちの未来に幸あれ！！

鈴木 教子

普段の生活に毎日追われていると、夢を持つことすら、忘れてしまっている自分に気が付く。最近、夢や未来の話をしていないなあ。もっと “心にゆとり” をという、自戒の念を詩に託しました。

第 46 詩

子どもが未来に希望をもてる
そんな日本・地球を子どもに引き継ぐ
大人に何ができるのかなあ？
いろいろ悩むよりも、今すぐできること
「思いやり」かなあ？

竹田 行宏

子ども達を見ていると、いつも楽しそう。こんな楽しそうな子ども達に、少しでも良い未来を引き継ぎたいと感じました。

第 47 詩

生まれた時は “健康でよかった…” “ 大きくなるにつれ
注文は多くなるけれど 母の願いは やっぱり ひとつ
” 明るい未来へ向かって つつ走れ！！ ”

井上 裕美

毎日の生活で精一杯の自分。あしたい、こうしたいと先のことばかり話している子供たち。今を頑張れば絶対に明るい未来が待っていると思うので、一歩一歩進んでほしいと願っています。

第48詩

はしったり
ドリブルしたり
ジャンプしたり
いっぱい
うごく

川田 勇護 7歳

多くの可能性を持つ子供達。いっぱい遊んで、いっぱい学んで大きくなあれ。

第49詩

はしってはしってまたはしる
こんどもいっぱいまたはしる
オリンピックで、1つとうしょう★

井口 慎平 7歳

いっぱいいっぱいれんしゅうして、オリンピックにでて100めいとるそうで1つとうしょうをとりたいてうきもちでかきました。

第50詩

走る 走る また走る
あせをかき
星まで全力で。
宇宙にみんなの思いのつまった
星の回覧板をとどけに。

井口 佳乃 9歳

みんなの思いが宇宙にとどき 願いがかなうといいな。

第51詩

鳥
パタパタパタピーピー
またどこかで生命が生まれている。

井川 恭平 9歳

第52詩

宇宙の中の ほんの小さな星で
人間に生まれてきたから いろんなことを考える
もっと幸せになろう と考える
だけど自分だけ幸せでも ちっともおもしろくない
仲間と一緒に 楽しくて 嬉しい

河内 佐智子

子どもは学校生活だけでなく、サッカーを通じて学ぶことがたくさんあります。私も、子どもがサッカーをするからこそその楽しい思いをたくさん経験させてもらいます。豊かな人生のため、子どもには、いい仲間がたくさん出会ってほしいし、私もいつまでも仲間を大切に過ごしていきたいです。

第3詩

私がいるから あなたがいる。
娘がいるから 母となる。
自分と違う自分の分身、どこまで一緒に、どこから別々？

室田 節子 43歳

同じしぐさ、同じ体型、同じ好み、DNAを感じる瞬間 嬉しい様な…

第4詩

空と大地の境い目を 小さい頃に 思ってた。
どこまで一緒に どこから別々？
もくもくと張りつめたまま かけ抜けていった父
いまごろ空の どのあたり？
どこまで一緒に どこから別々？

須見 宏美 45歳

幼い頃、家族で旅行に行った時に車窓から見た地平線の景色が今でも鮮明に甦ってくる。どこまでが大地でどこまでが空か。家族で見つめていた。今年 天に召された父は、今ごろあの地平線の彼方を旅しながら、私達を見守ってくれているに違いないと思っている。

第5詩

小さい頃の 思い出といえば
外が薄暗くなるまで 缶けりして走り回ったこと。
母の怒った姿、思い浮かべながら。

田村 映子 43歳

子どもの頃に近所の公園で友達と缶けりをして遊んだことを今でも時々思い出します。帰宅時間がとくに過ぎているのに楽しくて楽しくて、家に帰らなくて、と頭の片隅に思いながら遊び続けた…懐かしい思い出です。

第6詩

小さい頃、空を見上げるのが好きだった。
悲しい時、嬉しい時、不安な時、寂しい時
空を見上げると 不思議と 心が落着いた。
空を眺めていると 自分の心が見えてくる。
空は心の鏡だから 色々な事を教えてくれる。

東方 理恵子

空の向こうはどうなっているのかな。どこまで広いのかなと小さい頃ずっと不思議に思っていました。真青な空、流れる雲・・・手の届かない所にある存在。今でも青い空から勇気もらっているような気がします。

第7詩

鏡をみがくとふと目に浮かぶ
お菓子で汚れた小さな手跡
もみじのお手々は今どこに？

団藤 美奈 47歳

子供が「小さい頃」は「鏡」にベタベタの手跡などいろいろなものがついていました。そんなものがなつかしく、ほほえましく思えるような年になってしまったのです。もみじの手の持ち主たちは、皆それぞれの道を歩んでいますが手跡の思い出は、私の心の中に今もべったりくっついてます。

第 8 詩

子どもの頃 母が作ってくれた水ようかんやあんこ巻き
今でもなつかしく思い出す
スナック菓子もいいけれど たまには手作りしようかな
カロリー気になる 私と娘
ちょっぴり おさとう 少なくして

蜂谷 浩美 41 歳

私が生徒の頃、母がいろいろ手作りのおやつを作ってくれました。一緒に作ったこともあり、子供の頃買ったお菓子作りの本に、その作り方を書き留めてあったのを最近見つけました。ついスナック菓子を買ってしまいますが、時々は手作りのお菓子を子供と一緒に作ってみたいと思います。

第 9 詩

帰ると食べちゃう スナック菓子
ついついいっぱい食べちゃった
そしたらイテテ もう虫歯

渡邊 勇正 10 歳

ぼくは、学校から帰るとすぐスナック菓子を食べてしまいます。そして虫歯になっていたい思いをするからそのことを詩に表しました。

第 10 詩

ありがとう いただきます
毎日 食べる 木の実 草の花 種をまいてとるもの
泳ぐもの 飛ぶもの 野を駆ける生きもの 土の中のもの
いのちで 生きるからだ からだで 今日生きる
夜 眠ると 食べるのは夢

前田 千草 42 歳

毎日々々、色々なものを食べてます。おやつも三度のごはんも…ありがたいね、おいしいね、今日も生きてるね。あしたもみんな元気でくらせるといいです。

第 11 詩

ごちそうさま
腹いっぱいだ
ねむたいな

前田 望 11 歳

書いたときの気持ちです。

第 12 詩

眠たいな
意識がふわふわ とんでいく
眠たいよ
とんでく先は どこだろう。
ふわふわ ほわほわ ここはどこ？

前田 ちひろ 16 歳

寝ようとしてないのに眠くなる時、意識がふわーっとどこかにとばされるような気持ちがあります。いつの間にか自分がどこにいるのかすらわからなくなったり、ここでないどこかにいるような気持ちになったり…。

第 13 詩

ふわふわふわふわとんでいる
空の上をとんでいる
くもの上でねてみたいな

猿田 結菜 9 歳

1 度でもいいから空を飛んでみたい。雲の上でねてみたいと思うからです。くもの上はねられるのかな？

第 14 詩

とんでる雲と競争だ。
どんどんどんどん 追いぬかれ、
一体どこへ 行くのかな。
ひろーい ひろーい 宇宙の彼方、
迷子になったら どうしよう。

加藤 博子（結菜のバーバ） 69 歳

孫にそそのかされ、久し振りに童心にかえって、楽しく書きました。私は空が好きです。ドライブで、中央高速を何回か走った折り、あゝ、将来このあたりの空を飛んでいたいなと、思ったものでした。そうなるでしょうか…？

第 15 詩

あいうえお
どンドン おぼえる
いったいどこまでいくのかな

加藤 優太郎 2 歳

「いく」をとったしです。字はいとこがかきました。

第 16 詩

思ったことが
かなわない なんて思ったことがない
だって 自分が あきらめないかぎり
いつか その想いに 近付けるはず。
俺はそう思う！！。

加藤 郁洋 41 歳

絶対、そうだって！

第 17 詩

いっぱい 想って
いっぱい 願って
夢は ムクムク ふくらむぞ！

加藤 由紀子 41 歳

夢は大きく！

第 18 詩

初詣・流れ星
みんなの願いごとを
神様
ちゃんと
かなえてください

山本 奈津子 12 歳
「願い」をうけて書きました。私の願いもかなえてください！

第 19 詩

流れ星、
いつ流れてくるか 分からない。でも
そんな所がいいのかもしれない。

山本 佳奈子 11 歳
流れ星は、いつ来るか分からなくて、願い事を三回言うのが大変だと思います。けれど、それで夢がかなうという非現実的な所がいいなあと思います。

第 20 詩

なつのおもいで
ながしそうめん
たのしかったな
おとなになったら、
わたしもこどもとしようかな

山本 まりな 7 歳
なつやすみにおかあさんたちがながしそうめんをしてくれて、とてもたのしかったので、わたしもこどもにやってあげたいと、おもったことをかきました。

第 21 詩

はる なつ あき ふゆ
四季を楽しむ 心の余裕
持ってすごせることが 私の理想

山本 美紀 37 歳
毎日毎日「忙しい」を口ぐせにするほど気ぜわしくすごし、季節の移りゆく姿をみとける余裕がないのが今の私です。もったいないですよ。せっかく四季のある日本に住んでいるのに。同じ時間をすごすなら、穏やかな時をすごしたいです。心豊かに生きていきたいものです。

第 22 詩

メールもネットもなかった子どものころ。
みんな今よりもっと生き生きのびのびくらしてた。
親は携帯を、子どもはゲームを家に置いて外へ出よう。
広い野原を仲良く遊び回るうちに、もどってくるかもしれない。
親の心にはゆとりが、子どもの目には輝きが…

石川 一成 43 歳
「愛情+きびしさ=いい子」の公式をモットーに、3 人の子どもを体当たりで育てています。

第 23 詩

どうしむらの球じょうで、野球をしまし
た。おとうさんとおにいちゃんとお
ねえちゃんと。ホームランが川にとんでいった

石川 歓人 8 歳
川のそばで野球をしているといつもボールが川におちてしまう事を書きました。

第 24 詩

希望を求めて
明け方の空を
姉弟と母が
見上げると
大きく明るい 月の輝き

石川 久美 43 歳
人工衛星を見ようと早起きして空を見上げたとき きれいな月をみた時のこと。明るくなった空にこんなきれいな月を東京の空で見たときはちょっと感激しました。

第 25 詩

太陽の光が当たって月が輝く
形が変わっても 月は輝く
そして月は地球を照らしてくれる

西井 隆滋 11 歳

第 26 詩

窓辺に置いた カゴの中
太陽の光を いっぱい浴びて
幸せそうに さえずる小鳥たち
おだやかに流れる 午後の時間
今日は 何を話しているのかな

橋爪 未佳 42 歳
8 羽の文鳥と暮らしています。日の光の中で、くつろいでいる小鳥たちを見ると、なんだかとても安心します。そしていつも「私も小さくなってカゴの中に入りたいな。」と思ってしまいます。かなわないとはわかっていても、私のささやかな夢です。

第 27 詩

太陽の光にてらされて ぼくたちは
かがやきながらいっぱい遊ぶ。おにごっこ
やかくれんぼ。明日は何して遊ぼうかな？

深見 瑞 8 歳
毎日晴れた日は外遊びをするので、幸せに遊ぶ日々の事を書きました。

第 28 詩

太陽の光 みんなあびて
葉緑体がみんないきいき
してる。太陽は、みんな
のエネルギーのもと
大切にしよう

毛塚 明 12 歳

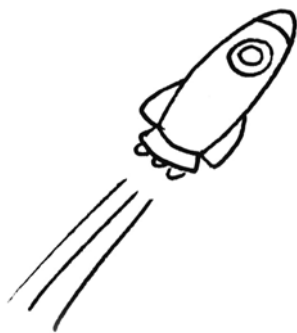
葉の勉強しているときに葉は、どうやってエネルギーをとっているのかきになったので。

第 29 詩

新芽がでる、新学期、新たに自転車通学。
どんどん成長して遠くへ行く。
なんだか、うれしい、さみしい。

毛塚 照美 44 歳

新入学にむけて、練習の為、五日市街道を自転車で走っている後ろ姿を見て、「大きくなったなあ」「どんどん大きくなって 1 人で色々な所へ行くんだなあ」と思う。その背中を見ながら、成長していく娘に対して、うれしく思う反面、ちょっぴりさみしく思った。私の自転車の後ろにちょこんと乗っていた頃がなつかしい！



星の 16 丁目

(やぶそば発)

第 3 詩

遠い あの日
いっしょに 見あげた
いちばん星…

A.T

亡き母を思い出しながら書いてみました。

第 4 詩

星空を見上げることの
何と少なく なった ことだろう
せめて
心の中に
たくさんの星空をもっていたい

河野 このみ

実感です。

第 5 詩

嬉しいことも、悲しいことも
空は一日中
私たちの世界を見ている

高田

第 6 詩

キラ星の空の下
目をつぶって祈れば
願いは叶う
そんな奇蹟を
信じていたい。

R.W

子供の頃 信じていたことを忘れないでいたいと思うので…。

第 7 詩

宇宙は
どうしてそんなにでかいのか
星が無限にあるからだ。

渡辺 篤司 11 歳

星の17丁目

(おばあちゃんの玉手箱発)

第8詩

星の光は
はるか かなたから
届く 宇宙の
無限の
力

渡邊

第9詩

地平線に沈む夕陽
360度 見渡す限りの地平線
ここは美しいアフリカの大地

M.H 41歳

前詩の「はるかかなた」のイメージからアフリカの大地を思い出しました。人工的な建造物のない大自然は美しい。本来あるべき地球の姿を考えさせられますが、何も考えずその自然の中に身を溶け込ませたい…。

第10詩

うちゅうは、くろいのに、
なんで空は青いの？
アフリカどうも、
うちゅうにいきたいかな？
シャトルにのって？

北久保 希愛 6歳

どうしてかというと うちゅうのことがしりたいからです。

第11詩

アフリカゾウが、
宇宙に行くなら、
しまうまだって行きたいよ。

MITSUNOBU KITAKUBO 9歳

第12詩

地球上の全ての生き物と人間も
宇宙に連れて行ってあげたいな。
宇宙のどこか地球と似ている星へ
行って実験で住んでみよう！！
多くの生き物と宇宙旅行は楽しみだな！

七星 雄史郎 46歳

いつの日か宇宙の他の星にも住んでみたいです。地球と同じ星を宇宙のどこかの星に作れば可能かもしれませんね。

第13詩

宇宙には生き物がたくさんいるよ。
だから、宇宙は断えることなく輝き
続けているのだな。

R.T 12歳

第3詩

ひとりが大好きだった私に、ひとりきりの時間がなくなった
ひとりが大好きだった私は、みんなと一緒に大好きになった
みんなと一緒に大好きな私…これからどんな私になるのかな？

Hanariemama 36歳

5年生と3年生の子供を持つ母親です。「おばあちゃんの玉手箱」での出会いを宝物にして子育てを乗り越えてきた私をふりかえって、詩をつくってみました。「ひとりきり」を第2詩からのキーワードにしました。

第4詩

このみちは、いつか母と一緒にあるいたみち
いままた、あなたと一緒にあるく
二度目のみちには、新しい発見がある
そして、二度目でも やっぱり、まようし、ころぶ
母も、わたしたちとあるきなおしをしていたのだろうか

坊野 節子 36歳

四才の女の子の母です。第3詩から「一緒」という言葉をもらってつなぎました。「育児は育自」とはよく聞きますが、本当に、毎日、自分の子ども時代を体験しなおし、育ちなおしをしている気がします。また、母が自分にくれたことを思い出し、その時の母の気持ちを想像します。その感じを、「みち」と表現しました。

第5詩

小さな手 道でみつけた たからもの
肩ごしに ふりかえる
あなたの 目に 花がさいたよ

中村 和美 40歳

娘と散歩するといろんな発見があります。それは斬新ではとすることもあれば、自分のところを掘りおこすような、なつかしきを感じさせてもくれて。娘と私の小さな世界から、極大の宇宙にあそぶこともできるのです。

第6詩

空の上には何があるの？
不思議そうに遠くを見る。
生まれた時はみんな持ってた、まっ白な心
小さな この手に広がる宇宙
ぎゅっと握ればぎゅっと返す、そして2人でにこっと笑う

森 美砂絵 41歳

「空の上には何があるのかなー。」子供からのこの言葉に涙が出そうになりました。私が幼い頃、母に同じ質問をした事を思い出したのです。今の私と内なる私が出会えた瞬間でした。＜もうこの質問すら浮かばなくなった大人の私への寂しさ、全ての子供達には無限の未来が待っている＞この二つが重なりました。第5詩より「小さな手」をいただきました。

第7詩

まるい月 ならぬカーブの 白いかお
なにかを訴え 開いた眼から ポタポタと落ちる涙
透明なしずくを 不思議な気持ちで ただ見つめている

五十嵐 英美 42 歳

最近、うちの4歳の独り娘はよく泣きます。それは もう見事な大粒の涙を流して…。そんな時に まずはその涙に感心してしまう私です。(そして、ついつい甘くなってしまいがちです…悩み。)

第 8 詩

あのね いつも 2 番なの
さみしそうに つぶやいた
それからはじめた かけっこ遊び
フライング気味の スタートも
輝く笑顔に まあるい金メダル

藤井 紀子 36 歳

あまり幼稚園でのことを話さない娘が、ぼつりと話した言葉。初めての運動会、フライング気味のスタート。最後まで一生懸命走りぬけ、一番になり、無邪気に喜ぶ娘がいました。一緒に取り組ませてもらったことに感謝し、これからも成長を見つめられることの有難さを感じました。

第 9 詩

銀がすきな
1 番にならなくても、がんばることがたいせつなんだよ
その笑顔に力をもらい、さあ今日も一緒に一歩ずつ

溝口 絵美 42 歳

第 8 詩の“2 番”“金メダル”という言葉からイメージしました。オリンピック、運動会等で順位という意識がでてきた中で、先生が話された言葉が 6 歳の娘の心に残ったようです。これからも、この気持ちを忘れずに困難なことにぶつかっても、前に進もうと努力する気持ちを持ち続けてくれたらうれしいと思います。母親としても完璧を追い求めるのではなく、この言葉の様に娘達と一緒に日々成長していけたらと思います。

第 10 詩

他人の評価はどうでもいい
広い夜空のあまねく星の中で
自分だけの 1 番星をみつけられたらいい
そんな気持ちで空をながめてみると
いつもとちがった色にみえる

あまま 37 歳

メダル＝他人の評価ととらえてみました。客観的な評価も大切だけれども、そんな中で自分をしっかりもった人に育ってほしいという思いをこめました。

第 11 詩

あまねく世界を見渡せば
飢餓、戦闘、暴力、たえなくて、
宇宙よ、おまえは悲しくないかい？

Y.W.

前二つ「自分から」の視点が続いたので、視点を変えてみました。ガザの報道をクリスマス以来、子どもたちと追って、新聞を読んでいました。(子どもは、同じ子どもが殺されるニュースにとっても敏感に反応していました！) そのことが念頭にあります。暗に平和を願って、書きました。

第 12 詩

無限に広がる果てなき宇宙
降り注ぐあまたのメッセージ
希望の光を もらう
あたたかな めくもりを感じる
きっと 大丈夫

あさの まき 44 歳

「どんな経験もマイナスにはならないよ」引越やら反抗期やら親子で辛かった時、友達に励まされた。そしてそんな時見上げた空の大きさにあらためて感動したことがあった。私がしたいなと思うのは希望のリレー。子どもたちにも 友人たちにも そして次につながる人達にも。

第 13 詩

おつきさま
おつきさまってきれいだね
ぼくがくるまでまっついて

管 つねよし 6 歳

おつきさまをおかけるのは、たのしいです。おつきさまにおいつけなくてもたのしいです。ヘリウムガスがはいったふうせんをもってはしゃいでいるみたいです。

第 14 詩

夜空に輝く たくさんのかかえきれない星たちは ひとりひとりの宝物。
見えないからこそ そこにある、見えないからこそ、確かにある…。
月よ星よ。どうか心優しき人達の
美しい願いをかなえてほしい。
きらめく思いを永遠の輝きにして。

小谷野 正美 50 歳

皆さんの心のこもった作品を読んでとても幸せな気持ちになりました。比べて私自身の願いは・・・恥ずかしくなっていました。幸せな人はだれかの光となります。幸せな人のすてきな願いが光となって宇宙を浄化してゆくでしょう。思いは光となってきつとどこまでも飛んでゆけるはず。時を越えて。きつときつと。

第 15 詩

ほら見て。星がこんなにきれいに光ってる。
この輝きが、人々の希望の光となりますように。
そして、その希望の光が世界の平和へとつながりますように。

相馬 雄大 14 歳

輝きを希望の光に、希望の光を世界の平和につなげてみました。今、世界の各地で紛争が絶えません。一日でも早く、この世界が平和になってほしいと思い、この詩をかきました。

第 16 詩

宇宙はみんなのお母さん。
けんかばかりのあの人も よく吠える隣の犬も
みんな みんな 大きなお母さんの子ども。
だから たまには 心を込めて “にっこり”と。
だって 兄弟だもの。

塩川 佳美

本当は誰とでも仲良く、気持ち良くおつきあいたい。そう思っている現実
はなかなか難しいものです。でも、たまには気持ちを切り替えて笑顔であいさ
つを試みる。そんな小さな積み重ねがいつかはすべてを水に流し、許し合う
心へとつながればいいなあと思います。だって兄弟だもの！

第 17 詩

はしごをどんだんのぼしたら
おほしままでいけるかな
ともだちみんなでいきたいな

篠木 詩奈 6 歳

ろけっともいいけど とちゅう くものうえであそんでみたい

第 18 詩

いちばん上まで のぼって行こう
空のてっぺんを目指そう
途中で見つけたもの全部 私の星になる
いちばん上まで 行こう
キラキラの星でいっぱいの 私の宇宙を作りに行こう

中山 由美 40 歳

いつもやりたいこと、作りたいもの、夢がたくさんあります。前の詩の「はし
ごでのぼる」イメージから、大人も子供も、いくつになっても向上心を持って
いたいなと思いました。目指すゴールにたどりつけなかったり、道をまちがえ
たり、色々あると思うけれど、自分の経験は必ずいつか役に立ちます。無理せ
ず楽しくがんばっていたい、気持ちをこめました。

第 19 詩

いつも 夜空で見守っていてくれる
いつか私も土にかえり、風にのり、
宇宙のあなたのそばに いけるかな

杉田 径子

親に話したくない時、誰にも言えないことも、そして願いごとも、いつも黙っ
て優しく聞いてくれる星。私の周りの亡くなった人たちの思い話しかけるこ
とも。ずっと私のそばにいてくれたので、いつか、私も、宇宙の一粒になるのか
なと願いながら書きました。

第 20 詩

夜空よ
宇宙よ
かなえてくれ
ぼくらの希望を
ぼくらの夢を

手塚 悠 9 歳

広い広い宇宙には ぼくらの希望や夢をかなえてくれる何かがきっとあると思
うから。

第 21 詩

はるか夜空の瞬きと
凜と肌さす静けさと
あなたはねむる 宇宙もねむる

木全 智己

街にいても 深夜の静けさは山深い雪道と同じくらい、冬の夜空は大好きです。

第 22 詩

人が死んだら星になるっていうけれど
こんなに人は 生まれてきたんだね
何億光年も超えてきた光は
はるか昔の恐竜の声も届けてくる
見えるかな？ 21 世紀の僕は毎日楽しく生きてるよ

白幡 有登 10 歳

去年サンタさんから天体望遠鏡のプレゼントをもらってから毎日星を見ていま
す。星がいっぱい見える日はこんなに僕を見てくれているんだなあ和幸福に思
います。

第 23 詩

望遠鏡を覗きながら 笑ってる君
星までは 42.195 キロ？ だなんて
宇宙までの 夢マラソン 走っておいでどこまでも

白幡 千恵 50 歳

望遠鏡をのぞいている息子の姿は、まるで今からスタートするマラソンランナ
ーのようです。興味のある事には後先考えずにまっしぐらの性格。宇宙は歴史だ
ねって笑っています。駅伝選手になるのが夢だと言う息子。いつか宇宙のグラ
ウンドを駆け巡る日が平和であるように願います。

第 24 詩

あの大きい大きい宇宙のどこかで
誰かがみているような気がするの
笑顔で守ってくれている
私を想ってくれている
これからもずっとよろしくね

田中 葵 12 歳

いつもどんなときでも自分のことを想ってくれている人はきっとどこかにい
るとおもいます。自分のまわりにいる人たちの優しさを忘れてはいけないと思っ
て書きました。



第3詩

僕がクラスで漫才をやったら みんなが笑った
おかあさんに話したら
おかあさんは うれしそうに 笑った

米沢 明美

第4詩

グラウンドの君はいつも
汚れたユニフォームで
ボールを追っている
笑って楽しそうに野球をする君が
とにかく、だいすきなんだ。

齋藤 稀子 17歳

第5詩

試合は終わった
マウンドに 立っている君は
肩をふるわせて うつむいていた。

齋藤 浩美

第6詩

あなたがいるから 落ちつく
いつも 隣にいてくれるから
あなたがいるから 楽しい
涙が出るほど 笑いあえるから
あなたがいてくれて 良かったよ

齋藤 未奈子 20歳

第7詩

いつもと同じ朝 行ってきました
いつもの笑顔で ただいまー
毎日 笑顔でいてね

塚元 桃子

第8詩

きみの笑顔は どうしたことだろう
きみの怒りは 何という名のエネルギーなんだ！
きみの瞳の輝きも 汗も 涙も 記憶したから
すべての不思議を解き明かそう
となりにいるから 一緒に 解こう

吉村 直美

第9詩

聞いて 聞いて
瞳の輝きがもう話し始めている
「ただいま」のあとに続く楽しい出来事を

松本 あゆみ 40代

つないだ言葉：瞳の輝き 「ただいま」を言うときの表情や声で一日の様子をうかがい知ることができますよね。明日も元気な「ただいま」を聞くことができますように。

第10詩

「ただいま」。今日も聞けた安心の言葉。
その声が、もし少し曇っていても
話してみれば 笑顔は近い。
ねむれば、心も真っ白な朝の顔。
晴々とした「行ってきます」が聞けますように。

白井 智恵子 40代

つないだ言葉：「ただいま」「ただいま」「行ってきます」「いただきます」「ごちそうさま」。短いあいさつの言葉ですが、子供のその時々気持ちがあらわれる聞き逃したくない言葉です。ずっと元気なその声が聞こえる願いを込めました。

第11詩

あなたの心があたたかいから、あなたの笑顔はあたたかい。
目に見えない物の大切さを、あなたは教えてくれている。
そうして私の心を育ててくれる。ありがとう そして これからも

渡部 儀子 30代

つないだ言葉：笑顔 子供の笑顔を見る度に支えられ、励まされ、そしていろんな事を教えてもらっています。子育てによって教えられることの多さに日々驚かされています。子供の表情のひとつひとつを大切にしていきたい。そんな願いを込めました。

第12詩

私は「ありがとう」が大好きだ。自分から言う「ありがとう」
友達からもらった「ありがとう」家族に言ってもらった「ありがとう」
本当に幸せになる言葉なんだ。みんなの心も幸せになるはずだよ。
ありがとう。おめでとう。おはよう。こんにち。あいさつの言葉は
たくさんあるね。それを口にして、言えたら、みんな、楽しくなるよ。

小芦 安季子 35歳

つないだ言葉：「ありがとう」 私が幼稚園の頃、先生から「ありがとう」と言える事はとても良い事なんだよ、と聞き、それから、その言葉を大切に、育ってきました。あいさつや礼儀を言葉として用いるのはとても大切なんだと最近感じます。

第13詩

心って 素敵だね。
たくさん色を持っていて、どんどん色を変える。
心を通じ合えた時って、何色になるのかな。

岡田 真生 30代

つないだ言葉♡心 心って本当にコロコロと変わっていきますよね！
今であたたかったのに、急にブルーになったり。それを色で見ることができたら楽しいかも！と思いました！

第 14 詩

開会式の朝

たくさんのユニフォーム姿の中から私達のチームをさがす。
「あった」と思うとよく似た色のユニフォームだった。
早く見つけないととあせっていると朝の日ざしがまぶしくて
ほっとひと息ついてみる一瞬がちよっぴり楽しい。

古谷 朱美 39 歳

「たくさん」と「色」という言葉でつながりました。つなぐ言葉を心の中で思ったら
あの日が自然に頭の中によみがえってきました。

第 15 詩

朝のまぶしい日ざしの中を楽しそうに歩く君
無限の可能性を持つ今だから
大きな夢に向って歩こう

吉井 由里 40 代

☆つないだ言葉：朝の日ざし、楽しい ☆子どもの楽しそうな顔を見るとホッ
とします。夢も楽しみながら叶えられるように…という思いを込めました。

第 16 詩

野球をする君を見て
今日のなにげない幸せを感じる
何かに チャレンジする君を見て
なんだか 勇気が わいてくる
人生は 無限に広がっている

藤井 典子 30 代

○つないだ言葉：無限 ○小さかった子どもが野球を始めて 成長していく姿
を見ながら、私自身も何か新しい事にチャレンジしていきたいなという…気持ち
を込めました。

第 17 詩

幸せってどこにあるんだろう・・・私はいつも探していた
あなたが我家にやってきて、なんでもない
「日常」にたくさんの幸せがある事を教えてくれたね

船橋 夕起子 40 代

○つないだ言葉 幸せ ○子供が生まれてから、家族みんなが健康で新年を迎
える事が出来る事を、とても幸せに思っています。

第 18 詩

「普通」なんかじゃ つまらない
「ありきたり」じゃ ものたりない
そう尖ってきたはずなのに
この「平凡」な日常が
今、とっても温かい

正富 亜紀子 34 歳

つないだ言葉：「日常」（前詩の温もり感もつないでみました） コメント：毎日
生きていることが当たり前だと思って過していた若い頃を思い出しました。な
んて愚か者だったんでしょう！今、この暮らしの中で、平凡でいることこそ難
しく努力がいるものなのだと感じています。改めて、両親へ感謝したいですね。

第 19 詩

心のこもった 温かい言葉
これまでにたくさん もらっている
これからはたくさん 与えたい

水谷 美和 43 歳

つないだ言葉：「温かい」 今までの経験の中で教えてもらい、ささえられてき
た色々な言葉を今度は自分が周りの人に「返す番」だ。とそう思える心豊かな
時に大変感謝しております。

第 20 詩

与えたい
頑張っている あなたにだから言えること
早起きだって 寒さにだって 弱音を吐かない
夢中になれるものをみつけたあなたに
自信を与えたい

藤本 さやか 37 歳

つないだ言葉：「与えたい」 上からの目線の表現になってしまいましたが、頑
張っている人をみると、応援したくなる素直な気持ちです。何でも地道に続け
ること。続けることこそ、自信へとつながっていく、そう信じています。

第 21 詩

「頑張る！」って苦しいこと
「頑張る！」って勇気がいること
でも いつかきっと素敵な君になる

佐藤 和子 41 歳

つないだ言葉：「頑張る」 ○「頑張る」ことが必ずしもよいことではないのか
もしれませんが、やはり素晴らしいことだと思います。すぐに結果を求めてしま
いがちな自分への反省もこめて・・・子どもたちには時間はかかっても一歩ず
つしっかりと進んでほしいです。

第 22 詩

「勇気」って
こんなに 大事なことだって
こんなに 難しいことだって
広い宇宙を想う時
その重みに足がすくむ

清野 幸子 45 歳

つないだ言葉：「勇気」 子供を持つ親として未来を考える時、今ほど“生きる
こと＝勇気を持つこと”と思ったことはありません。人として成長し、生きて
ゆくこと——この素晴らしい挑戦の日々をかみしめながら過ごしてゆきたい、と
親・子共に思っています。

第 23 詩

初めて 抱っこをした時の
ずっしりとした あの重み
きみが存在する確かな証し

小山 有希子 40 歳

つないだ言葉：「重み」 今年 10 才になる子供が生まれた時のことを思い出しな
がら書きました。喜びよりも不安が大きかったこと。初めての育児にとまどい
ながら精いっぱい過ごした日々のこと。成長するにつれ忘れかけていた「存在
するだけ愛しい」という思い、そんなことを改めて感じました。

第3詩

展望台から見る町の明日は
どこかもの悲しげで、でも
未来に向かってキラキラと輝いている

酒井 千秋 14歳

暗い事件が多いこの世の中ですが、それでも期待を持っているという思いを込めてみました。

第4詩

公園であそんでいたら いつのまにか 暗くなった
さむいから 走ってかえろう
かえったら みんなと 話そう
今日の たのしかったこと
そうだ 明日も 行こう

近藤 奈津子 9歳

冬は暗くなるのが早いので 短い時間のなかで たくさん あそびたい と思った。
楽しかった話をしていると また あそびたくなった。

第5詩

気になる明日の一日
ワクワク、ドキドキ
夜の星の下で笑う僕

松本 泰河 10歳

寝る前のベッドの中で毎日考えていること。

第6詩

どうして 星は 光っているんだろう
私たちの 笑顔のように キラキラと
みんなで おしゃべりをしているのかな？
それとも 遊んでいるのかな？
きっと 楽しくて みんな 笑っているんだね。

藤本 奈々 9歳

星 同士の おしゃべりが 聞けたら 楽しいな と思い書きました。

第7詩

空からの流れ星
キラキラと光ってる
願い事 かなえてくれるかな。

阿部 龍也 9歳

流れ星を見たら、願い事がかなうといいな . と思い書きました。

第8詩

みんなの顔をみてる
目がキラキラ光っている
なにかいいことあったのかな
早く話を聞きたいな
どんな話だろう

柴田 夏実 10歳

キラキラしたものを考えたらお友達のうれしそうな顔を思いうかべました。

第9詩

なんだか 話し声が、ちかづいてくる
たのしそうだなあ
私もいれてもらおう

宮原 真衣 8歳

学校での休み時間に友だちとのおしゃべりを、楽しんでいる様子を、思いうかべ、書きました。

第10詩

太ようがお父さん
月はお母さん
地球はお姉さん
星は妹
みんななかよし、楽しそう

吉田 実紀 9歳

うちゅうの星はみんな、なかよしで、かぞくのようなだと思ってかきました。

第11詩

星がキラキラ光っていて
おじいちゃん、おばあちゃんの
やさしい顔が見えてるよ

松永 美里 8歳

家族のほかにもきっとたくさんの人が見まもってくれている様子を思いうかべて書きました。

第12詩

バスケの帰り道、外は真っ暗。
夜空にはたくさんの星がかがやいていた。
し合に勝ててうれしかった。ルンルンの気分だった。
みんなの笑顔もとってもキラキラしていた。
明日もキラキラ見えるかな。

三木原 ナーディ 8歳

みんなとがんばって し合に勝てたことがうれしくて星のキラキラさえもうれしくてみんなの笑顔も思いうかべ書きました。これからも いっぱいキラキラを体験したいです。

第 13 詩

夜空をみあげていると
しいんとしずかな 気持ち になった
ちょっぴりさみしくなった

はしもと たまき 8 歳
夜空の星はさみしくないのかなと思いながら、書きました。

第 14 詩

そっちの大きく光ってるお星さまは何か
うれしいことでもあったの？そっちの小さく
光ってるお星さまは 何か いやなこと
でもあったの？みんな なかよく
いっしょにお話ししよう。

峰島 優奈 9 歳
知らない人にも話しかけたらお友だちになれる。みんな仲よく遊べたらいいな
と思うかべて書きました。

第 15 詩

お星様、お月様、
いつも、キラキラ光ってきれいだな
いつもみんなをみまもってね

芦田 瑞歩 8 歳
いつも、キラキラ光って、みんなのことを、みまもってくれてるように思った
ので書きました。

第 16 詩

太陽は
いつでも ぼくについてくる。
どこでも ぼくを 見守っている。
遠く 遠くの うちゅうの はての
君が とっても 身近に いるよ。

奥崎 貴大 9 歳
空を見ると、いつも太陽が光っている。そうすると、うれしい気持ちになって
くるから書きました。

第 17 詩

太陽はいつも光ってる
お月さまより光ってる
お星さまより光ってる

かとう けんた 9 歳
太陽が元気に光っているように見えて、みんなも太陽みたいに元気になってほ
しい、という気持ちで書きました。

第 18 詩

ベランダで星を見ていた
あと少しで手がとどきそう
なのになかなかとどかない
もう一度チャレンジ
あっあと少し

加藤 有美 11 歳
やりたい事に向かって何度も何度もチャレンジしようとしている時の思いを書き
ました。

第 19 詩

家族で出かけた帰り道
夜空を見上げた
あの星はあと何億年 輝くのだろう

平川 実佳 11 歳
私の時間と星の時間はずいぶんちがうのだろう そんなことを思いながら書いて
みました。

第 20 詩

輝く星。
いつも僕達のことを見ていてくれる。
そんな僕らも暗い夜空を明るく
照らしてくれる星を見あげる。
明日もまた会おうと約束しながら。

高田 健太 11 歳
毎日、あたり前のように見ている星は曇ったり雨がふると毎日見えるとは限ら
ない。星空が見えると安心して友達とわかれられると思ったので書きました。

第 21 詩

今日はどんな出会いがあるのだろう
広い世界での出会いって
なんだか不思議じゃない

源関 遥 11 歳
大きくて広い世界での出会いはぐうぜんが重なっていると思いながら書きました。

第 22 詩

三年生のときバスケットに出会った。
シュートが入ったときのうれしさ！！
試合に勝ったときのうれしさ！！
バスケットが大好きになった。
もっと広い世界でバスケットをしてみたい。

山田 春菜 12 歳
出会いから連想して、バスケットの出会いを思い出しながら、又これからもバス
ケットを続けていきたいと思いながら書きました。

第 23 詩

星は不思議だ。
だって絵に描く星は★こういうのだけど
本当はバスケットボールみたいに丸いから。

山田 優菜 10 歳
バスケットボールと星は、丸い所が共通点だと思いながらこの詩を書きました。

第 24 詩

星がキラキラ光ってる
私もキラキラ光りたい
星はどんな気持ちで光っているのだろう
きつとうれしい気持ちかな？
いやなことはわすれちゃおう。

藤浪 清子 8 歳
みんないやなことをわすれて友だちでいよう そうゆう気持ちで書きました。

第 25 詩

星はキラキラ光って話しをするの？
雨の日は雲にかくれてないしょ話
晴れた日はみんなでパーティー大さわぎ

井上 舞波 9 歳
私たちはうれしいときはもりあがったりするのに星や月はどうやってよるこんだりするのかなと思って書きました。

第 26 詩

晴れた日の夜空。
星。星。星。星。
星はかがやく。星はきらめく。
遠く遠くの宇宙から。
私たちをおうえんしてくれる。

井口 佳乃 9 歳
星を見ると、元気づけられると思いながら書きました。

第 27 詩

星は光りの王様、だから晴れの日しか
光ってくれないの。
雨の日はお休みなんだよ。

浜渦 友香 9 歳
星は夜にしか光らないから、よけいにきれいに見える。

第 28 詩

晴れの日夜の帰り道
家族みんなで星さがし
東京の町は明るくて
もっとたくさん見たくなる
きらきら光るたくさん星

葉山 千里 9 歳

家族で、でかけた帰り道に空を見ながら 清里に行ったときに見た、たくさんの
きれいな星を思いだして書きました。

第 29 詩

晴れの日、
太ようキラキラわらってる。
おさんぼしよう。

な ら りゅうせい
奈良 瑠星 7 歳
部屋の中から、窓の外のかがやく太陽を見て、散歩したい気持ちになったことを詩にしました。

第 30 詩

おさん歩中のダックスフンド
うれしそうに しっぽを ふっている。
わたしにしっぽはないけれど
うれしい気持ち、楽しい気持ち、
たくさんみんなに つたえたい

な ら かなで
奈良 奏 9 歳
散歩している犬が うれしそうにしっぽをふっているのを見て 気持ちを伝える方法について考えてみました。

第 31 詩

人は、今の気持ちを話すことができる。
犬は、話すことはできない。
でも、気持ちをうまく伝えることはできる。

山澤 佳奈 10 歳
犬は、話すことはできないのに、気持ちをうまく伝えることができずごいな
と思いながら書きました。

第 32 詩

新年ははがきによって伝えられた。
テレビやカレンダーからも伝えられた。
みんな新年を喜んでいる。
特に喜んでいるのは牛だろう。
12 年に一度のチャンスがまわって来たのだから。

永田 万桜 11 歳
自分の干支が来たら、次の出番が来るまで 11 年も待たなければならない。それはとても悲しい。だけど、自分の出番がまわってきたらとてもうれしいだろう
うなと、十二支の動物たちの気持ちを考えてみました。

第 33 詩

今日は、空が曇っている。
月がどこにあるのか分からない。
あつ、やっと月が現れて私はとっても喜んだ。

高嶋 佑衣 11 歳
「あきらめずに努力すれば夢は叶う」と感じながら書きました。

第 34 詩

会いたい人がいる。
でも会えない。
見てるのかな
その人も
この広い空を…。

友浦 智香 11 歳

会いたい人も、きっと同じ空を見ていると、言う思いから書きました。

第 35 詩

かみが長くてメガネをかけた人や、ぼうしをかぶり
犬のさんぽをする人、人には、かぞえきれない個性がある
空にうかぶ雲のように。

猿田 高久 11 歳

実は上の詩に出てくる二人は詩を作る材料を集めようと、ペランダに出たら道を通った人なんです。

第 36 詩

雲、それは、どこまでも流れ続ける
ぼくたちも同じなのかもしれない
辛いことがあったとしても
後ろばかり 向いてはいられない
前に向かって歩き続けよう

森 翔兵 11 歳

辛いことを乗り切れば、その先に幸せなことが待っていると思いながら書いていました。

第 37 詩

雲はどこまでも流れる
空を通じてどこまでも、
今、見ている雲は空を通じて遠くへ行くのだろうか。

佐藤 隆亮 11 歳

雲のように何かをつかって物事をうまくできないかと思いながら書きました。

第 38 詩

空を見上げると、雲がない青空だ。
気持ちのいいその青空の下、
校庭で太陽や富士山に
見守られながら、みんな元気に
遊んでいる。

大友 悠一 11 歳

学校の教室の窓から、外を見ていて思った事です。

第 39 詩

みんなとあそぼう。雲や青空、太陽
と、ともに。みんなみんないきているから、
元気よくあそぼう。

大友 梨子 8 歳

1 人であそぶ時に、とてもつまらないから、太陽や雲に、話しかけるようにすると、声が返ってくるような感じになるからです。

第 40 詩

空を見てると、頭が真っ白になる。
試合中のぼくみたいだ。
空を見てると、勇気がわいてくる。
今日も頑張ろうって思えてくる。
なんだか空に応援されてるみたいだ

清水 元春 12 歳

いつも、空を見ていると、思えてくることを書きました。でも、空だってぼくを見てくれているんじゃないかなと思います。

第 41 詩

雲は気まぐれだ、
日によって動きを変える、
まるで僕みたいだ。

原 舜弥 12 歳

自分と雲を照らしあわせてみて、思いつきました。

第 42 詩

青空は晴れの日顔をだす
雨の日雲に顔をふさがれてかくれる
はずかしがりやさんなのかな
明日は顔をだすのかな
空を見るのが楽しみだな

宇佐美 友望 9 歳

空を観察していたら思いつきました。青空もこんな所があるんだなと思いました。

第 42 詩

まどの外に白いつぶが見えた。
まどを開けてみると、雪がてんとふっていた。
手をのばしてみたけど手のひらでスーと消えてしまった。

長谷川 澄音 10 歳

雪がふってうれしかった。つもってほしかったのでざんねんでした。

第 44 詩

まどの外をのぞいてみると、
鳥が鳴いていた。
仲よしのかな？
手をつなぐように、
向こうへ飛んでいった。

伊野 透佳 9 歳

しばらくみつめていたら 2 羽よりそって飛んでいってしまいました 春がきたみたいになが暖かくなりました。

第 45 詩

仲よしそうな友達が 2 人歩いていた
時々、小さな笑い声が聞こえる
明日もずっと一緒にいるんだろうな

佐藤 歩果 10 歳

友達はずも一緒にいてくれて、いつもそばで笑っててくれる。そんな事を
思って書きました。

第 46 詩

仲よしの友達といると すごく楽しくなる
みんなで笑いながら話していると すごく 落ちつく
心も温かくなる
これから卒業するまでずっと
一緒に笑っていたいな

佐々木 里奈 10 歳

いつも一緒にいてくれる友達の事を考えながら書きました。卒業したらはな
ればなれになるかもしれないから いつも一緒にいたいなと思って書きました。

第 47 詩

友達はずも大切だ
一緒に笑うととても楽しい
だから心も温かい

松本 蓮 10 歳

友達と遊んでいて楽しかったことを思って書きました。

第 48 詩

一緒に 星空 見上げよう 永遠に輝く星たちは
何千年 何万年 何億年前から そこにある
星たちが 応援してくれる
希望に 満ち溢れた 未来があるから
さあ 恐れず進もう！

松本 夏帆 15 歳

限りのない星と自分たちの希望をかけ合わせてみました。皆さんの願いが叶い
ますように。

第 49 詩

一番星は一番早く出る星だ
一番早くぼくらを見ている
一番星はさいごまでぼくらをてらしている

野口 拓郎 10 歳

ならいごとをやってやめたくなくなるときもあるけど一番になりたいと言う気持
ちを応援してくれるのが一番星。

第 50 詩

星空はきれい。キラキラしている。
山で見ると、ほうせきのようにかがやいている。
キラキラ、キラキラ。
いまでも手にとどきそうなかんじがする。
みんなのきれいな星。

野口 雛 8 歳

お山の上で見た星が、あまりにもきれいだからです。

第 51 詩

夜になると、大空にいっぱい星が広がる。
キラキラかがやいている。
あしたはわたしの楽しい一日がはじまる。

野口 藍 8 歳

一日一日を楽しくすごしたらいいなという思いから書きました。

第 52 詩

星は一つ一つ光っている
きっと地球だって光っている
人も光っている
ぼくも君も家族も
ぼくには家族や友達が一番明るいように見えた

山本 晃己 10 歳

ぼくを、支えてくれる友達や家族のやさしい心を「光」にしてつくりました。

第 53 詩

太陽の仕事
夜のうちに光をためる
みんなの光を

浅井 未真紗 10 歳

早起きをしたとき、すごくまぶしかった太陽のことを書きました。

第 54 詩

太陽は昇り
この地球を光で包んでくれる
そして太陽は照らしてくれる
その光で、
地球に住む生き物達を

栗原 惇矢 12 歳

太陽がしてくれていることを考えて書きました。

第 55 詩

陽は、光っている
だから
地球に光がある

船山 健太 11 歳

地球に、光があるとゆう事を書きました。

星の20丁目

(松庵小先生発)

第56詩

太陽は大きい。
だから陽の光をたくさんくれて
地球を守ってくれる。
日の陽をみんなに与えて
みんな笑顔になる。

井上 香織 12歳
みんなが笑顔になれることを願って書きました。

第57詩

地球には人がたくさん存在しているけど、
私という人はこの世に1人しかいない。
だから大切にしよう、この命を・・・。

室田 恵里 12歳
命を大切にしたいということを書きました。

第58詩

命ってすごい。
ママのママは大正生まれ
ママのママの100人前は縄文時代へタイムスリップ。
命のリレーはずっと続く。
じゃあ私の孫は何時代？

室田 亜美 11歳
前の詩から、命という言葉をつなぎました。

第59詩

夜、空を見ていると、この星はいつからあるのかと
不思議に思えてくる
何年前？ 何百年前？ それとも何億年前？

加藤 史子 12歳
日頃から、不思議に思っていることを書きました。

第60詩

「キラリ☆」夜、空を見ると光ってる物がある
どこで光っているんだろう
なんで地球の夜空にでてくるんだろう
星をもっと近くで見たい
どこにいけばみれるかな？

山本 渚 8歳
星のことを書きました。

第61詩

ながれ星は、どこからきているのだろう。
ながれ星は、どこへ行くのだろう。
広い宇宙のかなたへ・・・。

大橋 百合彩 8歳
ながれ星を見たいと思って書きました。

第3詩

母は見ている
ぼくらのことを
空の上から見ていてくれる

石井 文明
第2詩から、亡き母のことを思いました。子どもときの母の様子がオーバーラップしてきたような気がしました。

第4詩

空よりも高く
海よりも深く
続く命
バトンを受け
今ここに

曾我部 和広
第3詩から、母への愛を感じました。そして、連綿と続く命を受けて、こうして生きていることを意識しました。

第5詩

いろんな命
僕の知らない命
まだまだたくさんあるんだろうなあ

安田 富士成 28歳
第4詩での時空を越えての命のつながり、そして今現在“バトン”を受けて走っている僕達。お互い話ができなくても、顔を合わせることがなくても今の地球を生きている、同じ時間を共有しているんだなあ・・・と。

第6詩

見知らぬ町
見知らぬ国
見知らぬ世界
見知らぬ星
いつか出かけて出会ってみたい

曾木 誠
見知らぬ場所に出かけると何か必ず新しい出会いや発見がある。それを追い求め旅を続けたい。

第7詩

石畳の街
棚田の村
しわくちゃの笑顔

峰 秀人 58歳
第6詩の見知らぬ…を受け、中世からの町で、家や道路をそのまま大切に使っているヨーロッパの国々、今でも残っている日本の棚田が目につかび、そこに住んでいたり働いていたりする心豊かな人々、私も落ち着いた気分になります。

第 8 詩

無数の星たちは、
共に笑い 共に輝く
自分色に キラキラ輝く
色よりも 輝きが大事
大きさよりも 輝きが大事

中尾 祥 29 歳

第 7 詩の「しわくちやの笑顔」から、自分というものをもって生きている、キラキラ輝く魅力的な笑顔を思いました。星たちは世界中の人々、色は生きる道、大きさは地位や名誉をイメージしました。何より、全ての人々が自分を信じて、たとえどんな状況でも前向きに生きていくために助け合い一緒に笑っていきたいという願いを込めました。

第 9 詩

昔も今も変わらないもの それは子どもたちの笑顔
キラキラ輝く笑顔に会いたくて
今日も張り切る私

斉藤 ヨネ子

第 8 詩のキラキラ輝くから子どもたちの笑顔を思い浮かべました。屈託のない純真な笑顔にいつもいやされています。この生き生きとした笑顔を消さないよう、世界各国の平和を願いつつ…。

第 10 詩

ああ!! なるほど…
キラッと 瞳が光る
顔が ほころぶ
教室に 一体感が生まれる
子どもたちと 創り上げる授業

塚田 美和子

第 9 詩を受けて、教室で子どもたちと向かい合う楽しさを想像しました。日々の授業で、子ども達と共に創り上げたという実感がもてた時、もてること、それが大きな喜びです。

第 11 詩

過去の自分の学舎が
今は自分のパラダイス
いつかみんなも感じてほしい

藤井 爽子 23 歳

第 10 詩の「教室」という言葉を受けて、以前自分が授業を受ける場所だったのが、今では授業をする場所になっていることを書きました。母校で教員として毎日を送れる喜び、とてもかわいく素敵な子どもたちがいる「教室」はパラダイスです。もしも望む子がいるならばいつか私と同じ幸せを感じてほしいという思いで書きました。

第 12 詩

教師となって 37 年
今までの自分とこれからの自分
もっともっと輝いていきたい。
縁があって出会った子どもたち
幸せな道を歩んでほしい

中村 とも子 60 歳

第 11 詩の今と過去という言葉を受けて、長い教員生活のさまざまな思い出、子らの顔を心に大切な宝としてしまうと共に、これからの自分の人生をゆたかに歩んでいきたい。みんなの幸せをいのりながら…。

第 13 詩

輝き。一番の輝きは 子どもたち。
世界全体が 一つの輪になって、
美しい光を 永遠に放っていてほしい。

下山 育朗

第 12 詩の「輝いて」と「子どもたち」を受けて、現在世界で起きている様々なできごとを思い出しました。国際線旅客機から初めて目にした見知らぬ国、見知らぬ街の光。あの感動は今でも忘れることができません。世界中に光がとまりますように…。

第 14 詩

おだやかな 陽ざしの中、
楽しそうな おしゃべりと
はじける 笑顔。
こどもたちが 心ひらき、輝く時間が
いつまでも 続きますように。

藤家 礼子

第 13 詩の「一番の輝きは子どもたち」を受けて、平和で安心して、こども達が夢を抱き、歩めるような世界になるといい…と、このごろ特に思います。笑顔から歩みより交流が深まりますように。

第 15 詩

陽だまりの詩、木漏れ日の光、お日様の匂い
きく、みる、かぐ
生きているということ、うれしいということ

嘉手納 悟 30 歳

前詩「陽ざし」「笑顔」という言葉から、「生きる喜び、楽しさ」をイメージしました。ありふれた中の、何気ないひとつひとつが「うれしい」と思える心を大切にしたい、して欲しいと思います。

第 16 詩

ポカポカ キラキラ フワリフワリ
うららかな日ざしの光のつぶが
母なる大地にふりそそぐ
命は今日も元気になる
明日もまた陽が昇る

折笠 悦子

前詩「お日様の匂い」からすべてのものの命を感じました。私たち人間も動物も自然もすべての生きる源は太陽のおかげ。そしてそれは、永遠に続いてほしいという願いでもあります。

第 17 詩

風がそよそよ
木の枝をゆらす
林の木々は若草色に染まる

西村 秀平

前詩「ポカポカ、フワリフワリ」から春を連想しました。丹沢の春の山の景色を思い出しました。

第 18 詩

梅の花がさいた
鳥がとまった
春風ふくよ
桜もさくよ
もう春だね

福岡 佳奈子

前詩の春のイメージから、校庭の春をうたいました。1 月にはつぼみだった梅の花が 2 月にさき、3 月の末には桜がさくであろう、校庭を思いうかべました。

第 19 詩

春の風
どこまで ふいて いくのかな
みんなの 笑顔 のせていってね

畑 実里 26 歳

第 18 詩から、温かな松庵小の春の景色を思い浮かべました。その風が、子どもたちの笑顔をのせ遠くまで届けてくれたらいい…と思いました。

第 20 詩

はだにつたわる風は冷たいのに
明るい光に春が見える
ペダルをこぎながら
どこまでも いけそう
どこまでも いきたいな

前田 恵子

春がもうすぐそこに！気持ちが明るくかるやかになってきます。遠出をしたいものです。

第 21 詩

ペダルを ふむ
考えられない 音色が生まれる
ピアノって だーい好き

武内 享子

嬉しい時も悲しい時もいつも一緒、何度も何度も助けられたピアノ。「これからよろしくね」って言う感じ。

第 22 詩

「地球環境の悪化を食い止めよう」
はじめての展覧会にみんなの作品が輝いていたね。
お母さんやお父さんもほめてくれていたよ。
みんなの力でこの美しい星・地球を
守っていこう !!

小日向 明 58 歳

最近のニュースで、銀河系の星の中で、地球に似た星を探しだす探査ロケットが打ち上げられるそうですが、今、私たちが住んでいるこの美しい地球を、しっかり美しいままに保っていく努力や知恵を子どもたちはじめ私たちは考えていきたいと思います。

第 23 詩

宇宙の展覧会があったなら
地球の作品に人間は選ばれるだろうか…
地球に恥をかかせてはならない

松野 良高 27 歳

地球の悲鳴にやっと気づいた私たち。「エコ」というブームがずっと続くことを願っている。※マイブーム『エコ』

第 24 詩

人間て 気持ちが大切。
自分の気持ちは自分のもの。
人の気持ちは人のもの。
自分の本当の気持ちは何か
みつめてみよう！

津久井 悦子

保健室の掲示の中の「今日の気分は？」のポスターは子どもに人気。自分と正面から向き合うことは、いくつになっても大切なことだと感じています。

第 25 詩

I love you , Je t'aime, Te amo,
Jag älskar dig , Ti amo, Ich liebe dich
я люблю Тебя, 我愛你 ♡♡♡♡ 愛してる♡♡

横山 文子

第 24 詩の“人間”から“愛”を連想しました。“愛”こそ一番大切なメッセージですよ♡私も多くの愛に包まれています。全世界が愛に満ちますように…♡♡♡

第 26 詩

わたしが にこっと笑ったら
あなたも にこっとほほえんだ
その笑顔 だ〜い好き
そのまなざし あったかい
春の陽ざしと同じだね

高橋 郁恵

第 25 詩、そのままに『愛』。地球上のすべてのものは『愛』なくしては生きていけないと思う。人間も生物も自然も…。励まし合って助けられ、思いやられて感謝して、淋しくならないために…。不滅のものであって欲しい。

第 27 詩

冬は必ず春となる
春という言葉は 心をあたたくするね
笑顔も心をあたためくれるね

西田 眞美

第 26 詩の春と笑顔を結びつけてつくりました。「春」「笑顔」私の好きな言葉です。

第3詩

行ってきた〜す！ ずっしりしたカバンを持って 走っていく
ずんずん小さくなる後ろ姿に 少しの迷いをためながら
未来の笑顔を 期待して

源関 淳子 49歳

塾へ行く子どもを見送りながら。日々成長する子どもを見送りつつ どのステージでも心配の種は尽きません。選択した道が本当に正しいのかどうか迷いつつ 一步一步人生を刻んでいきます。子どものカバンの重さに母親の心の重さを重ねました。
P S : 第8詩の方がランドセルに夢がつまっていると書いて下さっているのがとても救いになりました。

第4詩

赤や黄色のサクラの落ち葉がいっぱいの
小学校で、就学時健診をやっていた。
来年少児達が 入学するころ、花を咲かせる
サクラ。 希望いっぱいの新一年生。
サクラの下に笑顔がたえませんように…。

大野 道子 69歳

年をとると月日のたつのが早いこと！ ついこの間 サクラが咲いていたような…。でもきれいなものに感激する気持は失いたくないですね。

第5詩

身近に孫達の笑顔溢れる幸せ
車椅子の老妻のほほえみも幸せを運んでくれる
共に傘寿の峠を超えて、今心静かなる幸せ

長谷川 正 80歳

前の詩の笑顔を受けました。

第6詩

おふとんに入るのが楽しみ
だって入るかわりに夢サンタが切符をくれるから
毎日来る夢サンタ
夢に行くための特別な切符
明日に向かう不思議な切符

げんせき はるか 11歳

前の詩の幸せを使って私にとっての幸せは、寝ることなので夢サンタという言葉を使いました。

第7詩

しずしずと歩み寄る夢の足音
空へと続く扉が開かれる
一步一步踏みしめて

源関 朋 17歳

前の詩の夢を受けました。

第8詩

「にゃーご」通りの向こうから元気な声
「ママ帰ったよ」の合図かな？ 大きすぎていたランドセルが
今年は背中にチョココンと貼りついている様だ
小さくなったランドセルに
大きな未来の夢を一杯につめてる

大橋 照子 71歳

元気で可愛い小学生の女の子。先日背くらべをしてくれました。もうすぐ追い越されそう。でもなんだか嬉しい気分です。

第9詩

パタゴニア、コスタリカ、ネパール
目をきらきら輝かせて世界に飛び出していく娘
無事に帰っておいで

疇津 スコット 久美子 49歳

カナダ生まれの娘が一人で旅行する年になりました。うれしい気持ちと心配が一緒に。

第10詩

おかずがおいしいとかまずいとかワイワイやってた子供達は巣立ち
私は残る
これからが本番、思い出をたくさん作るぞ
いつでも どこにいても 幸せでいる力を
昔からの友達が 分けてくれる

菊池 素子 49歳

友達と山を歩いて元気をもらった日に書きました。

第11詩

こんなところに どんぐり ひとつ
小さくなった 娘のスカートから飛び出した
どんな夢を 見ていたの

岩本 綾子 44歳

前の詩の 私は残る からイメージして。小さくなった娘の服を整理していたら スカートのポケットからどんぐりが ひとつ出て来ました。まるで眠りからさめたように…。

第12詩

たくさんの夢 いろいろな夢
あの大空へとばそう
たくさん たくさん
想いをこめて・・・
消えないように願いながら

岩本 菜々 9歳

前の詩の夢を受けました。5行はむずかしかったです。

第 13 詩

雨上がり
木々の葉が落ち
空は広々澄み渡る

しんとめ けい こ
新留 敬子 43 歳

空を受けました。東京の空もきれいなのだと感じての詩です。

第 14 詩

雨あがり 水たまり
犬とねこと それからわたしの
大きな かがみ
のぞきながら
にじのリボンをむずぶ

なつき
松本 菜月 8 歳

だいすきな雨あがり。

第 15 詩

にじがつかないだ
こっち と
あっち

西川 節子 59 歳

前の詩のにじを受けました。すばらしいにじに出あった事があります。言葉が出てきませんでした。

第 16 詩

あっち こっち そっち
「コウキシン」は とびまわる
どっち？ よっち よっち
小さな足で おいかける
さがせ、さがせ 君の「すぎ」

安楽 佳奈代 41 歳

1 歳 5 か月の息子はじっとしていません。彼にとってこの世はワンダーランド。沢山の“見て”“触れて”“感じて”をくり返し、“すぎ”と思えるものに、人に出会って欲しいと思います。第 15 詩「あっち、こっち」をうけました。

第 17 詩

「すぎ」ってどんなきもち？
わくわく うれしい
大ぼうけん。

あんらく そら 8 歳

すぎということばは、わたしは「わくわく」「うれしい」というかんじだと思っています。さいごの大ぼうけんは、「わくわく」と「うれしい」ということばがぶんれつしているいろなばしょにいくかんじをあらわしました。

第 18 詩

大ぼうけん
あっー いい言葉だなあ
まだ できるかな
やっていいのかな
あっ やりたいんだ 私

東 ちづる 48 歳

ハッとさせられました。8 才の そらちゃんの 言葉に。勇気もらいました。一生 大ぼうけん！ Love & Peace ！

第 19 詩

あっー いい一日だったなあ〜。
明日は どんなだろう？
一杯飲んで 寝よう〜っと。

小林 ひとみ 36 歳

いい一日だったと思えて眠れることは 幸せなことです。

第 20 詩

今の 一瞬 一瞬が
未来の私を形づくる。
ちゃんと 生きなきゃ。
昨日より 今日が好き、
明日はもっと好きって 言えるようにね。

西山 雅子 38 歳

そして、まだ見ぬ君に あえるといいな。

第 21 詩

今日が
今日であるのは
一瞬だけ

西 菜々香 11 歳

1 日は短いなあーと最近思いました。

第 22 詩

きょうがパーティーの日

おいしいごはん
プレゼントがいっぱい！！

みやけ はなの 7 歳

たのしかったです。

第 23 詩

ワハハ ウフフ ガハハハハ
大好きな 仲間たちが集えば
そこは 楽しい ことばたちのパーティー

升水 彩 31 歳

パーティーとかけて 楽しさと ときました。今年も 幸せな仲間と一年を送れたことを心より嬉しく感じています。

第 24 詩

㊦フフフフ
㊦カチカチカ
㊦ラヘン ユラヘン ユラヘン
㊦ントコ ドッコイ ウントコショ
宇宙には いろんなものが つまってる

加藤 佳子 39 歳

ドキドキとか エーンエーンとか キゃー！！ も詰まっています。

第 25 詩

チカチカまぶしい朝の道
ハァと息を手のひらにためる
さっき、いってらっしゃーいの声を聞いた耳にあてる

アンラク ユタカ 44 歳

第 24 詩の「チカチカ」をもらい、冬の朝、出勤する時の様子を詩にしてみました。朝の低い太陽の光が反射して道がチカチカしています。冷たい空気に耳たぶが痛くて、手のひらを自分の息であたためて、耳にあてます。ふっと、さっき家を出る時に聞いた妻の「いってらっしゃーい」の声を思い出しました。

第 26 詩

遠い声が よんでいる
あるく あるく
ゆっくりね
気がつけば
きっと わたしは 海にたゆとう

こぶな ゆきこ 47 歳

「いってらっしゃい」は「おかえりなさい」につながっている。私にとって帰りつくところのイメージは海。海は宇宙の海でもあります。

第 27 詩

海、大好きです
いつまでも どこまでも
美しく いてほしい。

カサイ ジュンコ 53 歳

第 26 詩の海をもらいました。世界にも誇れる石垣島の海に魅せられて通い続けた事があります。今でもきれいな海を見ると中をのぞきたくなります。子ども達にしっかり残してあげたい自然たち。大人の責任です。

第 28 詩

ピンと 張りつめた 静けさの中
美しい光を放ち
ゆっくりと 顔を出す
小鳥は さえずり 街が ざわめく
今日も一日 見守っていてね

青木 美枝子 40 歳

第 27 詩の 美しく を受け、新年を迎えた初日の出が、あまりにも偉大で ホッと心が暖まり 明るい未来を約束してくれるような気がしました。

第 29 詩

今日はどんなことがあったかな？
おふとんの中で考える私
明日も楽しくなりますように。

藤本 奈々 9 歳

毎日が楽しいのでこれからさきずっとつづくといいなと思って書きました。

第 30 詩

隣で眠っている 子供たちの顔
同じ顔が 二つ 並んでいる
今日も楽しい一日が過ごせたね
特別なイベントがなくても
あふれている 日常の幸せ

藤本 澄香 35 歳

第 29 詩の楽しく…を受け、自分にとっての楽しい事は何か～と考えてみました。家族で外出するのも楽しいけど、家でゆっくり過ごす日常にもたくさん楽しみがあるなと感じました。幸せそうな子供たちの寝顔を見ると、今日の一日が充実したものだったんだなと感じます。

第 31 詩

毎日楽しく遊んだり
べんぎょうしたりする
これがぼくのしあわせだ。

柴田 才蔵 9 歳

ぼくのしあわせをしにかきました。(しあわせ)をうけて。

第 32 詩

昨日、 今日、 明日、
代わり映えのない毎日だけど
少しずつ、確実に 成長していく
その 小さな 一歩 一歩が
素敵な未来に 向かっていると信じてる

柴田 司都 37 歳

「毎日」をうけて、未来への希望を書きました。

第 33 詩

明日はコマの手のせ
できるかな
たのしみだな

柴田 玄白 6 歳

コマが 上手に できるようになりたいと思って 書きました。(「明日」をうけて)

第 34 詩

タタタタタタ、
元気に遊ぶ、
幼子の足音。
未来に続く、
たしかに続く。

坂村 道子 47 歳

「楽しく遊んでいる様子」をうけて 音でイメージして、想いを書きました。私の好きな、家の中の音です。

第 35 詩

すばやく駆けるチーターは、
ボルトの足でも、おいつかない
ぼくも速くなりたいな

坂村 真 9 歳

足が速くなりたいなという気持ちを書きました。(足音)をうけて。

第 36 詩

ぼくが、歩いたら、かげも歩く、
ぼくが、走ったら かげも走る、
だから、
ぼくと、かげは、
いつも、同じ。

堀内 大生 9 歳

「走る」をうけて、かげを、イメージして、書きました。

第 37 詩

家族で散歩 かげはひとつ
かげはいつかはバラバラに
それでも心はいつもひとつ

堀内 史子 38 歳

「かげ」という言葉と かげと自分はいつもくっついている(ひとつになっている)イメージから書きました。子供が小さい時は家族みんなで一緒に過ごすことがあたり前でした。子供の成長に合わせて家族と過ごす時間は減っていきませんが、どんなに離れても、いつも思っているよ、という気持ちを込めました。(自分の子供に対してはもちろん、離れている両親にも)

第 38 詩

森のかげには、ひみついっぱい
ぼこり、きのこたち手をつなぐ
輪になってぐるん、
見上げた空の奥、じゅわっと甘い星 3 つ
どんな色？

増井 潔 45 歳

うまそうな星は、輪になってみんなで食っちゃえ！ と、いつも思うんです。

第 39 詩

月のいろはくろい
だけど、ちきゅうからはきいろい
見ると、でんばにおされる

ます井 まな 7 歳

学校からかえるときにおもった



第 3 詩

家の灯りは まだ少し先だから
わざとゆっくり歩いて ひとりを楽しんでみる
凍てつくオリオンを 眺めながら

小松 美香

第 2 詩を読んだ時、すっと思出したのは、ほんのわずかな時間だけ「ひとり」を楽しんでいる自分。勤め帰りの寒い夜、少し灯りの少ない道は、空が広くてオリオンがくっきりと見えた。

第 4 詩

お月様がついてくるよ
静かに子どもがつぶやいている
星もきれいだね あしたはきっと晴れるよ
群青色の空だから あたたかい輝きが似合うはず
月と星と私たち わざとゆっくり帰ります

安野 めぐみ

前詩「家の灯り」から夜を連想し、保育園からの帰り道の一コマを思い出しました。忙しく急いで帰り、家事をしたいところ、子どもときれいな夜空を見て気持ちを共有する、時間に追われないすてきな一瞬をイメージいたしました。

第 5 詩

空には たくさんの星がある
私には きらきら光る瞳の二人の子どもがいる
とても 大切な星

山本 智恵

第 4 詩から♪きらきらひかる お空の星よ♪の歌が頭をよぎりました。星のきらきらから瞳のきらきらをもってきました。

第 6 詩

星灯りにうかぶシクラメン
ゆっくりとページをめくる長い指
いつもの風景のなかで 時が流れていく
お茶でも 飲みますか？
本から目を離れたあなたのこぼれる笑顔

鈴木 泰子

前詩から星をイメージし、全体的にゆったりとしたものを感じました。あたたかくておだやかな情景がうかびました。子どもに関連したことばから少し離れてみました。

第 7 詩

部屋いっぱいに陽差しが入り込んでいる
窓の外は草木も光も空気もじっと静かに
時を待つ寒い季節

五十嵐 祐子

前詩の星灯りにうかぶシクラメン…冬でつなぎました。私の好きなこの季節のイメージを書いてみました。

第 8 詩

いちょうの葉が舞っている
雲も形を変えながら 流れている
風に負けないように落葉のじゅうたんを踏みしめて歩く
そのやわらかな感触が心地良い
心も体もあたたかくなる 冬の午後

岩渕 秀子

前詩から穏やかな冬の日をイメージしました。公園の冷たく澄んだ空気の中を歩いて、気分転換。自然から元気をもらえました。

第 9 詩

冬の夜 月明りの下
ふりむかず 止まらず まっすぐ歩きつづける
その先にある物を信じて

小松 美月 11 歳

第 10 詩

潮が満ち
新しい生命が生まれるよ
幾千年の営みを
見つめてきた夜空の^{あるじ}主
明日を生きる力を私にくれる

川久保 ルミ子

前詩から満月が目に見え、地球の生物が受ける影響も小さくありません。満月を見ていると、不思議と気持ちが澄んで静かに力がみなぎってくるような気がするのには私だけかしら？

第 11 詩

流星群が夜空をかける
まばたきしないで 夜空で見つけた
流れ星に願いごと

西 裕子

前詩の「見つめてきた夜空」で、子どもの小さい頃を思い出しました。ふたりの子どもが小さい時、よく夜空を見ながら散歩しました。楽しい時間でした。大きくなった子どもと久しぶりに見た夜空のことを詩にしてみました。



星の23丁目

(手芸&クラフト同好会発)

第3詩

遠くの空を見つめ 心が旅をする
それはずっと先の未来？
それとも永遠に続く今・・・

阿部 美加子 43歳

第2詩のおかあさんがみつめている地平線を遠い空としました。地球でいう時間の概念は、宇宙では意味の無い事かもと思い書きました。

第4詩

キラキラ光る星座
物語を語っている
夜空からの贈り物
私達はそれを
いつも聞いている

阿部 睦美 12歳

ギリシャ神話を読んで思ったことを書きました。

第5詩

この世の夜空に星は無数にある
その一つ一つが
何かを願っている

高田 諒馬 12歳

この「星の回覧板」の「星」に例えて、地球や宇宙の光には、あらゆる物が平和を望んでいることを伝えたくて書きました。

第6詩

あっ ほら。
オリオンの三つ星が
だれかの心に
降りてきたよ。
静かに 静かに ……

高田 綾子

おお昔 小学生だったころ、私はよく冬の夜空に「オリオン座」を探したものです。

第7詩

みんなの心なにかが好き？
私は、海がだーい好き
でもほんとに、好きなきもちが大好き！

丹野 理英 8歳

みんなの心を、テーマみたくしました。みんな、自分の心をしょうじきにいないから、ここでしょうじきにもういっていいんだと、おしえてあげるためにこのテーマにしてみました。みんなにしょうじきでほしいなと、思います。

第8詩

地球のこちら側で泳ぐ私と
地球のあちら側で泳ぐあなた
離れていてもつながっている
同じ 海を
同じ 思いで…。

丹野 由美 36歳

「海」という言葉をキーワードにして詩をつなげました。夫の事を思って書きました。っていうのはジョークで、友人の事を思って書きました。「海＝人生」「泳ぐ＝人生を生きる」という思いも込めました。

第9詩

みんなの心 と 私の心
つながっている
ほら、また つながった

丹野 英子 10歳

心がつながってほしいと思って書きました。

第10詩

心って なんだろう
心って どこにあるのだろう
心は 目にも見えないし
さわることもできないけど
“あったかいもの”って気がするな

清水 由紀子 38歳

人の心は、本当に様々です。皆が いつでも あたたかい心を持ち続けてほしいと願い、書きました。

第11詩

あったかいもの
こたつ もうふ お母さん
私をしあわせにしてくれるもの

清水 まなか 8歳

私をしあわせにしてくれるものを思いうかべ、書きました。

第12詩

ランドセルの列が 少しずつ離れていく
あふれそうなほどの 希望まで背負って
時折 ふり返り 確かめる
「お母さーん！」
ほら、この場所が あなたのホームタウン

大滝 真紀子 38歳

成長していく子ども達の姿 どんな時でも出発点で待つ母の気持ちを書きました。

第 13 詩

ランドセルの中いっぱいゆめをつめこんで
ばんばんになるまでつめこんで
そーれ！大人の私にとどくかな。

大滝 舞 9 歳

私のゆめは大人になる前になかえいいなと思ってかきました。

第 14 詩

夜空にいっぱいの星の子たち
優しい月に見守られ
安心してあそんでいるよう
月の光にそっと照らされ
そして輝く星の子たち・・・

守田 奈緒美 41 歳

子供をそっと見守る親でありたい。その中でこのびのびと育つ子どもたちそんな想いを込めて書きました。

第 15 詩

私が、夜空の星を、見る。
友だちも、家族も、世界のみんなが見られるんだ。
世界に一つしかない星をね。

守田 ゆうゆ 9 歳

一つの物をみんなが見られるということは、すばらしいなと思ったので、書きました。

第 16 詩

夜空の星を つないでみよう
そこには昔の人の物語が
メッセージがある
読みとくと 平和がくる
世界に一つしかない この星のために

比留間 一成 84 歳

“星座と神話” 一つの時代もそこに夢をたくした。と思いこの詩をつくりました。

第 17 詩

私の物語、あなたの物語
その物語と物語が出会い、繋がって
また、新しい物語が生まれてくる不思議

高橋 かずみ 47 歳

毎日繰り返される様々な出会いにいろいろな刺激を受けて、又、新しい自分の物語が生まれることに感謝して書きました。

第 18 詩

新しい年
家族みんなで 運だめし
「静かに あわてず 感謝して・・・」
変わらない この光景に
まず 感謝する

近藤 陽子・奈津子 35 歳 9 歳

初詣、お約束のおみくじをひきました。それぞれ内容はちがうけど みんな楽しそうでした。いつまでもこんなふうであるといいな、という願いと感謝をこめました。

第 19 詩

かわらないもの
「お帰りなさい」とむかえてくれる お母さんの声。
その声は 温かい。

藤本 奈々 9 歳

「かわらないもの」をさがしていたらお母さんの声を思い出しました。

第 20 詩

顔をのぞきこむ。
笑顔を返してくれる娘。幸せ。
疲れた時 そっと手を差し伸べてくれる 家族。幸せ。
温かい気持ちで 毎日過ごせる。幸せ。
たくさんの 幸せに 囲まれている。 幸せ。

藤本 澄香 35 歳

何でもない日常に幸せはたくさんあふれています。その幸せに気付かず生活している自分がありました。ふと立ち止まって考えてみたら、たくさんの幸せがそこにありました。

第 21 詩

水滴がついた窓をそっと開け
冷たい風に震えと
子の頬は朝日を受け輝いていた。

酒井 佳寿美 42 歳

どんなに寒くて、厳しい朝も子供は希望をたくさんもって、元気で一日をスタートさせている。そんな姿を見送り、親もがんばろうと思う毎日です。

第 22 詩

なんてかわいい頬でしょう
おこっているときも
遊んでいるときも
家ぞくを幸せにさせる
そんな、小さいぼくの妹

佐々木 大志 9 歳

いつもいっしょにいとと幸せになります。ぼくの妹は家ぞくみんなにとって大切なそんざいです。

第23詩

「さっきは、あんなに怒ってごめんね！」
素直な気持ちになりたいから、
今晚も寝顔を見に行こう

伊野 美佳 43歳

風邪をひかない様にと、布団を掛け直すとき、そうっと電気を点けて、子供達の寝顔を見る時間が大好きです。今日の私を許してくれたり、癒してくれたり、明日への元気を貰います。

第24詩

「あ！見つけた。」
楽しみにしていた この日
子供達は目を輝かせて
探していた
夜空に光る“きぼう”を

鎌田 志保 35歳

「きぼうを見ることができる」と楽しみにしている子供の気持ちを、これからも希望をたくさん持ってほしいと願う母の気持ちで書きました。

第3詩

キラキラと輝く太陽
地平線のかなたから
黄金の波になって 海をわたっていく

鎌田 あつ子 60歳

第2詩から「地平線」という言葉と「遠くを見つめている」イメージでつながりました。

第4詩

幾千万のひかりを放つ はるかかなたのほし
いつもどこかで だれかが見ている
きみの、ぼくのとなりにいる 星の友達
ひとりじゃないよ なれないよ
とびたつみんな とびたつ心 夢の宇宙船

武田 洋司 53歳

渡する、旅するイメージを、子どもの心・未来を意識し、継ぎました。

第5詩

次の目的地はどこ？
オアシスで休息しながら
心のプリズムを光にかざす

源関 淳子 49歳

宇宙船が次の目的地へ旅立つイメージです。自分のやりたいこと、やるべきこと、を考えながら 時の流れに逆らいつつ のりつつ 毎日を見つめていけたらと思います。

第6詩

沢山の星
沢山の光
天さやに光る無限の可能性は
子ども達よ
夢は宇宙まで

北原 蘭（北原春子代）15歳

「心のプリズムを光にかざす」より プリズムを通る種々な光の色。子ども達の想いへの眼の輝き、可能性をイメージしました。

第7詩

あの日の自分は何処に行く
年が過ぎるごとに遠ざかる
自分自身の子どもの心

江口 早希子 19歳

子ども会のお世話係をして感じたことです。子どものパワーはすごいです。

第 8 詩

辿り着いた 星の中
彷徨う中で ふと思う
宇宙の心はどこにある？
それが見たくて 知りたくて
闇をもちろりと覗き見た

八木 麻友子 14 歳

宇宙の心を見たい、知りたいと思う子供の関心と、宇宙での旅をイメージしました。

第 9 詩

心が闇に包まれても
トンネルの出口に辿りついたら
夢を宇宙に届けよう。

天田 真菜 14 歳 直希 10 歳

「闇」からトンネルを連想し、自分と宇宙のつながりをイメージしました。

第 10 詩

僕の夢は宇宙宅急便屋さん
彦星から織姫への恋文を届け
時々寄り道をしては
小ぐまと戯れたり ポロンとことを奏でたり
銀河中を駆け巡る

花井 康一 46 歳

第 11 詩

心のポストにコトリと落ちた手紙には
季節を告げる花の名前がひとつだけ
木枯らしに凍える頬をさらしつづくりかえすその名前を

花井 香 45 歳

10 詩から手紙のイメージを受けました。形にならない手紙を、毎日沢山受け取り乍ら生きている様に思います。見逃さぬように心を研ぎ澄まして、しっかり受け取りたいと願いつつ……

第 12 詩

初孫が
万華鏡を覗いてる
ニコニコ微笑む横顔を
見ては「じい、ばあ」恵比寿顔
中はどんな宇宙かな…？

佐々木 富男 60 歳

小さな宇宙から大きな宇宙へとばたいて行って下さい。

第 13 詩

天窓に浮かぶ満月
宇宙の彼方から届く光
照らしているのは家族の笑顔

竹田 浩子 46 歳

「あつ！満月」と叫んだ事はありますか？何だか嬉しくなりますよね。そんな満月の元に集う家族の温かさを表現してみました。

第 14 詩

月夜の空に目を凝らす
ほら あそこにもあるよお母さん
子どもが指さす彼方には 瞬く星が顔を出す
都会の空に来る星は ほんとに僅かな数だけど
一所懸命がんばって 輝き届けているんだね

戸村 祐宇子 50 歳

ぱっと見ただけでは何も見えないような都会の夜空ですが、目を凝らして見ていると、一つ二つと輝く星が見えてきます。増えてゆく星の数が嬉しくて、時を忘れて星探し。子どもとのそんな一時を、忘れないでいたいと思います。子どもたちに、きれいな夜空を残したいと願いつつ……。

第 15 詩

輝き届けられた ささやかな その光は
何万光年もの時を 私の瞳に 運んで来る
そっと胸に受け取り 子ども達に 受け渡す

小林 菊美 47 歳

決して止まらない 命のいとなみ。そんな流れの中にいる 一瞬の私たち。宇宙と星の輝きからイメージしました。1 つ 1 つの命をみんなが尊重していける世の中になりますように。

第 16 詩

星空のかなたから
世界の兄弟たちに
平和と歓喜の歌が届けられる
ベートーベンは何万光年もの先から
「第九交響曲」を演奏していたのだろうか

与川 幸男 68 歳

ベートーベン作曲の第九交響曲は、第四楽章が歓喜の合唱。その合唱に参加して、シラーの作詩が宇宙からの創造主の声に聞こえた。フロイデ！

第 17 詩

傍らにいる引きこもりのこども
かけ違えたボタンを探しているのに
見つかるのは億光年前の星くずばかり

和田口 高志 51 歳

言葉を借りて飛んでみましたが、変な方向にとんでしまったかも。

第 18 詩

赤・青・みどり・黄色・たくさんの星くずの中で
たった1つひかる星 それがあなたです
何の変哲もない 見えたり 消えたり
たくさんの出合と別れのくり返しの中成長して
あなた色になるのでしょうか

松島 育與 55 歳

夜空を見ると、ふと、自分を見つめ直すことがあります。あんな事、こんな事、

ああ～とため息をついたり 無限大の宇宙の中のちっぽけな自分。それはそれでいいのかしら…

第19 詩

みつけた！みつけた！！ 小さな星くず。
どこか遠いところであって、行方不明だったのに、
数年たったら帰ってきた。あ、そ、ぼ！！

坂本 眞由美 56 歳

親しい人に訪れた 思わぬ出来事。家族や友人とささえ合って、時がたつうちに、
また、思わぬ幸せもやってきて…。暗いことばかりじゃない、明るいことばかりじゃない。でも、みんなで生きていると 楽しいな。

第20 詩

星の位置が変わった
月の光、空気のおい…季節が移ったのだ
何億年もくり返す 時の流れに 悲しみも
淋しさも うれしさも 笑いも全て
包まれて 生きている

五十嵐 祐子 53 歳

ちょっと重くなりましたか。梅の香り漂う頃となりましたが、あっ…うれしい、
と思ったり、へこんでいたのがほっとしたり。それどころじゃないやいと感じたり。
しみじみとしている今日この頃なので、こんな詩になりました。

第21 詩

止まらぬ時の流れの中で
私達は日々成長しながら長い旅を歩んでいく
その姿を、その心を、星達は見守ってくれてるかな??

山崎 薫 14 歳

私自身も中学2年生からもうすぐ中学3年生になります。やはり、成長したな
と思うことがあったり、昔はできなかったのに今はできることがたくさんあ
ったり…そんな人間の成長を星達が暖かく見守っているのをイメージして書きま
した。

第22 詩

私の小宇宙から とび出した
5つの星たち
衛星のように まわる彼らを
太陽のように 私は照らし続ける
それぞれの輝きを 放つまで

富山 わか子 43 歳

私の5人の子どもたちへの想いです。

第23 詩

とてつもなく大きな宇宙の闇
どんな命も迷子にならないよう
道案内のあかりを灯したい

平田 洋子 45 歳

「照らす」という言葉に希望を感じてつなぎました。命を育む営みの中に生きて
いることを誇りに思います。そして宇宙も「地球」という星に希望の光を感じ
ているような気がします。

第3 詩

満月の光 とろける光が体に届く
落葉の音しか聞えない秋の夜に
遠い国で この月の光を見ている人の心と通じる

三木 圭子 50 代 (11 / 13 ゴロウ)

第4 詩

待ちこがれた あなたからの文に
「満天の星の下で・・・」とあった
ま・ん・て・ん・の・ほ・し・・・
なんて 心 ときめく言葉でしょう
ずっと今も大好きなあなた

武仲 康子 60 歳 (11 / 16 リンタロウ)

第5 詩

地上の生命の灯が消えたとね
それは天空の生命の灯になるんだ
満天の星は数知れぬ大切な誰かの生命の輝き

武仲 うた 27 歳

第6 詩

野良犬時代 おれも星空を眺めていた
星が希望だ幸せだなど思ったことはなかった
なにしろ腹が減って食うことしか考えていなかったから
いま、おれを拾ってくれた親父さんと暮している
家の上を太陽や星が回ってゆく あ、これが幸せか
天動説があったっていいじゃないか

山田 義範 70 代

飼犬 (柴犬ミックス) 4 歳の駄弁 11/17、08 年

第7 詩

子供の頃 無数にまたたく星空を眺めていた
時々すーっと流れる星もあった 又ひとつ・・・
あのきれいな夜空をもう一度見たい

竹内 しう 81 歳 (11/18 チャッピーのおばあちゃん)

第8 詩

月が浮かび 星もまたたいて
小枝に 柿の実が際立つ 夜半
犬も 細く長い遠吠えを 送ってくる
しばし 宇宙と自然が 身を包む
そして 幼な子のような 夢が訪れる

山田 啓二 後期高齢 (11/19 エアデールテリア「モカ」4 歳)

第 9 詩

夢夢夢 夢の中
愛犬モカにまたがり天空をかけめぐる
あっ、モカが白馬になった

山田 裕子 73 歳（モカのおばあちゃん）

第 10 詩

天空の祭囃子の夜
にぶ色に光る 17 本の竹がしなりだした。
竜笛はその調べにいとまたやすく飛び乗って 夜空を翔け抜ける
きらきらと舞い降りる星の子たち
地上でしちりきがひとつもらさず掬い上げた。

末松 アンリ 50 代（フィンとその他一同の母）

第 11 詩

狭い空にも星が輝き
となりで月も顔を出した
かぐや姫はお元気でしょうか？

秘密のあっこちゃん 52 歳

第 12 詩

あまたの星々の如く存在する中で
「ア・ナ・タ」－ You, 貴方, 貴女, 貴犬, 貴我子, 貴友－は
どうやって私にめぐり逢えたの？
どんなに科学技術が進歩しても解明できないこの不思議…。
運命のア・ナ・タ達…

LUCKY・LUCK・KEIKO 52 歳

私の人生観を変えたワンコを思いながらの高校生以来の自由詩でした……。
ワンコ嫌いな私を 180°変えた運命のワンコは「神の使い」？かもしれません……。。

第 13 詩

X'mas の夜 星になったキミ。
今夜も 広い空でピョンピョン駆け回り キラキラ輝いていますか？
私たちは元気ですよ！ 遠くて近いこの空で 君が見守ってくれてるからね

ビッキーねえね 37 歳（トンちゃん達の母）

第 14 詩

星が出て
水面に写れば
空二つ
漣よれば
流れ星

浅野 克倫 13 歳

第 15 詩

漣が津波に 光が闇に
でも覚えていて 生まれてきた ただそれだけで
みんな誰かの 一番星

奥様は魔女 15000 歳？
（アデル 9 歳&ステラ 7 歳 11/29）

第 16 詩

幼な子が子犬を抱きたいという。
落とさないようにと 落葉の上に正座して 手を差しのべた。
小さな聖母マリアの両手が優しく子犬を包んでいる。
慈愛に満ちた母のように。
きらり、ぴかり星が輝き出した。

スーと大家族の母 50 代

散歩中に出会った 3,4 歳の女の子。小さなふっくりした両手がマリア像のよう
にやさしく犬を抱いていました。子供はやさしいネ！

第 17 詩

月が死んだよ。
ワンワンワンワンと 4 回鳴いて死んでしまったよ。
前足をその小さな胸に引き寄せて、星の涙がこぼれたよ。

月の母 50 代

死を迎える犬の姿は強い意志があるように見えました。

第 18 詩

一番星を待ちわびてワンワンパトロール隊が飛び出した。
角を曲がるとクロ君が遅いじゃないかとしっぽを振っている。
大通りからルドルフも同伴をしたがえてやって来た。
ベビーカーからすると降りて 得意顔。
小さな布ぐつが落ち葉の上で、踊っている。

ワンワンパトロール隊員 50 代

2 歳も参加するパトロール隊の一コマです。多い時で大小の犬 17 匹！

第 19 詩

布ぐつを引き寄せながら 表札を読み上げていく
はるか遠い夢の中、たぐり、放ち、歩き続ける
月よ星よ 小さな背中を照らしておくれ

おじいの娘 50 代

老いていく父の背中はいかにも小さく頼りありません。どうぞ父を見守って下
さいと思いをこめて書きました。

第20詩

もう目を閉じてもいいよ
 沢山見つめてくれたから
 振り返ればいつも　そこで見ていてくれた
 瞳の中の星は眠り　青く静まり返っていく
 もう目を閉じて　いいんだよ

パールの母　50代

木々も枯葉を落とす秋。死とどう向き合うかは、よりよく生きることだと、ふと立ち止まる季節でもあります。

第21詩

目をとじて浮かび出る
 流星群をいつまでも
 眺めていたい乙女心

I & U　(50代)

第22詩

眺めの良い高台に大きなクスの木一本
 邪魔になり伐ることになった
 でも町中の反対で中止されることに
 クスの木はホッとした
 いつも見守っていた星たちもホッとした

松庵の母　50歳

この詩は杉並区での本当の話です。

第23詩

竜野で見つけた、とびっきり大きな星二つ
 京都で泣きながら眺めたお父さん星とお母さん星
 松庵で探した小ちゃな小ちゃな星二つ。次はどんな星だろう。

チャーリー、ロン、ジャン、ママ　60代

第24詩

星は夢を紡ぎ　朝日が昇る時
 その光に包まれ　静かな感動に満たされる
 大きな自然の中の無力
 そして
 小さな幸せを感じる

宇宙に行きたいマメちゃんママ　もうすぐ還暦
 (12/1　マメタロウ)

第3詩

大きなものが　小さく見える
 近くのものが　大きく見える
 ふしぎな魔法

桐山 セリナ　8歳

私といっしょにいるのにひとりきりでいる　が、かわっていたので魔法として書きました。

第4詩

赤ちゃんのころ
 はやく大きくなれと願ったけれど
 8才の娘を見て
 今はゆっくり大きくなってほしいと思うのは
 母のわがママかしら

桐山 真帆子　42歳

いつまでも幼いと思っていた娘が、自立してゆく姿を見て、たのしみもあり、寂しくもありという心情です。

第5詩

おとうさんは　おおきいから　かたぐるまがじょうず。
 おかあさんは　ちいさいから
 かたぐるまが　じょうずじゃないよ。

まつだ しんのすけ　5歳

おかあさんの肩は、ちいさいなあ…と思ったからダヨ。

第6詩

今ぼくは8才。
 赤ちゃんからお父さんになって、
 おじいさんになるまで　いろんなけいけんを
 するだろう。どんなけいけんをして、
 生きていくのだろう。

松田 りゅう太郎　8歳

これから、どんな楽しいことがおきるのかワクワクするから、このしを書きました。

第7詩

PM8:00 に月を見ましよう。
 と約束をした。
 この月を　あなたも今見ているのだろうな…。

松田 裕子　39歳

今では遠くに住みなかなか会えない姉や姪・甥を想って書きました。実際に約束したこともあり、今でも月を見上げます。お正月に久しぶりに会えそうです。楽しみです。

第 8 詩

都会は空気がきたない
夜空に星も見えない
だけどいつかこの夜空に
星という星が見えるように
してみようよ。

篠塚 遥空 12 歳
都会は空気がきたないからいつか星が見えるようにしてみたいと思った。

第 9 詩

自宅への帰宅途中、星団が 2 つ見える
どちらかが昴かな？
もう一群は何だろう…

篠塚 敦夫 50 歳
視力も低下し、星も良く見えない中、なぜか進行方向に星団が 2 つ有り気になっていました。

第 10 詩

さむいさむい
早く帰ろう
黒い空に黄色いまん丸な月
体と心がスーッとのびて
白い光につつまれる。

篠塚 由佳
駅から家までの帰り道、ふと見上げた満月の美しさに魅せられて。

第 11 詩

遠い星空
かがやく星空
きっとあなたも見てるよね

松永 美里 8 歳
遠い国や会えない人もこの星空を見ているという気もちで書きました。

第 12 詩

悲しい時も
辛い時も
見上げれば元気になれる
キラキラ輝くきれいな星空
そんな星空はみんなの応援団

松永 美紀
何処にいてもどんな時でも星空を見上げるといつも優しい気持ちになり元気にしてくれます。そんな思いを書きました。

第 13 詩

上を見て、歩いてて、電柱にぶつかることもあったりするし、
下を見て、歩いてて、お金を拾ったりすることもままある。
この世の中って、何が幸いするか分からないよね。たぶん。

原崎 純二 43 歳
何ごともポジティブにとらえていきたいと思っています。

第 14 詩

幸せという字と
辛いという字は
似ているけれど
全然違う意味だ
両方あるから楽しい毎日

原崎 満里 42 歳
この歳になって“幸せ”と“辛い”という字が似ているという事に気がつきました。

第 15 詩

ねている時は、夢を見る
おきてる時も、夢を見る
どっちの夢も幸せいっぱい

丹野 理英 8 歳
ねている時にいつも夢を見て、おきてるときは、みらいのための夢を見て、はじめて、夢って幸せなんだなあということに気がつきました。なのでこれをかきました。

第 16 詩

私には夢がある (“I have a dream.”)
そう言ったのはキング牧師
地球の中のたった 1 人の小さな思いは
つながりひろがり今日本当になりました。
小さな夢は大きな夢への第一歩。

丹野 由美 36 歳
1/20 黒人初の大統領が生まれたことを記念してこの詩をかきました。子ども達に大きな夢を抱いて成長して欲しいなという私の願いもこめました。

第 17 詩

父や母がいたから私が生まれた。
祖父や祖母がいたから父や母が生まれた。
命って不思議だな。

丹野 英子 10 歳
母から私をとりました。国語のノートに書いてあった文を見て、こんな詩を書いてみたいなあと思ったので書きました。

第 18 詩

ありは生きている。
人間も生きている。
地球だって生きている。
大きisanて関係ない。
みんな大切。

竹本 京子
命を粗末にしている今の世の中、もっと命を大切にしたいと思って…。地球の為にエコも !!

第19 詩

ちぎゅうには いろんなところがある。
いろんなところ いってみたいなー。
だって しらないから。

たけもと たつき 5 歳
色んな国があることがわかってきて、旅行に行きたいとのこと。

第20 詩

きれいな海がある。
きたない海がある。
同じ海なのに…。
海をきれいにしよう。
海はつながっている。

竹本 汐里 9 歳
日本の海はきたない…なのにハワイやおきなわは、なんできれいなんだろうと思ったからです。

第21 詩

うみのかえりに くるまで おそとをみていたら
おつきさまが ついてきた。
どうして ついてくるのかな。

古川 大地 6 歳
かぞくでおでかけしたかえり、さいしょからさいごまで、おつきさまがついてきて、ふしぎだなとおもったことをかきました。

第22 詩

空ってふしぎ いろんな空にかわるから。
はれたりくもったり雨がふったり…いろんな空がある。
今まで、いろんな空を見た。
その中で一ばんきれいな空、わたしはまん月の空…
いろんな空を見つけよう。

古川 夏帆 8 歳
空で気分がかわると思いました。はれた空ではいい気分であそべる。雨の空では外であそべないから、外であそびたい！こんなかんじで、いろいろな気分になれるんじゃないかな。

第23 詩

いろんな空がある
雪の日 雨の日 曇りの日
その奥には いつも 青空がある

桑原 聡美 41 歳
第22 詩の「いろんな空」が頭に残りそのまま引用させていただきました。色々な表情を持っていても、いつもその奥には、澄みわたる青い空がある。人も同じだと思う。また、そんな空の見える地球を、いつまでも大切に守っていかねばいけないという思いで書きました。

第24 詩

私の心はいつも青空
だって私はお母さんだからね。
家族の食卓
楽しいおやつ
続くよ 明日もあさっても

近藤 佐穂 38 歳
生活の中には楽も苦もありますが、努めて心は青空のお母さんでいたいです。

第25 詩

心ってふしぎ
ないたり、わらったり、おこったり
心ってどこにあるんだろう

近藤 宗一郎 8 歳
心は「しんそうにあるのかな」とか、「頭にあるのかな」…じっさいどこにあるのかわかりません。

第26 詩

青い空 青い海を見ると
いつも心がワクワクする
こんなきれいで素敵な風景は
いつまで続くのかな？
答えは宇宙にあるの？それとも人間の心の中にあるの？

近藤 繁宗 40 歳
最近、地球環境、犯罪、戦争、いろんな問題があふれています。子ども達の未来を明るくしてあげたいです。

第27 詩

青空は、どこまでつづいているの？
たこをたかくあげても
まだまだとどかない。

内藤 好汰 6 歳
大きくなったらうちゅうまでいってみたい。

第28 詩

星ってふしぎだな
近くにあるように見えるけど、
すごく遠い場所にある。
星は、夜空にある。
夜空に少しでも雲があると、星は、ぼやけてみえる。

内藤 絢乃 8 歳
この詩は夜空を思いうかべながら、書きました。

第 3 詩

お母さんのおなかの中に、赤ちゃんはひとりている。
やがて生まれて、たくさんの人に出会う。
その中で、なぜかひとりに引きつけられる。

寿円 裕康 49 歳

エコーで見る赤ちゃんは宇宙遊泳をしています。

第 4 詩

ぐるんと大きな シャボン玉。
空にいる時 どんな気持ちなの？
パッと消えるまでの 短い間、
わたし達を どう見ているんだろう。
今日も虹色 キレイだな。

村上 さえこ 11 歳

宇宙の先にはようせいが住んでいます。

第 5 詩

空の色を思いうかべるとわたしはリラックスできる。
青になったり、オレンジになったり。
空の色がわたしは好き。

村上 まほ子 9 歳

空色は幸せになれると思います。

第 6 詩

ひこうき雲。
こうていで見た。
たいようの光をあびて
ギラギラしていた。
のって、パリまで行きたいな。

村上 もえ子 7 歳

いつか、パリのオペラザでバレエをおどりたいです。

第 7 詩

北風に押されてマフラーを巻き直す
駅のホームで待っている
背中にお日さまをうけて、待ってみる

村上 麻里 45 歳

ひなたぼっこしたいですね。

第 8 詩

あなたに会えるのを待っていた
新しい生命の誕生
胸に抱いた時の喜びと感動
お日さまのようにキラキラしている
一生の宝物

堀内 滋子 27 歳

赤ちゃんってカワイイ

第 9 詩

宝石の原石をお腹に 10 ヶ月
大切に大切に温めて
さあ、これから皆でピカピカに磨こう！！

山本 稚子 29 歳

命ってスゴイなあ・・・

第 10 詩

活字の中だけの言葉と思っていた。
「無償の愛」
現実にあることをこの子が教えてくれた
子供ってすごい！！
キラキラ輝く笑顔のあなたが愛しくてたまらない！！

橋本 康子 29 歳

可愛くてしょうがない！ んもお、食べちゃいたい～！！

第 11 詩

空に輝く星のように
家々に灯る無数の明かり
その一つ一つに命があり 愛がある

小澤 蘭美 34 歳

赤ちゃんからたくさんのお愛をもらい それにこたえるべく私たちも愛を注ぎ
また一つ家の明かりが大きく輝きはじめました。

第 12 詩

一つ一つの命の中に
愛が宿っている
私の中にも
あなたの中にも
そしてまた新しい命の中にも

西澤 啓子 38 歳

出産当日にたまたまお産がたてこみ、ずっとそばについて支えてくれた夫にと
ても感謝です。結婚して 1 年あまりですが、夫と結婚してとても良かったと思
います。赤ちゃんはとても可愛いですし、愛しいです。これからは夫と子供と
仲良く暮らしていきたいと思っています。

第13詩

新しい命
みんなを笑顔にしてくれる
命は世界の宝物

橋本 容子 35歳

パパもママもお姉ちゃんも赤ちゃんの誕生を心待ちにしていました。赤ちゃんをかこんでみんなにっこり。新しい命って世界中を幸せにしてくれそう。生まれてきてくれて本当にありがとう！

第14詩

世界の宝物、命を
世界中のみんなが 大切にすれば
キラキラ輝き 広がって
地球はもっともっと
美しい星になるのにな

水口 千晴 30歳

世界平和を願います。生まれてくれたこの子の将来のためにも・・・

第15詩

産まれてきた命を
みんなで大切にしていけば
みんなの笑顔がキラキラ輝く

面川 美歌 30歳

みんな赤ちゃんの誕生を今か今かと心待ちにしています。赤ちゃんが生まれてみんな大喜びしてるよ。これから楽しい事がいっぱい待っているよ！

第16詩

命の尊さを
目の当たりにした衝撃に
心が躍って
夜も眠れず
溢れる未来を夢にみる

佐藤 亜希子 32歳

1つの命が誕生した喜びを胸いっぱいに感じました。これからは家族みんなで笑ったり、怒ったり、泣いたり、喜んだりしていくんですね。楽しみです。

第17詩

眠れぬ夜は
空を見上げて
星に願いを

宮内 志乃 36歳

眠れない夜は流れ星を探して夜空を見上げていました。一つ見つけると同じ所から沢山流れるので、是非チャレンジしてみてください。

第18詩

この宇宙のもとに
あなたがいるのも
私がいるのも
信じられないほど 奇跡的なこと
出会えたことに 涙ボロリ

寺口 七重 31歳

たくさんの命のリレーの中で、「私」が今存在しているのだなあ・・・と思います。この赤ちゃんを胸に抱けたのも沢山の人達の奇跡の延長。感動的なこと。大事に大事にしたいです。

第19詩

あなたが産まれてくるのを楽しみにしていたよ。
うちをえらんで来てくれて
ありがとう♡

清水 楽与 20歳

大切にしていこうと思う。

第20詩

初めて、あなたに会ったとき、
嬉しくて嬉しくて胸がいっぱいになったよ。
小さな手にたくさんの希望を持っているんだね。
小さな足に力をこめて立ち上がる日が来るんだね。
ずっと応援してるからね。

横井 有紀 28歳

2人目でもお産の喜びは格別でした。これからどんな大人になるんだろう、どんな出来事があるんだろうととても楽しみにしています。

第21詩

やわらかな光を放つ星ひとつ
この胸に今
舞い降りた夜

鈴木 礼子 36歳

神秘的な瞬間を体感できたことに感謝致します。ひとりひとりの輝きから生まれる新しい光を出産を通じあらためて感じました。

第22詩

手放した星、舞い降りて手に入れた星、
ひと月のあいだにそんな両極端な体験をした。
「次に産まれてくる時もうちのコとして戻っておいでね」
姿は違えど願いは叶ったと思い涙した
2008年大晦日

木下 里絵 36歳

飼っていた動物を亡くし深い悲しみから出られず、新しく産まれた我が子への愛情が混沌としていた中、それでもやっぱり子供は幸せな気持ちをあたえてくれる凄いパワーを持っているなあと改めて気づきました。世の中の子供たちが幸せに笑っていられるような世の中であって欲しいと願います。

第 23 詩

私があなたを見つめる
あなたが私を見つめる
二人の間に宇宙が広がる

太田 美絵 29 歳

産まれたばかりの我が子。言葉はなくても通じ合うことができる。"愛おしい"
という言葉はこの子の為にあるのだと実感!! 前詩の星から、宇宙という言葉
につないでみました。これからの私たちの未来を想像して作りました。

第 24 詩

長い長い時間をかけて
ゆっくりゆっくり大きくなって
小さな小さな花が咲く
無限に広がる
宇宙のすみっこ

神宮 里香 38 歳

妊娠、出産、そしてこれからの育児は私の人生、価値観を大きく変え、私も成
長させてくれると思います。

第 25 詩

大きな宇宙という包みの中に
小さな地球という星ひとつ
みどりの森と青い海
新たな命へ続いてく
2009 年 1 月 17 日

山本 聖子 33 歳

出産は私にとって想像を超える体験でした。これから育児という第 3 の人生ス
テージが待っていますがあの体験をしたのならきっと大丈夫だと思います。元
気に出て来た小さな命にありがとう。そしてすべての母を尊敬。女性ってすご
いですね。

第 26 詩

森を歩いてみると、黄金色に輝く丘が見えた
近づいてみると、麦の細かい白い花が光っていた
これから何本の穂が天にむかって伸びてゆくのだろう

桑原 正和・妙恵 41・38 歳

私達に誕生した子の名前の中の一文字"穂"に思いを込めました。大きさの問
題ではなく、"穂"はしっかりと根を張る芯の強い姿を表しています。

第 27 詩

麦の穂の一粒一粒が
一つ一つの命の光
新しい命を育み続ける

木村 裕一・裕子 32・35 歳

わが家の 2 人の子供達の未来が明るく輝き続けてくれますように。

第 28 詩

こんにちは
新しい命の光
今から色々な旅をしていくよ
どんな時でも
ずっと輝き続けるよ

塩田 めぐみ 29 歳

赤ちゃんが誕生する喜びはとてうれしいことです。これからの未来が楽しみ
です☆

第 29 詩

新しい旅のはじまり
沢山の星々が
貴方の幸福を願っているよ。

安藤 昌宏・美由紀 32・32 歳

我が子の未来が幸せでありますように

第 30 詩

幸福を感じるとき。
美味しいごはん、
やさしい笑顔、
家族のだんらん、
あなたが産まれた。

櫻井 けい 31 歳

どんな時でも幸せなんだ! と思える気持ちを忘れたくないなあーと思いました。



星の28丁目 (松寿司発)

第3詩

すなおな心でものを見る
しなやかに考える
やがて思いが満つる

青木 伸郎 57歳

第4詩

すなおに思う 宇宙に生まれ地球という星に生まれ
おいしいお寿司がある 日本に生まれて よかった
海を泳ぐ魚たちが 澄んだ瞳で見つめる
君たちの 命のエネルギーが今 のどを通して
私の身体の一部になっていく

コネリーネム 49歳
おいしいお寿司をいつもありがとうございます。

第5詩

なぜかしら エジプトにはあんなに
星があったのに。なぜかしら東京には
星が見えないね。

清水 淳子

第6詩

スフィンクスは見ていた
足を引きずり 巨大な石を運び 星の涙を流す奴隷達を
死者の魂が住まう都 ウジャト神に守られ
黄金のマスクの下に隠されたドラマを
壁に刻まれた絵が 静かに物語る

源関 淳子 49歳
エジプトに一度行ってみたいです。

第7詩

寒い冬の夜空
輝く星
星もがんばっている

川邊 昭平

第8詩

とにかく頑張る
とりあえず頑張る
おてんとう様は見ている

絃 一郎

星の29丁目 (12/13 地域発)

第3詩

初めて見たはずの なつかしいもの
身近なもの 感情豊かなもの
それは 空にかくれた 宙

三浦 風太 12歳

第4詩

ハンドルを握る手は かじかんで
耳の痛さと 夜の匂いがなつかしい
中学・部活の帰り道、高校・塾の帰り道
家で待つ人がいた 「子供の私」
子を迎える為に家路を急ぐ 「母の私」

三浦 寛子 49歳
子供の帰宅に間に合うように、急いで家へ自転車を走らせている時、体の記憶がよみがえります。故郷・山梨の寒い冬。夜の匂い。星のきらめき…。

第5詩

朝 走るときは 鼻を刺すようで、
雨が降りそうときは重く
鋼のまわりは あたたかい。いろいろな空気の中で生きている。

郷坪 洋子 49歳
空気にも匂いがあることを書きたかったのですが、どうかな。

第6詩

きのう 君が流した涙は
けさ 虹となって空へ昇り
あす 雪となってアムステルダムに積るだろう
この夏 スリランカで摘まれた最初の茶葉で
雪溶け水を真紅に染めるのはあなた

詠み人知らず 50歳
郷坪さんの「空気」から、水の循環と、色の変化をイメージできました。アール・グレイホットを楽しみながら次へとつないで頂ければ幸いです。

第7詩

沸騰したゆらぎの中を 上下する茶葉は
黄金の陽射しの恩恵を 醸し出し
今 わたしの生命^{いのち}となっていく

源関 淳子 49歳
熱いポットの中でジャンピングする紅茶の葉を見るのが好きです。ゆったりとしておいしい紅茶を飲むと、紅茶の力が身体のすみずみまで浸透して、私自身が生き生きするような気がします。

第 8 詩

湧き上がり 巡り巡る 対流となって
気力と感情の勢いが うねる
ハートの満ち引きは血の循環に乗って…
なあんだ、地球のマグマやプレートと一緒にじゃん
腕の中の味噌汁の模様がにっこり微笑む

西嶋 純一 50 歳

前詩の対流のイメージと生命の示唆を受けて、巡って力となる森羅万象の動きを 大自然やミクロな分子までを視野に入れて描きました。すべてを包んでいる大いなる優しい力を感じて頂けたら幸甚です。

第 9 詩

海の中から こんにちは
みそ汁の中から こんにちは
口開けっぱなしでこんにちは はまぐりさん

源関 遥 11 歳

お腹がすいている時に書いたのでみそ汁の具が頭に浮かんで来たので書きました。

第 10 詩

荒波の雄叫び狂う号音に
身体が縮んだオアフの海
高波に乗るサーファー達
あっ！ いた！ あの人！
青空見上げる地平線

田中 陽子 62 歳

“海”から、今年訪れたハワイの海を思い出しました。高波が去った後に広がる地平線と青空に感激しました。

第 11 詩

青空のたなびく雲に誘われし
よろこび勇み夫は今
はるか彼方の宇宙住人

野田 澄子 86 歳

亡き夫は航空に関する仕事をしておりましたので いつも青空を眺めジェット機の流れる雲や音が好きでした。若田宇宙飛行士の応援にもアメリカまで参りました。

第 12 詩

青々と茂る緑の匂い
それは私を末端から透明にする
上を向いたら蒼と白
あたしにはまぶしすぎた
そろそろ、夏が来るのだ

相原 奈菜 15 歳

本格的な夏とはまた違う、初夏の空気を題材にしてみました。「青」と「白」からインスピレーション(?)を頂きました。すーん、とするあの気持ちを、感じとって頂ければ幸いです。

第 13 詩

考え中…
白い紙と
にらめっこ

相原 留衣 22 歳

考えても考えても良い文章が思い浮かびませんでした。そんな自分を詩(俳句?)にしました。

第 14 詩

にらめっこ いないいないばあ〜
振り返ったら 何百回 何千回
10 コの瞳 キラキラ星
世界へ 宇宙へ 飛んでいけ
感謝と喜びのエネギー

相原 紀子 51 歳

私には 5 人の娘がいます。平穏な生活に感謝する日々です。

第 15 詩

エネギー
たくさん使って
脂肪燃焼

相原 莉絵 23 歳

現在ダイエット中。目標体重をクリアできるよう頑張っています。

第 16 詩

インフルエンザの真っ只中
何度も味わう挫折感
本番と練習のエネギーの違いに
思いを馳せる 宮本先輩の音の輝き
いつかは師匠のもとへ

相原 真衣 20 歳

今インフルエンザにかかってしまっています。…そんな中、トランペットを専攻に必死にがんばっています。目標を持って、つき進めていきたいと思っています。常に師匠の元へ行けるように願うそして努力して行くことを夢見て…。

第 17 詩

憧れに向かって 真っすぐ突き進む
湧き出るエネギー
君が眩しい

出田 直子 45 歳

姪が入試の真最中で頑張っています。目標や憧れに向かい努力する若い人は、素晴らしいエネギーを持っていると思います。私も何かに向かっていくエネギーを持ちたいものとの希望も込めて。

第18詩

伝送エラーが原因でシステム障害が発生した時に
そのメカニズムの説明のためには
数学や電磁気学の知識とともに
湧き出る想像力も必要ですが
なかなかズバリといかないものです

関 清隆 49 歳

理屈通りにならない事が多いですが、それにしても理屈を知らなければ入口に
すらたどり着けません。

第19詩

窓を開けて望遠鏡で星空をながめ
想像しながら会話する
遠くて近い未来への道

水口 典子 52 歳

星がよく見える夜、親子で会話しながら過ごしたことを思い出して書きました。

第20詩

あんなに たくさんの 夜空の星が
昼の空には ひとつもみえない
大切なものは
光の中にかくれてしまう
でも、そこにある

田中 千恵美 50 歳

冬の山で見た満天の星が、ここ東京の夜空には見えません。本当はあんなにた
くさんの星があるのに。

第21詩

昼下がりの太陽光で
ポッカポカ
気付いたときには夢の中

田中 茉莉絵 16 歳

前の詩の「光」から太陽を思いつきました。休日のお昼寝は気持ち良いですが、
学生は午後の授業で睡魔とたたかっています。

第22詩

ポッカポカ St. バレンタインデいの昼下がり
サロンコンサートで 出番を待つ友の笑顔
観客の私を なごませる
心弾むステージに
ありがとう!! 素敵な一日を

宮内 敦子 53 歳

この季節に珍しく 20 度を超える陽気、と心がポッカポカから、出番前の彼女の
の余裕に感心するや憧れるやら…気負いのなさ、純粋さ、心から音を楽しむそ
の姿に、感銘した一日でした。

第23詩

夕暮もかまわずに外へ出る
幼の目は一番星と同じように
きらきら輝く

本澤 満子 74 歳

1才4ヶ月になる幼は歩き始めて2ヵ月。外へ出て自由に歩きたがる。ころん
でも、やっと立ちあがっては歩き出す。

第24詩

部活から帰るやいなや
ランニングに素ぶり
冬の凍てつく空のもと
息子の額に光る汗
明日は一番星になれるかな

都筑 あつ子 50 代

去年からケガに泣かされています。やっとなおしても又ケガ…。どん底からま
たやり直します。

第25詩

白い大地に芽ぶき
透き通った青空の下 繋いだ心
共に語り笑い合った日々は 雪月花のよう

キナシの子 20 歳

2月に2週間ほど北海道へボランティアキャンプに行きました。雪で覆われた
大地に澄み切った空がとてもきれいでした。初めて出会う友達と料理をしたり
腹を割って話し笑うという日々はあっという間に過ぎてしまいましたが一生の
宝物です。



第3詩

宇宙のこっちがわのはじっこから
あっちがわの はじっこぐらいまで
ママが大すき。

ひらしま あおい 6歳

第4詩

続けることが大事、と八十五歳の絵かきさんは言った。
若い頃から社会運動に没頭している母親。
山の上にある家から下の道路まで いつも自転車を猛スピードで走らせながら降りてゆく。
家では少々わがままでも、外では驚くほど人に優しく親切。かなわない。
今日も母は猛スピードで自転車を走らせるだろう。

平嶋 盟子

第5詩

どんどん道をすすんで行くと
海につづく。山につづく。空につづく。
道の先には 何があるんだろう

宇佐美 希和 10歳

第6詩

すすんだ すすんだ
いつのまにか宇宙にきてた
星はびかびか車もてかてか
このまま星に行きたい
やっぱりすすむ すすむ

遠藤 佑一郎 12歳

第7詩

道を歩いた
すいぶんと歩いた
このおくに何があるのだろう

遠藤 啓太郎 9歳

第8詩

あこのろ僕の宇宙はどこまでも果てしなかった
屋根の向こうの送電鉄塔の連なる先さえ知らず
頬をなでる冷たい風がただひとつの道しるべだった
いつの間に風は止み世界は小さくなったけど
今でも僕は無限を求めて歩いてる

遠藤 修介 44歳

第9詩

風が私のほおをなでて、高い枝の間をすりとぬけて行った。
ああ。この風にはいつか会ったことがある。
なつかしくて、少し切なくて、昔とても大切だったことを思い出せそうな気分。

遠藤 直子 40代

第10詩

おととい新宿でみたアラビアのロレンスは、
駱駝にまたがって白いきれを風になびかせて
「運命などない」と言った。
変えなければいけない未来など
私には ないような あるような

町 理子 38歳

第11詩

白いきれ。一人忘れられた白いきれ。
みんなでいるのも楽しいけれど、一人も楽しい。
白いきれはくすん、くすんと泣いているのかな？

町 初音 10歳

第12詩

吉田の兼好法師は、ただひとりあるのみこそよけれ、と。
今の孤独とは何がちがうのだろう。
今は、ケータイとペットボトルとマイカー。
昔は、結び文と井戸の水と牛車。
ちがうところとおなじところ、ちがうところがおなじところ。

町 泉寿郎 39歳

第13詩

ウルトラのほしはどんどこ。
1966ねんにとうじょうしたウルトラマン
いまどこでなにをしているのだろう。

まち すなお 6歳

第14詩

わたしは紅茶がすき。あまい香りの紅茶がすき。
バニラティー、ストロベリーティー、キャラメルティー。
ミルクをいれたりレモンをいれたりする。
おちついてほっとする。勉強もがんばれる。
ウルトラマンもうちゅうでほっとしているだろうか。

町 秋津 9歳

第 15 詩

見えない。聞こえない。触れない。
そんなお前は一体誰だ？
そんなことを考えているオレこそ一体誰だ？

鈴木 正徳

第 16 詩

みんなでだかし屋へ行く
こわい犬からにげ、急流の川をわたり、がんばった。
みんなはあきらめずに最後まで走った。
そして、とうとうたどりついた。
しかし、だかし屋はしまっていた。

鈴木 拓郎 10 歳

第 17 詩

みんなで集まってワイワイと騒ぐのは楽しい時間
そんな時は自分を忘れている
帰宅してひとりになったら自分が私におしよせてきた

鈴木 美津江 40 代

第 18 詩

自分が一番大事ってずっと思ってた。
笑ってる自分、食べている自分、仕事をしている自分…。
でもはっきりしていた自分の輪郭が、だんだんにじみ出して来た。
他人もだんだんにじみ出て、私の中に入ってくる。
境界線の無い、そんな状態が気持ちのいい今。

國分 朗子 41 歳

第 19 詩

ともだちってなんだろう。
いくら泣いてもケンカしても
ぜっこうすることだけはできないんだ。

国分 文音 8 歳

第 20 詩

珠のようなきらきらの
涙、ひとつ、ぼたり。
実体のない寂寞が瞼にはりつく朔の夜。
それでも地球は回り、まわり、
やがて頭上に淡い、ひかり。

神谷 かほり 29 歳

第 21 詩

きらきらびかびかおほしさま
きれいだなこんべいとうみたい
ちょっとひとつたべてみたい

かみや みひろ 5 歳

第 22 詩

星は今の光をみせていない、昔の光をみせている
もし、今、星がなくなってしまうても
昔の光を見せているからわからない
そしてだれかが気付く
「あれ？星がない！！！」

柴田 夏実 10 歳

第 23 詩

太陽がのぼってきた
いつも、やさしい光で見守ってくれる
だから毎日、元気になれる

野中 梨沙 10 歳

第 24 詩

なかよしなともだち
いつもいっしょに
げん気にあそぶ
きょうもまた
お日さまがしずんじやった！

のなか かおり 7 歳

第 25 詩

お日さまとバトンタッチ 今夜、私が必要な人はだあれ？
キラキラ輝いてあなたを照らしてあげましょう。
明日元気になりますように。さあ、ゆっくりお休み。私が見ていてあげる。

あさこなつつ

みんなが毎日 happy でありますように。誰かがいつだってあなたを見ているよ。
がんばって。

第 26 詩

キミの心キラキラにするもの
恐竜の骨、光る石ころ、万華鏡
昆虫の森、秘密基地、ハンモックとイチゴのソフト
勇者の物語、描きかけの宝の地図、流れ星…
キミのキラキラアンテナの指す方へまっすぐ進め！

吉本 千絵 40 代

自分の心をわくわくさせてくれるものを思い出して大切にしていきたい。わくわくするものはみんな違うはず…

第27詩

あっ！ながれ星だ
おねがいごとをしよう
おかしの星ができますように

よしい ゆうと 8歳

第28詩

キラーンと光る星は
地球では少ししか見えないのに
宇宙ではかぎりなく見える
遠い星から見る地球
いったい何色に見えるのだろう

吉井 洸貴 10歳

第29詩

宇宙にいる宇宙人
いるんだったら会ってみたい
会えるんだったら行ってみたい

正富 健 8歳

第30詩

あなたは今どこでなにをしていますか
懐かしい皆に会えましたか
お父さんを話をしていますか
今あなたに会う事が出来たら聞いてみたい
「幸せでしたか」 天国のお母さん

松本 トモエ

第3詩

おかあさんが ひとりでケーキを食べたので
おんなのこは 腹立ちまぎれに
お風呂の中で おしっこをした

左近允 伸

第4詩

遠い遠い地平線のむこうに
海が見えるよ。
チャップン、チャップンお風呂の海だよ。
お父さんが楽しそうに笑って
私も楽しくなって笑っちゃった。

左近允 靖代

第5詩

まんまるお目目に まんまるおなか、今はこうだけど
来年 今頃 どんなかな、
おえかき少しはうまいかな

左近允 純一

第6詩

あなたの瞳は何も映さないから
見たものの1/2も 伝えることはできないけれど
一緒にいると喜びは ×2になる。
家族みんなでいると ×4になる。
とっても小さな出来事も、とっても大きな笑いになる。

渡井 真奈 30代

私の夫は全盲・難聴の「盲ろう者」です。静かな部屋でなら音声で会話できますが、少し離れてしまうと話が通じない。コミュニケーションの難しさを感じます。そんな夫と、日常たわいのない出来事に大笑いできること、息子と娘と4人で過ごせる、笑い合える日を嬉しく思っています。ずっと家族みんなが幸せでいられますように…

第7詩

一緒にいると 嬉しくてたまらない
今日はクリスマスパーティー
皆、皆、笑顔で来てくれた

三宅 玲美 Remi 20代

今日は我が家のクリスマスパーティー。おなじみのメンバー、新規のメンバー、皆来てくれました。いつも余計なことを考えているけれど、今日は心から嬉しくて幸せ。周りの優しい素敵な人達に感謝！



第 8 詩

クリスマス・イブの鐘の音を聴いている時、
お腹でぷちんと泡が弾ける様な感じがした。
初めての胎動。
赤ちゃんもクリスマスを楽しんでいるのだった。
「来年は、一緒にツリーを飾ろうね」

勝間田 あや 30 代
今年第二子を 25W800 g で出産しました。NICU のお世話になりましたがすく
すく成長しています。

第 9 詩

おなかの赤ちゃんは 0.1 ミリの薄皮にかろうじて護られ生きている。
その 60 兆の細胞ひとつひとつも 儚い膜に覆われているという。
私を 私の家族を 私の宇宙を 包み込む何かは あるのだろうか？

勝間田 智之 36 歳
今年、予定日より 4 ヶ月も早く長女が誕生しました。頼りない 1 枚の「膜」の
中で、なんとか生きているのが胎児であると実感。と同時に高校時代になった、
細胞膜のはたらきを想起させられました。(冗長かつ抽象的でゴメンナサイ)

第 10 詩

骨ばって しわくちゃだけど
頑固で 寂しがりやだけど
可愛いと思った
お母さん
今度は私が包んであげる

森下 摩利 34 歳
母はいつまでも母でいてほしいのに、病床の母は ますます頑固に我がまにな
っていきました。そのため よくケンカをしました。病気が進行すると、不
思議なことに母の瞳は少女のように澄んできました。本当は娘にいっぱい甘え
たかったのかなと思い、ぎゅっと母を抱きしめました。なんだ、こんなこと、いっ
ぱいしてあげればよかった…。でもそれは叶いませんでした。

第 11 詩

我が子の 素直なところが とても可愛い
遊んであげると 「パパが 大好き！」と言う。
怒ると 「パパなんて 大キライ！！」と言う。

渡井 秀匡 32 歳
※夫は全く見えないので、妻が代筆しました。

第 12 詩

ぼくらは みんな 大すぎ
ともだちに なれるから 大すぎ
だれかと あそぶと ともだちになれる
ぼくらは みんな
大すぎになれる

わたい ひろと 7 歳

第 13 詩

大好きなあなたの笑顔が 私の栄養
大好きなのに傷つけた 私の心も傷ついた
いつもいっしょ いつもまでもいっしょ これからも

高山 ゆりや 42 歳
家族の絆を大切にしたいと思います。“笑顔”でもっともっと太く強い絆を 力
を合わせて作っていきたいと思います。

第 14 詩

「おはよう。お母さん。」と 言う
いつもお母さんは、「おはよう。まさと。」と
笑顔で返してくれる。でも ねぼうをすると
「おそよう まさと。」と笑って返してくれる。
するとぼくは、「明日は早く起きてやる。」と言う気になる。

浦野 誠人 9 歳

第 15 詩

明日はいつも やって来る
僕にも君にも誰にでも
希望に満ちて やって来る

浦野 浩司 47 歳
この詩を書いた今日も、テレビや新聞では戦争のニュースが流れています。世
界中の誰にでも、どこでも、必ずやって来る「明日」が希望に満ちたもので
ある事を祈っています。

第 16 詩

白い息を はきながら ベランダへ出た
眠い目を こすりながら宇宙を見上げた
一瞬で体中の細胞が目覚め 歓声をあげる
キラキラと光り輝く その銀色に みんなで大きく手を振った
未来をつくる きぼうが 3つの心を つないでくれた

浦野 寿江 43 歳
幼い頃 病気で母親を亡くした男の子は、“新しいお母さんがほしい”と願いつ
つ、その思いの強さが いくつもの不思議な偶然を生み、私達 3 人の縁を結ん
でくれました。その新たな人生の記念にと、御縁のあったこの宇宙連詩に、家
族で参加させて頂きました。幸せを願う夢や希望によって、人と人との心がつ
ながり、優しさや思いやりに溢れる大きな輪（和）になっていく事を、心から祈っ
ております。

第 17 詩

白い月が見えた
白い風が身を切った
白い息が視線の先に溢れた

鈴木 玲二 37 歳

第 18 詩

ヘリコプターが地上を観察し
飛行機雲が青空に地平線を描いた
48 億の発光する事の無い光を見る者は誰か？
叫び声を一瞬に掻き消す爆音に耳を傾ける者は誰か？
掌に浮かぶ汗の向こうに絶望の夜明けを今日も夢見る

鈴木 清道 75 歳

第 19 詩

お日さまが夜が明けたと顔を出した。
おはようの声がつぎつぎ聞こえる。
こんな毎日が幸せなんだなあ。

宮崎 重行・光美 71 歳 61 歳

なんでもない日常が続いていくことがどんなに幸せなことか。でも沈んだお日
さまは必ず明日には朝を知らせてくれます。皆でガンバルゾ！！

第 20 詩

大きな声で笑う。
妻も大きな声で笑う。
子どもも大きな声で笑う。
みんなで笑うと家族が明るくなる。
明るく、楽しく、元気よく

小芦 泰樹 34 歳

地球のみんなが明るく、楽しく、元気良く きぼうをもって、生きることがで
きれば良いと思います。

第 21 詩

いつも明るく楽しく…なんてムリかもしれない。でも
そんな時、心の中で自分の「きもち」をかきたてよう。
きっと、自分の気持ちも楽しくなるはずだよ。

小芦 安季子 35 歳

(松庵小野球部の連詩にもかきました。) 自分の気持ちにムラがあることを知っ
ています。でも、それにあわせて、気持ちを明るく きもちを調整していくの
が大切だと思います。

第 22 詩

みんなで声をはっきり出すと、みんなも、いっせいに
明るくなる。それだから力いっぱい元気
よくはっきり声を出してみんな明るくするのが、
たいせつだ。もっともっと声を出そう。それで地球
のみんなでちゃんと大きくはっきり声をだそう。

小芦 泰輔 7 歳

大きい声を出しているけど もっともっと声を出すのがたいせつだと思います。
でももっとがんばりましょう。

第 23 詩

みんなおなじちぎゅうのなかま
だからみんなとなかよくするんだ
どこにいてもともだちなんだ

西山 史織 7 歳

みんなとともだちに、なれるようにかいた。

第 24 詩

ともだちはすごいね
笑わせたり 泣かせたり
勇気をくれたりもする
ずっと ずっと これからも
あなたは大切な 私の ともだち

松本 達子 35 歳

ひとりひとりが こういう気持ちであればいいなあ。世の中のいやなことが少
しでも減るといいなあ。

第 25 詩

夫君の看病に毎日通う友がいる
限りある命の窓に
東京タワーの光、星の光、月の光

森重 みどり 52 歳

1 年足らずの闘病でご主人を亡くした彼女は一周忌を終えた今も病室から見
ていた東京タワーの光を見ることができない。病院に通っていた時を思い出
してつらいからと言う。いつもわくわくしながら東京タワーをみている私は彼女
の言葉にショックをうけた。ひとつの景色でも人それぞれに思いがあるのだと
いうことに気がつかされた。星の光、月の光も世界中の人が喜び、悲しみを持っ
て見ているのだ。

第 26 詩

星空のように キラキラと
月光のように清らかに、太陽のように明るく
天空のように のびやかに
そんな人生を生きたいな！
でも、自分らしく！！

川元 峰子

山あり谷ありの人生、楽しいこと苦しいことがいっぱいあるけれど、自分らしく、
私らしく「負けない心」を持ってこれからも生きていきます♡

第 27 詩

生きるってね、楽しいことも嬉しいことも沢山あるんだよ。
でもね、生きるって、つらいことも苦しいことも、いっぱいあるんだ。
それを乗り越えた時本当の幸せをつかむんだよ。

堀本 花恵 12 歳

つらいこと、苦しいことがあるから、楽しいことや嬉しいことを感じる事が
出来るのだと思います。皆、色々なことを経験して、それぞれの幸せをつかん
で行きたいと思います。誰だって先が見えないから、不安なことは山ほどあり
ます。でも、その不安も、いつか持たなくていい日が、きっと来るからっ！！
自分を信じて、未来を信じて、歩き続けたいです！！この思い、誰かに届く
といいなあ。

第28詩

生きるには、他の命をぎせいに
しなければならない。
今のは、それをわからない。
昔のは、それをよくわかって、
命を大切に生きていた。

ヨネカワ ノノコ
米川 乃の子 12歳

今のは自分で自分の命をたつ人が多いケド、命はたった1つしかない。テレビでも、『自殺』の事件が多く見られます。この詞をだれかによんでもらい、少しでも命を大事に思う人が増えるようにと思います。

第29詩

太陽の命は100億年。地球の年齢50億才。
ぼくの年齢42才。いろいろな時の中で、今ここに。
夜空を見上げ。明日の力に。

米川 崇士 42歳

人類がアフリカの地を出てきてから200万年。70億人にせまる人間は、ついに宇宙に活動の場を広げてきました。色々な偶然が重なって、今ここにいる私達は宇宙に比べればとても短い一生の中で、一人一人が、一生懸命に生きていてほしいと思います。

第3詩

遥か彼方から聞こえてくる懐かしい声
真っ直に見つめる母の優しい眼差し
また私の体に力がしっかりと甦ってきた

中村 貴仁 41歳

“お母さん”“地平線”“遠くに”という言葉から私達を包んでくれるかのように守ってくれる大きく、温かいイメージを連想しました。

第4詩

1、2の3 地面を思いっきり けとばして
両手をギュッと のぼしたら
くると 体を 一回転
できたよ できたよ 前まわり
お空も くると 回ったね

中村 聡美

今、鉄棒に夢中になっている子ども（4才）のつぶやきをつなげてみました。

第5詩

あなたと私、いつも一緒
あなたがわらうと私もわらう
キラキラ輝く瞳、いつも、いつまでも…

橋本 悦子

大好きなお友達と一緒にいる時の娘の瞳を見て至福の時を共有する母の思いを綴りました。

第6詩

のぼりぼうをのぼっていたら、
わたしの上にくもがあったよ。
おもいきってじゃんぷしたら、
くものって、もっともっとじゃんぷしたら、
うちゅうまでとどいたよ。

橋本 芽依 7歳

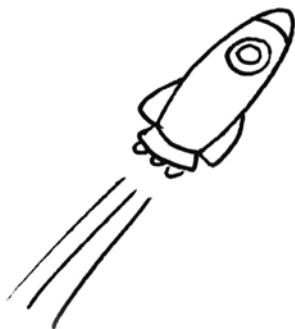
学校でともだちとのぼりぼうをしてあそんでいるときにおもったことをかきました。

第7詩

両手をひろげて未来へジャンプ
少しずつ 少しずつ遠ざかる
希望に満ちた子どもたち

戸坂 久美子

日々成長している子どもを嬉しく思い、陰で見守る親の心情…。



第 8 詩

サッカーをやってキックをしたら
うちゅうまでボールがとんだ
せかいのすごいせんしゅよりも
つよくなったよ
いちばんつよくなったんだよ

戸坂 隼人 7 歳

れんしゅうで キックをして はやいボールがけれて そのことをおもいだしてか
きました。

第 9 詩

地球って本当は、どんな所だろう。
大空から見てみたい。
本当に青いのかな？

甲斐 みどり 8 歳

テレビのニュースで見た事を思いだして書いてみました。

第 10 詩

地球の自慢は、空が青いことと、音楽があること。
宇宙人に会ったら、音楽と数字で話したい。
気球と一緒に乗って、ラベルのボレロを BGM に、
虹と雪とオーロラと、アラスカの春を見せてあげたら、
永遠に続く円周率のなぞを教えてもらおう。

池水 雅子

前の詩の「青い」を引き継ぎました。音楽と数字は not only 世界、but 宇宙。

第 11 詩

昔、ヨーロッパで、神の世界を知るための学問。
それは、幾何学・数論・天文学・音楽だった。
やっぱり、宇宙と神って似てるのかも。

池水 遥 13 歳

「音楽」と「数字 (論)」を受け継ぎました。ちょっと母の詩と似た様な感じになっ
てしまいました…。音楽以外の 3 つは宇宙に関係してるなーって思うけど、…
音楽？聖歌とかどちらかというと神 (キリスト) に近い！と思いました。

第 12 詩

あなたの笑顔も
私の涙も
野に咲く花や 空を舞う鳥も
すべては 世界中にちりばめられた
たくさんの奇跡

佐藤 貴子

今ここにいられること、全てのものに感謝。

第 13 詩

この広い宇宙の下
あなたに会う
なんて小さな確率

佐藤 慎哉

偶然？いや必然！

第 14 詩

たくさんの出会い
そのすべてが意味を持ち
僕の力になるのなら
これからも歩いていける
1 人じゃないから

佐藤 瑛哲 14 歳

たくさんの人の支えがあるからこうしていられる自分 前に進める自分

第 15 詩

一人だと 不安なことも
子どもたちと 一緒なら 楽しみにかわる
そんな不思議な力は どこからわいてくるのだろう

岩泉 則子 44 歳

日々の子育ての中で 子どもに育てられている自分を垣間みる。

第 16 詩

わたしもあなたもだれもがみんな
一人なんかじゃ生きられない
ほら、「人」という漢字から分かるでしょ
支え合って生きている
わたしもあなたもだれもがみんな

三井 裕美子 16 歳

「人」という字は二人の人が支え合っている形をしています。人は一人では何も
出来ないと思います。支え合っているからこそ、人間なのです。

第 17 詩

みんなは地球に生きている
本当に、本当に小さな確率で生まれてきたんだ
地球に生きるだれもが小さな奇跡に出会った幸せものだ

三井 瑛里香 10 歳

私たちが生きているのは、あたりまえのようだけれども、本当は奇跡がおきた
ことなのだと思うことがよくあります。そんな思いをこの詩に書きました。

第 18 詩

命は一つの奇跡だから、自然を愛する心が大切
でも、小さな虫にぎゃあぎゃあ言っている
地球の未来のため、環境保護・ECOの重要性が言われている
でも、利益優先の便利な生活はなかなか変えられない
一番大事なものが何だろう？

三井 美智子

人類の未来のために今の私たちがしなくてはならないことは、頭ではわかっていても、実行に移すことのむずかしさを日頃から感じています。便利な消費生活を捨てられません。これからを生きる子供たちから、教わっていくことになるのかもしれない。

第 19 詩

今、この地球上に生きている 1 人 1 人が奇跡
誰もが限りある命を精一杯生きてゆけるように
互いに赦し合い、助け合い、愛し合うことが大事ではないかしら？

藤田 有紀

環境破壊、戦争…元はと云えば人間の利己心から発したものだ。次世代の子ども達が安心して暮らせる地域環境を残してゆくためにも、私達大人は謙虚な心で、人に、自然に相対してゆく事が大事なかなと思います。

第 20 詩

私は、犬を飼っている
でも犬だっていつかは死ぬんだ。
私たちだっていつかは死ぬんだ
だから命は、たったひとつだから
たいせつにしなきゃいけない

藤田 陽子 8 歳

たったひとつの命をたいせつにしてもらいたいから、この詩に書きました。

第 21 詩

人は生まれたらいつかは死ぬ
永遠の命なんてない
だから毎日を精一杯生きなきゃいけないんだ。

平川 友貴 14 歳

毎日 Enjoy しましょう。

第 22 詩

遠い未来のあなたのもとへ
あの美しい星空や
愛しいたくさんの生命を届けたいから
今日もマイバック持ってお買い物
ゴミも分けて、電気も消して

平川 明子 43 歳

未来の子ども達の幸せを願って。

第 23 詩

昔々の人たちも朝起きれば今日
今日眠って 明日目覚めると もう今日は昨日
ずっと昨日があったようにずっと明日が来ますように

前田 千草 42 歳

長い時間の中の今だけが自分のものなのだと思います。その時間をよりよいものにしたい、よりよい世界になるよう、よりよく生きたいと思います。

第 24 詩

世界各地にある昔からの物語
声、言葉 — 耳で聞くこと
それが時に形となり脈々とつづいている
「ほんとうのこと」も「うその話」も
心にとまれば 得した気分

関口 佐知子 48 歳

「物語」ってすごい、と最近いろんな場面で感じる機会がありました。お坊さんの説話、スナックのママの半生エピソード、そして昔話。人間の脳みそって素晴らしいです。

第 25 詩

2 月 7 日ーきょうは紀君の誕生日。
きみが生まれたまわりにも
物語の輪が広がっている。

古谷 千明 46 歳

私も山梨出身で、星つむぎの歌の事、この回覧がまわってくる前からきいていました。出身地と今生活している西荻と宇宙がつながったような気持ちです。たまたま、今日は三男紀彦の誕生日で、7 才になりました。この 7 年間に語りきれないくらい色々な事があって…大変な事も、子供たちがいたからこそりこえて、また、たくさんのよるこびも味わって生きてます。

第 26 詩

そして どんどん 広がって
もっと もっと 広がって
今も 昔も これからも
ぐんぐん 伸びて びゅんびゅん 飛んで
つながってゆく 宇宙の今へ

宮城 久恵 30 歳

1 人 1 人、1 匹 1 匹、1 個 1 個、それぞれタテヨコ自由に動き回る“生命体”なんだよなー、とおもいながら書きました。個体も時間も空間も混ぜこぜにしてびゅーんと飛んでく地球号、みたいなイメージです。ありがとうございました！



星の33丁目

(松庵小卒業生保護者発)

Takayo ♡ 45 歳

まわりのすべてに ありがとう♡

第 3 詩

生まれたては、香ばしい頭のかおり
顔も手も足も ちゃーんと人型で
今までいっしょにいたのが不思議なくらい

みはと 50 も中バかな
今だ新鮮です。いついつまでもすこやかに育て！！

第 4 詩

十人十色 子どもはそれぞれ違う顔・手・足
1人1人 同じ動きをしても考えることは違う
今、何を考えているのだろう 何をしているのだろう 何を見ているのだろう
自分の価値観は放りなげて 同じ目線に立つ 聴く
きつと新しい発見 幸せなできごとが 待っている

ひみ 24 歳
保育士をやっています。2才担任です。

第 5 詩

The earth is our face to the heavens.
From whom we have received it, we know not.
We bequeath it to our children. Smile!

第 6 詩

顔に仮面をつけ
笑顔の嘘をつく
心にカギをつけ
今日も嘘をつく
ねえ、私は誰？
だあれ

じゃん 17 歳
あなたは今、仮面をつけてませんか？

第 7 詩

うそ、ウソ、嘘、うそだらけ
すると首がこる、肩がこる、年をとる、体が重い
素直に、自然に、リラックスすると体が軽く空を舞う

幸枝 54 歳
年をとる毎に体を軽くしたい。

第 8 詩

今、私の心は どんな心？
素直な自分の心と向き合ってみよう
目の前の人に… 私から 優しさをそそごう
優しさが 人から人へ 伝って
すべての命が尊ばれる世界になりますように

第 9 詩

天昇した戦火の中の星屑達
大きな星になって輝いて欲しい
そして地上の星達の足元を照らして

のんびりさん 更年期！？
尊ばれる命～パレスチナの戦争などを思い出しました。戦火には明るい光を、指導者には、足元をみつめなおしてほしい…。

第 10 詩

澄んだ夜空に瞬く星達
冷たく暗い空の上だけど
大きさも明るさも違うけど
まぶしい光を放っている
皆美しく光り輝いて

おひつじ座 心は 10 代
暗いニュースの多い世の中だけど、夢や希望を持ち続けたい

第 11 詩

地上は時代と共に変貌を
でもあなたたち天空はいつまでも限りない光を放つ
永遠の輝きを地上にも

こまちの母さん 猫年令 9 歳
安定した社会をのぞんで！！

第 12 詩

地上の永遠の輝きを残す為に
木々の緑が、海の生物が、人間の汚した空気を
必死に取り戻そうとしている。
我々人間一人、一人が
その輝きを守らんとする“思い”を…。

年を隠したいババ 55 歳

第 13 詩

緑も生物も人間も
巻きもどせば元は同じ分子…
同じ宇宙の光

夢みるおばさん ひと回りして 1 歳
善・悪の二次元を越えて一次元の世界を夢みましょう！

第 14 詩

時間を巻きもとせたら…。
無邪気に遊ぶ私^がいて
優しい風がふいている
大人も子供も笑っている
流れ星には何をお祈りしてるのだろう

nyari 52 歳

第 15 詩

ある目的を達成しようと思い詰めるより
そこに向かう一日一日の時間が尊いと
思ってる方がよい。

コナン 18 歳
受験にめげずに頑張るぞ！！

第 16 詩

誰にでも平等に与えられる時間
長かったり短かったり感じ方の違う時間
みんなと一緒の楽しい時間
一人で過ごす静かな時間
どの瞬間もキラキラと輝く時間でもありますように

新米着付け師 27 歳

第 17 詩

キラキラと光輝く時間
それはとても充実した時間の証拠
次は、どんな光輝く時間を過ごせるんだろう。

センスのなさすぎるギタリスト 17 歳

第 18 詩

光輝く ゴッホの色彩
苦悩に満ちた画家の人生からのプレゼント
大輪の花に注がれたエネルギーは人々に喜びを与え
人々は「ひまわり」の黄色から元気を貰う
ありがとう！

稔 61 歳
光輝くを受け取り色彩に繋げてみた

第 19 詩

「ありがとう！」の言葉が溢れると
誰もが嬉しい気持ちになるのです
そして、本当はみんな繋がって一つなのだと気付きます。

ひろみ 60 歳
「ありがとう」は魔法の言葉

第 20 詩

何をせずとも 朝が来て
何もせぬのに 春が来る。
人の手借りずに 自ら^{まわ}転る
そんな地球に 生きる幸せ。
有難いと 今朝気がついた。

Never too late

第 21 詩

日だまりに春の訪れ福寿草
漂う優しさ木々の間に
背中押すのは父の声

環 59 歳
天から見守る父を想って

第 22 詩

梅の香り
思い出すのはあの日の道
春が訪れ、未来に向かって歩き出す
思い描くよ笑顔の私
いつかきっとあの場所へ

らっしー 18 歳

第 23 詩

季節が巡った
来年のこの日も同じ場所
同じ私でありますように…

ゆうこ 53 歳

第 24 詩

この宇宙のあなたとそして私に
公平な贈物それは時 だと思うのよ！！
素晴らしい時も、そうでないときも
時の翼^{すべ}を全て『いとおしい』
そんなに思える心を私は持ちたいな。

安西 志保子 72 歳
前者の詩を総括して「時」と、とらえてそれを主軸において作って見ました。

第3詩

お母さんは 空気みたい
いてあたりまえ ないとこまっちゃう
時に暖かく時に涼しく 私たちを守ってくれる

室田 亜美 11 歳
お母さんという言葉をつなげました。お母さんがさみしいときは、私が横にいます。

第4詩

少しずつ 大人へ近づくあなた
笑ったり、怒ったり、知りがったり、知らないふりしたりする心が
ゆれて、ゆれて、倒れそう
でも、倒れない為のくぎを打ってしまったら、
地球も一緒に停まっちゃうかも。

室田 節子 43 歳
“お母さん”という存在から、娘への想いを詩にしてみました。良い事も悪い事も、
いろいろな事を経験して成長していく段階を親としてしっかり見守っていきたく
と思っています。「今」はもう二度と訪れないのだし、必ず、明日は来るのだから！

第5詩

ママあお茶、ママあ虫い〜ママあ靴下あ〜
ママはお茶でも虫でも靴下でもありません
ママはママです。

室田 泰成 47 歳
前の詩より普段の娘達の様子を詩にいたしました。

第6詩

朝、目覚めた時、
大自然の中にいる時、
ジェットコースターに乗る列にならんでいる時、
非日常、非常識というよりは、
もっとずっと、ぼんやりした気持ち。

室田 祐依 13 歳
自分は誰だということを考えたら、自分が誰だとか、どこだとか、いつだとか、
ほとんどわからなくなるような体験が思い浮かびました！

第7詩

宇宙と数字は同じである。
二つとも果てしなく続いている。
どこが終わりか誰もわからない。

室田 恵理 12 歳
パツと思いついたから。

第8詩

私達の人生も果てしない旅のような
ものです。色々な人と出会い、偶然な
形で色々なものに出合えます。
まだ旅の途中ですが、色々なものや人に
これからも遭遇できることが楽しみです。

萱森 友佳理 31 歳
“果てしなく”という部分でつないでみました！

第9詩

宇宙は楽園だ
星が果てしなく続いている
まるで私たちの人生のように

佐藤 梨紗 13 歳
人生が果てしなく続くという部分をつなげてみました。

第10詩

人生はたくさんの道に分かれている
その中の一つの道を
後悔ないように
悔いの残らないように生きている
悩んだときは自分の心を信じて

吉田 実加 13 歳
人生という部分について書いてみました。

第11詩

いつも気づかないけど、あるときふと感じる、そんなものが
あなたにはあるでしょうか
ふんわりと、あたたかい春の風のようなものが、あるでしょうか

岩本 菜々 9 歳
10 詩を見ていたらイメージがうかんできました。

第12詩

まだこんなにも寒いのに
土の中から芽を出した
今年はどんな花を咲かせるの
大きく太った球根は
春のほいをためている

岩本 綾子 44 歳
生命が活動を始める春。土の中ではもう準備が出来ているようです。ぼんやり
庭をみていたら小さな芽がほんの少し顔を出していました。

第13詩

実家で迎えるお正月
母のつくる白みそ雑煮
ゆずの香りは春のにほひ

平田 洋子 46 歳

久しぶりに実家で新年を迎えました。すっかり年をとった両親と育ち盛りの子どもたちと。いいことたくさんありますように！

第14詩

ゆずれないことをゆずる
ゆるせないことをゆるす
ゆったりとときはながれる
ゆきのふるなかを
ゆっくりとあるく

平田 史明 47 歳

ゆうずうむげ ゆずきりでいっぱい

第15詩

雪の夜空を仰ぎ見る
かなたからわれ先に舞いおりる白く淡い光の群れ
降り積もれば確かな光となり夜闇を照らす

平山 りさ 46 歳

前詩から雪景色を思い浮かべました。

第16詩

僕ももうすぐ小学校を卒業。
福岡県という遠くはなれた所にいる
諒君ももうすぐ卒業。
仲良しだった僕と、諒君。
春頃に再会するのを楽しみにしている

山田 貴大 12 歳

第15詩からは、『かなた』を『遠くはなれた』に変えて詩を書きました。僕ととても仲良しだった諒君は、福岡へ引っ越してしまいました。そして、春休みに再会(?)をします。

第17詩

どんなに離れても、時がたっても つながっている。
大丈夫、またあえるよ。
宇宙の命の中で 流れにのって。

山田 正美 43 歳

前詩の「遠くはなれる」、「卒業」、「再会」からイメージしました。次男と、仲良しだった友だち、離れた今も年賀状1枚でもつながっています。卒業を前に無邪気だった息子もお年頃、いっしょに笑ってたかわいい親友君もきっとそんな頃。そろそろ会わせてあげようかな。広い世界の中で宇宙の中で命をもらったら、時はめぐり、遠い過去も現在もずっと先の未来もずっとつながっていく、人も心もつながっている。そこに幸せを感じています。

第18詩

「大丈夫？」
「大丈夫！」
「がんばってね！」
「大丈夫絶対大丈夫！」
大丈夫一言はとっても大切

猿田 結菜 10 歳

2月の試合の時、みんなが応援してくれた事を思い出し、書きました。受けた言葉は「大丈夫」です。

第19詩

この世界に絶対なんてない
この世界は不完全だから
でも、不完全だからこそ、面白い

猿田 朝久 13 歳

100%なんてあるわけないです。でも、だからこそ、面白いのです。完全だとつまらないじゃないですか。

第20詩

それが誕生した時、
小さくてほとんど私の中にあった
どんどん大きく広がって、
宇宙みたいに果てしない
未知なところがちょっぴり寂しいあなたの世界

猿田 多美子 44 歳

子ども達は、とっくに母の殻を破って、どんどん自分の世界を広げています。知らない部分も増えてきて、嬉しいような、寂しいような…。それぞれ、素敵な世界を広げて行ってほしいです！！

第21詩

はじめは小さなつながりから
ともだちのわは どんどん広がっていく
わたしのたいせつな たからもの

鈴木 美香 7 歳

「どんどん大きく広がって」から、小学生になってたくさんおともだちができたことを、しにしてみました。

第22詩

抱きながら頬と頬を重ね合わせ
一緒に過ごした時間は大切なたからもの
これからもあたたかい心の時間を重ねていきたい
かけがえのないあなた達
大切な命

鈴木 知美 35 歳

「つながり」「たいせつなたからもの」から子供達への想いを詩にしてみました。幸せは、自分で見つけるものですし、人によって違うと思いますが、子供がいてほっとする家庭があることが一番ではないでしょうか。我が子を抱いた時の温もり、親子の絆は大切にしていきたいです。

第23詩

わたしと弟は 顔も わらい方も そっくり
いつも いっしょに いるからかな
けんかもするけど ニコッとすると ふしぎに なかなおり

堂前 裕香 7歳

「いつもいっしょにいるのはだれかな?」と思い、大すきな弟のことをしにしてみました。

第24詩

夜空にきらめく 星たちは
みんな金色に輝く不思議な仲間
家族と一緒に 笑っているのか
友達と一緒に はじけているのか
同じ時を生きている 仲間なんだね

堂前 陽子 38歳

前詩の「一緒」と「不思議」から連想し、星と人間の世界をつなげてみました。今、この時代、この場所で生きているから、巡り合い、つながる輪。家族も友達も私にとってなくてはならない、大事な仲間なのです。

第25詩

キラキラひかるシールがすぎ
シールやさんになりたいな
えをかく人にもなりたいた

古賀 りほ子 7歳

「きらめく」から、大すきなシールがおもいうかびました。

第26詩

ひろった木の実や石が たからもの
みがいて 宝石にするのです
ならば母も とともにみがきましょう
石はダイヤモンドにならないけれど
それに夢 いたく あなたの瞳が輝いている

古賀 理夏 39歳

第25詩の「なりたいた」からつなげました。何でもないものから夢を描き、語る子供たち。大人になり忘れていましたが、そんな子供たちの気持ちを大切にあげたいと思います。



第3詩

望遠鏡は

遠い宇宙への近道

今日はどんな世界があるのだろうか

山下 和太郎 12歳

第2詩の「望遠境」という言葉を遠い宇宙の近道と見立て、季節によって変わる星々を楽しみにしているという感じで書きました。

第4詩

宇宙みたい!

丸い棒付キャンデーを うっとりながめていた君

お月さまの声が聞こえた耳

電波が見えた目

今は元気な小学生

山下 有美

子どもたちが、幼稚園のときのつぶやきを思い出してつなげました。夢の世界の住人が、まっとうな事を言うようになり、元気に学校へ行く。たくさん勉強して大人になって何になる?お月さまと追いかけてこしたこと、ふっと思い出せるかな?

第5詩

きのうは お月さま きれいだったねえ

うさぎって どこにベッド、あるんだろう?

狭いのねえ、二人でねえ。

やました けいしろう 7歳(当時6歳) <代筆・母>

現在、小学1年生の子どもが、幼稚園年長の秋に言った(言葉を書き留めていたノートの中から)ことです。お月見のあとのつぶやき。いつも満月のときに「うさぎさん見えた?何してるー?」なんて話していたのです。「二人なのー?」と聞き返したら「そうだよ、昔からそうなんだよ」とキッパリ言った。この自信、いつまでもなくさないで欲しいと思う...

第6詩

月のようは 何に見える?

うさぎに見える!

かにに見える!

黒いかげが いっぱい見える!

白い光が いっぱい見える!

井口 玲 10歳

今年の夏に月の観察をしました。望遠鏡で見た月面には、うさぎの模様もかにの形も見えませんでした。そのかわり、月の山や海には たくさんの黒い陰や明るい光のすじが見えました(父)

第7詩

暗やみの中に1つ光の雲がみえた

いつもは、見えないのにきょうは見えた

ほら あそこに見えるでしょ

井口 唯 8歳

明るい東京の夜空では、めったに見えない星雲。でも雨あがりの空気のすんだ冬の日の夜。見えた、見えた、確かに見えた。お母さんにも見える？母は目が悪いので、そういえば 見えるような 見えないような…（母）

第 8 詩

待ちわびた人ごみで
見つけた君は
誰よりも輝いて
僕の光も
届いたようだ

むとう よしてる

第 9 詩

僕たち一人一人の光
幾年も幾晩も輝いていよう
あの星のように

武藤 有咲 12 歳

第 10 詩

あなたの光 わたしの光 世界中の人たちにも もちろん
光は水槽のメダカちゃんにも日向のネコちゃんにも
名を呼ばれることのない道端の小さな花にも宿っている
みんな大好き みんな大切
ひとつひとつが一番輝けるように 笑顔をつないでいきたいね

武藤 貞江

第 11 詩

にゃんこはニャーとなく
ふわふわ もふもふ なぜたいけれど
用心深くて すぐにげる

むとう みつき 8 歳

第 12 詩

ちがうよ うちのにゃんこは にげないよ
でも よるになると しっぽがふわふわ。
ろうかで うんどうかい。いっぱいはしって
きがすむと そとをみてる。
きょうは 月も星もみえないなあ。

小林 正治 6 歳 <母代筆>

みつくんの詩をよんだら 近くにうちのネコが寄ってきたので。

第 13 詩

ねこが夜に出てきたよ。きょうは雲で星がみえない。
星空 あしたは見えるかな？あしたになるのがまちどおしい。
ねこといっしょに星空をみたいなあ。

小林 正典 9 歳

第 14 詩

今でも見ている、お月様、でも雲で見えない。
星空の星は遠い昔にうまれたというけど、いまでもきれい。
おれんちのねこは、きもちいいとなんでもなすりつける。
おれんちのねこは、ボールを投げるとおいかける。
ボールであそんでいると、外を見て、星を見る。

小林 正亮 10 歳

第 15 詩

遠い昔にうまれた星をみている。
今みているあの星は どの位昔の姿なんだろう。
どこかの星からも 見られているのかしら、ちょっとすましてみる。

小林 めぐみ

うちの屋上（13F 建）から初日の出を見ました。AM6:00 まだまよなか。新宿の高層ビルの向こうが少しずつオレンジがかってきます。でもそこ以外は本当に夜中のよう。オリオン座も北極星も北斗七星もとても遠いのですよね。お正月のキレイな東京の空。日々の私たちの生活なんて一瞬の星のまたたき位の事…なんでしょうね。夜更かし小僧 × 3 と猫をどなりながら 仕上げました…

第 16 詩

昨日、会った君と、今日会った君はちがう。
同じ人だけどちがう。
少しずつ変わっているんだ。
満ちたり、欠けたり。
あのお月さまみたいに。

後藤 瑤子 13 歳

みんな、少しずつ変わっている…というのを、お月さまに例えてみました。でも、私は笑ったり、怒ったり、ころころ変わるので、お月さまの方が大人かも？！（笑）

第 17 詩

あいうえ おつきさま
かきくけ こんにはは
さしすせ そらに

ごとう けいこ 4 歳

「ママー お月さま！」「えーっ お月さまは 夜だよ…」「ううん あそこにはほら…」そうでしたね 屋間のやわらかい青空に白い三ヶ月…雲とは違う、きれいな形を、子どもはすぐにキャッチしていました…スゴイ！

第 18 詩

空の色 雲の模様
月の形 雨と風
それぞれにつけられた美しい名まえ
「今日の空を 見てごらん…」
昔の人からのメッセージ

後藤 智子 40 代

年を重ね、日本語のバリエーションの広さ（？）に魅力を感じるこの頃…それに気付かせてくれたのも、少しずつ、少しずつ、言葉の数を増やしていく、小さな子ども達のお蔭かもしれません。

第 19 詩

きょうの空、
きらきらいよう光ってた
大きく大きくうちゅうの中で。

せき おとは 8 歳

どうして空はきせつによってかわるのだろう？6月には雨がいっぱいふる。たいようのばんはあるのかな？夏はたいようがカンカンにひかる。雨のばんはあるのかな？

第 20 詩

太陽はギラギラ
月はピカピカ
星はキラキラ
「ギラギラ ピカピカ キラキラ」
いろいろなふうに光ってる

関 奏人 9 歳

どうして星は、もえているんだろう？どうして星は明るいんだろう？星には、命があるのかな。うちゅうの次は、なんなんだろう？うちゅうはなぜが、いっぱいあるので、ぼくは、いろいろしりたいです。

第 21 詩

星図盤、懐中電燈、片手に抱え 梯子を登って屋根に登る
「もう 寝なさい」と おこられるまで 見上げた夜空
宇宙の中にすいこまれて 自分も浮かんでいるようだった

関 麻理子 40 歳

星空は不思議です。長い時間ながめていると目がなれてきて 次々と星が見えてくる。私が子どもの時には東京でもかなりたくさん星が見えていました。空が又再びきれいになることがあるのでしょうか。きれいにするために、自分は何ができるかと考えます。

第 22 詩

ゆうやけの
きれいなそらは
ピンク あか
おれんじ きいろ
あお みどり

関 優歌 12 歳

第 23 詩

「つきがおっかけてくるよ」と小さい手が空を指す
自転車が止まると月も動きを止めたので
「つきがとまったよ、しんごうがあかだから」と満足げ

山本 福子 37 歳

第 24 詩

おつきさまには、
うさぎはいるかな？
まんげつのそらだと、
みえるかもね。

山本 こたろう もうすぐ8歳

第 25 詩

じっと おつきさまを みていたら
あっ うさぎさん いまうごいたよ！
うしろのしょうめんだあれ しょうかな？

ひがしで たくや 5 歳

満月を見ていたら、何か動いたような気がしたのですね、「今 うさぎさん 動いたよ」と 何度も言っていました。『うしろのしょうめんだあれ』も 覚えたばかりの頃 逆に止まることが出来ず、鬼役が振り向くのが楽しくて、楽しんでたことを かけあわせてみました。

第 26 詩

知らぬ間に じっと空を見上げ 父を思う
あれも これも 聞いてみて
心 晴れて 床につく
広く 澄んだ 夜空には
何か 特別な力が 散りばめられて

東出 淳子

子どもの頃 落ち込んだり 悲しいとき 夜空をながめて 亡き父に語りかけていた。解決したわけでもないけれど なんだか 気分が軽くなったような気がして 空をながめていたことを 思い出しました。

第 27 詩

さむいよる、キラキラかがやくほしぞらだ
いろんなほしを 見ているよ
いろんなほしも 見ているよ

やすはら こうき 7 歳

冬の空には、きれいな星がたくさん見える。大きい星・小さい星・流れ星・天国にいった星。僕達もお星様をみているけれど、お星様も僕達の事を見守ってくれているんだよね…きつと。ねっ！！

第 28 詩

月の光に導かれ そっと外へ出てみると
あなたも あなたも 眩しいわ
私の知らない未知の世界へ
赤・青・白と共に輝き
みんな みんな 一番星

安原 有紀 30 代

我が子も親から少しずつ離れてゆくが、私の知らない所でも、立派に歩んで行く姿を感じる今日この頃。大事な友達、仲間がいる中で、それぞれの良さを認め合い、自分らしさを大事に進歩して欲しいと願う。

第 29 詩

みんな、みんな、
一ばんぼしならば、
うちゅうからよくよく見える。

とみおか あまね 7 歳

第 30 詩

あなたと過ごす毎日は
天にも昇るし、怒髪天も衝く
何をおいても あなたは私の一番星
40 億年の親子の祈りをつなげたら
宇宙のどこまで届くのか

富岡 由佳子 39 歳

第 31 詩

ねえ、知ってる？
私はいつも寝る前に 祈ってるんだよ
「明日もいい日でありますように」って

富岡 はづき 11 歳
ずっと ずっと 大好きだよ
ずっと ずっと そばにいてね

第 32 詩

寝る時に
毎晩つなぐ
子どもの手
この幸せな あたたかさ
そろそろ 卒業しないとね！

長橋 道子 39 歳
私、子離れできるかしら～！

第 33 詩

手をつないで
みんなともだち
いっしょにあそぼう

ながはし りょうじ 7 歳

第 34 詩

光のような
速いボールを投げられる
そんな手になれ
強い手になれ
オレの手

長橋 俊志 10 歳

第 35 詩

太ようは、どうして光でまぶしくなるのだろう。
ふしぎだな。
いつか、かんざつしてみたいな。

おく村 なぎさ 7 歳

第 36 詩

ほっこり、あったかい、おひさまを 抱っこする
にっこり、ふんわり、おひさまが 笑う
ひざの上の 小さな おひさま
やがて 腕からすり抜け 空へ向かっていく
そのまゑに もっともっと ぎゅつとぎゅつと 抱っこ抱っこ

奥村 晶子
おひさまのように心地よい 小さな子どもとの 今しかない時間を精いっぱい
抱きしめたいものです。

第 37 詩

「抱っこしておんぶしてまた明日」の歌で友だちにサヨナラ
走って帰る家路の途中で 月にみとれて足が止まる
「うさぎがいる」と本気で信じていた あの頃

川上 智子
子供の頃見ていた月を今、子供と一緒にながめる時、「うさぎがいるんだよ」と
言っています。年齢が上がるにつれて 反応が違ってきておもしろいです。

第 38 詩

おつきさまってうしろは、あるのかな。
なんでしろいくもってついてくるのかな。
だれかと、あそびたいのかな。
だれかとおにごっこをしているのかな。
ふしぎだね。

川上 今日子 7 歳
おつきさまをみていたら、「うしろあるのかな。」っおもいます。

第 39 詩

誰かと誰か
つないだ両手が世界を紡ぐ
星に祈りをこめて 夢と希望の未来へ

山下 かずあき 45 歳
前詩の「だれか」をつなぐ事で、この宇宙連詩に参加された、多くの方々の誰かをつないでみました。地域の人達、さらに多くの人達とつながってゆけば、孤独や争いは消え、子供達にとって、将来夢と希望に満ちた世界になると信じています。

第3詩

望遠鏡をのぞいている私は 一人ぼっち
鏡のむこうの人は
私とおしゃべりは してくれない

佐々木 博美 49歳

望遠鏡の先は空なのか星なのか…。でも、相手は飛び魚だったりするかも。それとも気球のパイロット？おしゃべりは手を伸ばしたらにぎり返してくれる距離がいいです。

第4詩

鏡に見えるわたし
思っているのちがうわたしがいる
人から見たらそれがわたし
人は見た目が9割
本当のわたしはわたししか知らない

佐々木 真那 19歳

鏡はわたしの全てをうつしだすもの。しかし、それは見た目だけ。本当の悪いわたしも良いわたしも鏡にはうつらない。人は見た目だけでは長く付き合っていくことはできない。今の時代に足りない人と人の関わりあい。情報システムでしか自分を出せない人。本当に大切なのはわたし・あなたの中身。人は見た目が9割。しかし友達や心を許せる人は中身が9割であると思う。

第5詩

私は私
私は世界にたった一人だけ
みんな世界で、かけがえのない人間

井上 あかり 11歳

自分は1人だけ。似ている人もいるかもしれないけど、それは私ではない。だから、世界でたった1人のみんなは、みんなかけがえのない1人の人間だ！

第6詩

星の数ほどある星の
地球というその星に
星の数ほどいる人間
小さい小さい命だけれど
一生懸命生きている

塚原 悟 50歳

第7詩

小さな小さな星だけど
どこかがピカッと光っている
ぽいっとすてちゃもったいない

原田 拓実 10歳

小さな星は太陽や大きな星より大きくないけれど元気に明るく光かがやいている。人も同じ。どこかが人に負けていても、1つは、いい所を持っているとほくは思います。この連詩でだれか一人でも勇気付けられたらいいなと思います。

第8詩

宝石やさんで 売られているダイヤモンドも
道端に転がる石も
あなたの瞳から落ちる泪も
みんな キラッと光る宇宙のかけら
あなたもわたしの同じ宇宙のかけら

島本 有里子 37歳

自分が目にするもの全て、そして自分自身も宇宙の“物質”の一部なんだ、と思うと宇宙の胎内にいるような、宇宙に見守られているような不思議な気分になります。いろんな人、様々な生き物、硬い物、やわらかい物、すべて宇宙の産物…。

第9詩

阿佐ヶ谷のスタバの看板が
キラッと光ったとき
中央線が銀河の方へ走っていった。

泉 麻人 52歳

中央線の高架線の景色に時折“宇宙”を感じることがあります。内田百閒の幻想モノっぽい方向へふくらませてみました。

第10詩

中央線がとうちゃくした。
スターバックス星にとうちゃくした。
コーヒーをのみながら
あっちからこっちをながめたら
地球はまん丸だった。

手塚 一樹 10歳

話のつづきを考えてみました。

第11詩

まん丸な地球の上に
まん丸な次女の顔。
そこにもたしかに、宇宙はある。

石垣 玲子 46歳

子どもたちの小さな身体の中に広大無辺を感じるとき、自分の小ささ、非力を思い、同時に、子どもたちの背後に希望を見ます。

第12詩

手をつなぎ 輪をつくり
丸い星座盤を空にかざす娘たちよ。
今夜「しぶんぎ座流星群」を待つ娘たちよ。
「自分義流」を みつけてほしい。
冷たく澄んだ宇宙の中に。

床嶋 博子 49歳

雇用不安のニュースが流れる中、中一の娘は冬休みの宿題「職業調べ」に行き詰っている。ダイナミックに動く線と点ではない面を感じさせてくれる冬の星座が好きだ。1月3日から4日にかけて、毛布をかぶって流星を待とう。風邪をひいてもいいじゃないか。冬休みなんだから。宿題は「とりあえず」でいいよ。

第 13 詩

幼い頃、心ワクワクしながら見たお星様。
大人になるにつれ、忘れていく
あのお星様を見る心

中根 ひとみ 28 歳

子供は、見る物すべて、素直で純粋な気持ちで見ているけれど、大人になるにつれて、その素直な目線で物を見れなくなってしまっても、ふと星を見て、子供の頃の純粋な気持ちに戻る事が、大切だと思い書きました。子供の頃は、星を見ながらいろんな夢などを抱き、楽しく見ていた自分を思い出しました。いくつになっても、その時の気持ちを持ち続けていきたいです。

第 14 詩

夜空に散る沢山の星の中で
一番輝いてる星をいつも見ていた
今も昔もたった一つ一番輝いてる星だけを見ていた
今日見る星も 明日見る星も 明後日見る星も
一番輝いてる星を見続けていたいなあ…

中根 純一 31 歳

一番輝いてる星は『人、それぞれ』大切な人だったり大切な夢だったり…大人も子供も真っ直ぐな気持ちは、いつまでも変わらないと自分は思います。

第 15 詩

大きく輝いている星と
小さく頑張って輝く星。
どんな小さな輝きもやさしく見守ってあげよう。

田中 亜里沙 19 歳

いつも大きく輝いている人でも、たまにはちょっと落ち込むこともある。そんな人を見つけたら、そっと力になってあげたいと思います。

第 16 詩

頑張れば届くかな？
あの大きく輝く星に
すぐには つかめない…
だけど いつも心にはあの大きく輝く星。
きっと届くよ。いつも心にあの星があれば。

田中 まみ 41 歳

「思えば夢は叶う…」私の大好きな言葉です。その気持ちを込めて書きました。夢があれば、それに向かって頑張れる。いつもキラキラしていられると思います。子供の頃はたくさんあった夢は、大人になるたびに少なくなってしまう。だけどいくつになっても、いつもキラキラしていたいものです。子供たちは夢を持ってキラキラ輝きながら素敵な大人になって欲しいと願っています。

第 17 詩

無限に広がる夜空
誰もが輝く
大切な一番星

春海 由美子 44 歳

すべての人は、大切な存在だと思います。「ふっ」と見上げた空に一番星を見つけた時は、心がワクワクします。明日も頑張ろう！

第 18 詩

大切なアナタへ
ステキな言葉や カッコいい言い回しで
自分の気持ちを表現したいけれど
1 番伝えたいことは いつもシンプル
ありがとう、大好き

中村 友紀 23 歳

今まで出会った人、これから出会う人 いつも素直にありがとうと言えたらなと思います。

第 19 詩

今日まで出会った全てのの人に
今日から出会う全てのの人に
一番一番伝えたい…“ありがとう！！”

丹野 由美 37 歳

実行委員長として、この日本初…いや世界初…いや宇宙初の企画に関わる事が出来た事を幸せに幸せに思っています。協力して下さった全ての方への感謝の気持ちを詩にしました。



末筆になりますが、この冊子を作るにあたり入力・校正などのご協力をいただきましたみなさま、イラスト担当のスギヤマさん、デザイン担当のせきねさん、ありがとうございました。

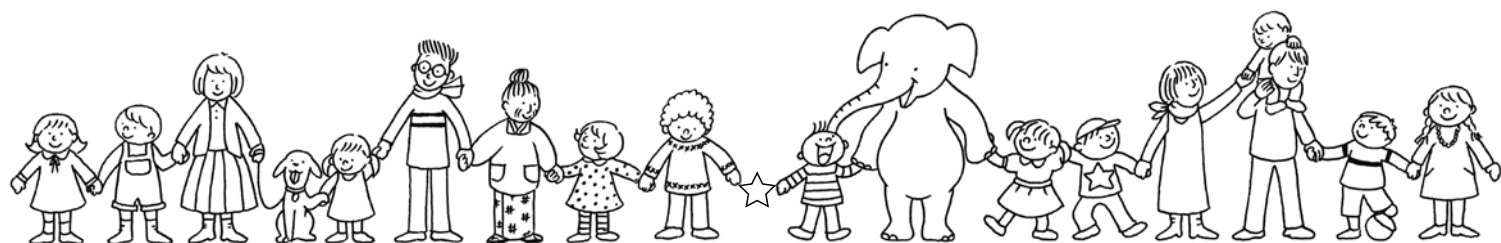
冊子および、地域をまわった回覧板の表紙のイラストは、「森羅万象、生きとし生けるものは全て皆つながっている…」ということを表現しています。イラストは10種類あり、回覧板を広げて並べるとイラスト全てが手をつなぎ、つながるようになっています。

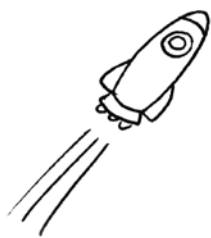
杉並区立科学館館長・渡邊昇さま、宇宙航空研究開発機構（JAXA）・山中勉さまのおかげで、みんなでつむいだ命の輝きのメッセージが宇宙に届けられます。

心より感謝し御礼申し上げます。

この企画に関わった全ての人々の希望が、これからつながる未来の命へと受け継がれていく事を願って…。

子育てシンポジウム「星の回覧版」実行委員一同





松庵発 宇宙連詩「星の回覧板」

.....

平成 21 年 3 月 15 日発行

発行者 松庵小地域子育てシンポジウム実行委員会

編集 実行委員会事務局

丹野由美 花井香 源関淳子 松庵児童館

デザイン せきね めぐみ

イラスト スギヤマ カナヨ

.....

お問い合わせ 松庵児童館 03-3334-0067

連詩の知的財産権は JAXA に帰属します。無断転載・複写を禁じます。